

平成29年度 ふじのくに未来財団助成事業

静岡トヨタ自動車（株） ハイブリッド基金助成事業

ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言 報告書



静岡福祉文化を考える会

は じ め に

ささえあう地域ぐるみの“居場所”とはなにか

本会の活動の原点は、(1) 如何にして、専門性と市民性を融合していくことが出来るか(2) 会員だけの求心的・閉鎖的活動から、市民の立場で、広く公開型の議論の場の機会を創ることができるか(3) 地域社会で浮き彫りになった福祉課題を改善・解決につなげる活動としてどのように展開できるかをもとに、結成以来、22年間福祉文化実践活動に取り組んできました。平成28年度の活動として取り組んできました「ご近所福祉」の活動から、浮き彫りになりました「いかに、福祉コミュニティを再構築するか」の課題をもとに、平成29年度の活動のテーマ「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業—ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言」を具体化しました。今日、社会全体が「公助」又は「専門領域」により地域づくりは成し得ている意識が強いと感じています。さらには、地域の担い手は、一体誰かを考える時期にも来ています。「共助」による、市民主体の地域活動はいかにあるべきか問い質しながら、弱体化した家庭機能を「地域がいかに、家庭機能化していくことができるか」を地域全体で考えていかなければなりません。

具体的な地域課題の一つに、「居場所」があります。「真の居場所」は本来家庭にあるはずです。今日、県内各地で、福祉問題解決に向けた各論的「居場所」が多く誕生しています。

「福祉課題別居場所」(高齢者対象、障害者対象、子育て対象、青少年対象等)から、これからは、コミュニティそのものの機能を発揮して「地域ぐるみの居場所」の取り組みはできないか、そのためには、どのような運営主体、環境整備が求められてくるか等を本会活動として、今年度は、広く「ワークショップ」を通じて議論を積み重ねてきました。

改めて、「地域ぐるみの居場所」とは何かをこのたびの事業展開では「調査研究活動」、「公開型研修会」「居場所活動検証訪問活動」そして「共創社会研究会」の設置と議論等の各活動展開を通して、これからの福祉コミュニティ活動について考察をしてまいりました。

このたびの事業は、「ふじのくに未来財団助成事業」「静岡トヨタ自動車(株)ハイブリッド基金助成事業」を受けて取組むことが出来ました。

ここに、ご理解とご支援をいただきましたことにつきまして厚くお礼申し上げます。

また、広く各領域から議論していただくために設置いたしました「共創社会研究会」の委員にご承諾の上、ご参画いただきました皆様方、調査研究活動に精力的に、データ入力分析作業を担当していただきました、常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」会員有志の皆様にご感謝申し上げます。

本事業報告書が、これからの福祉コミュニティづくりの一助になれば幸いです。

静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚

平成29年度
ふじのくに未来財団助成事業 静岡トヨタ自動車(株)ハイブリット基金助成事業

ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくり提言報告書

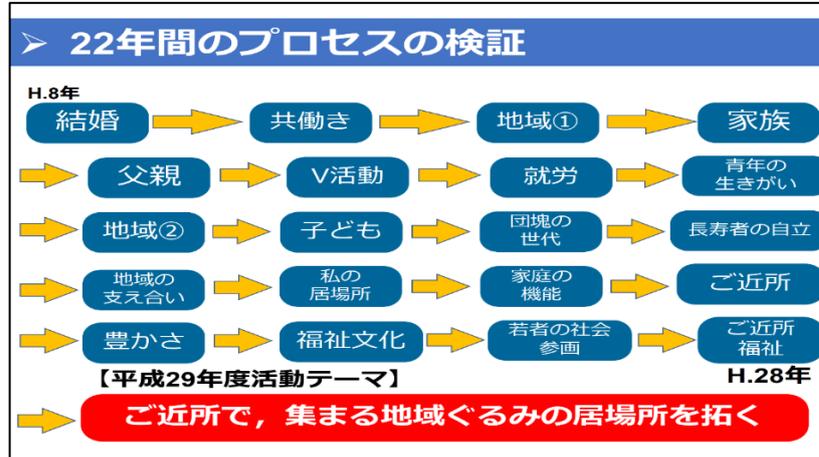
∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ 目 次 ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

はじめに	ささえあう地域ぐるみの“居場所”とはなにか	1 P
目次		2 P
第1章	事業取り組みの背景と組み立て	3 P
第2章	「共創社会研究会」の論議から	4 P
第3章	住民参加型「公開型研修会」からの提言	P
	1 企画意図	
	2 地域総合型学習会からの考察	
第4章	「ささえあう地域の居場所」実践検証からの学び	P
第5章	「居場所ってなに その意識と実態調査」結果から見えたもの	6
	1 調査の概要	
	調査実施意図／調査方法／調査項目／調査対象／協力機関・団体	
	2 調査結果と考察	
第6章	福祉コミュニティ再構築に向けた提言	4 P
第7章	資料編	30 P
	(1) 経過記録	7 P
	(2) 事業実施計画	4 P
	(3) 共創社会研究会設置要綱(委員名簿)	1 P
	(4) 調査実施要項	2 P
	(5) 調査票	2 P
	(6) 公開型研修会要項	4 P
	(7) 本会機関紙『Our Life』	6 P
	(8) 静岡福祉文化を考える会22年の歩み	3 P
	(9) 静岡福祉文化を考える会規約	1 P

第1章 事業取り組みの背景と組み立て

1. 本事業取り組みの背景

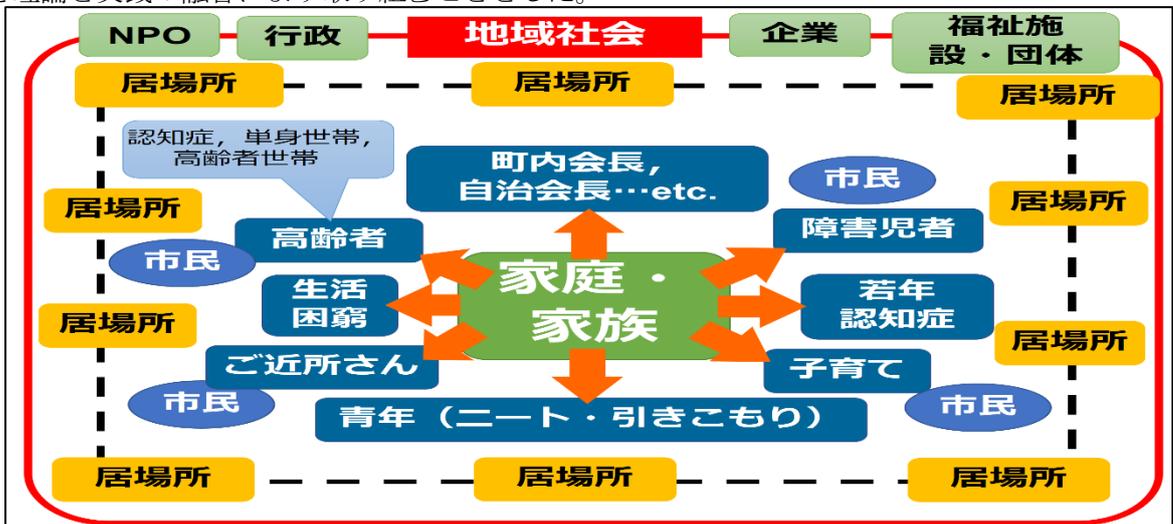
本事業の取り組みは、本会が22年間にわたり取り組んできた福祉文化実践活動の延線上にある。



ここに来て、今日、地域社会全体が「公助」「専門性」による地域づくりに委ねている意識が強くなってきているように感じる。これまで尊ばれた「互助」「共助」は一体どこに行ってしまったのだろうかと危惧する。地域の担い手は一体誰か、果たして、制度のもとに地域社会は構築されているかをこの時期にしっかりと検証することが必要にもなってきた。

複雑多様化した社会環境の中であって、「家庭機能」も希薄化・弱体化し、様々な福祉課題が今日私たちの地域社会に投げかけられている。地域社会には、いろいろな人が住んで当たり前、その当たりの地域社会は、家庭機能が確立してこそ、福祉コミュニティは維持されていく。しかし、「家庭機能」を維持できない地域社会を今私たちの身近な地域社会にあるとすれば、せめて「地域社会の中でささえあう仕組み」が求められてくる。

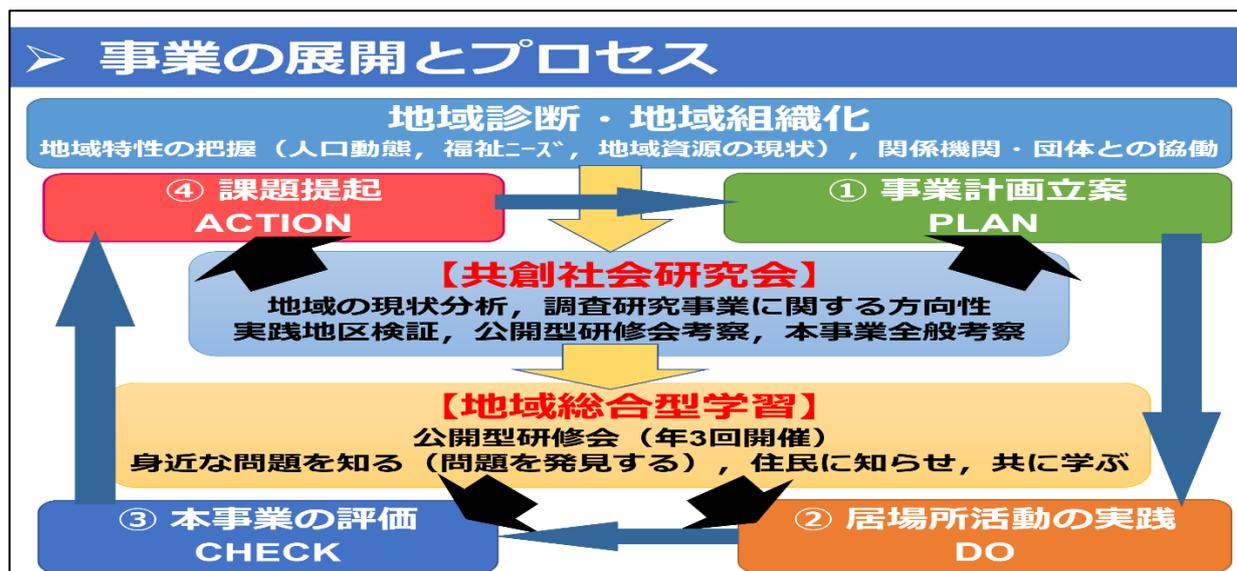
よく、問われている「地域をいかに家庭化機能を有する仕組みにつくりあげていくか」をこの機会に、検証しようとして、事業が動いた。そして、顔の見えるご近所に、また気の合うお隣さんや趣味を共にする仲間が気兼ねなく集まる「居場所」はいかにして創りあげることが出来るかを理論と実践の融合により取り組むこととした。



2. 本事業の組み立て

今日、県内各地で、福祉問題解決課題別に、高齢者対象、認知症を理解し合う関係者対象、障害児者対象、子育て対象、青少年対象、子ども対象、世代交流対象等多様な形で「居場所」に取り組んでいる。こうした「居場所」の取り組みについて、最近では、運営上の課題をはじめ、誰が取り組むべきか、協働の取り組みは出来ないのか等様々な議論も一方では出ている。

本事業では、こうした運営の主体性、取り巻く環境整備、協働のあり方等、「居場所」を取り巻く様々な諸問題をもとに、今一度「居場所の原点」を県民と共に検証しようと取り組むこととした。



① 事業計画立案（PLAN）

- 啓発計画事業「居場所を拓く」
- 調査研究事業「居場所ってなに？ その意識と実態調査」
- 居場所活動検証訪問事業（7地域）

② 居場所活動の実践（DO）

- 裾野市、沼津市、焼津市（2地区）、藤枝市、菊川市、掛川市の7地区に散り、訪問検証

③ 本事業の評価（CHECK）

- 本会委員会等で事業の発展性協議

④ 課題提起（ACTION）

- 県民への広報啓発「マスコミへの情報提供」「県内市町の研修会への情報提供」
- 本会機関紙『Our Life』にて課題提起（年5回、300部発行）

（1）専門性と市民性の融合による「共創社会研究会」の開催

「静岡福祉文化を考える会」が、平成29年度の活動テーマ「福祉コミュニティ再構築に向けた県民意識と実態把握事業—ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言—」を活動テーマに取り組むに当たり、これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、既存の「居場所」の現状把握と、課題を浮き彫りにし、問題提起を持ち、県民の意識と実態どうかを把握し、これからの福祉コミュニティのあり方を問い質す機会を創り、これからの地域づくりに求められる「真の居場所」（地域で人々がささえあう）を問うとともに、「地域の担い手」を検証し、「いかにして、共創社

会を実現していくか」を議論する目的で、地区実践活動者、社会福祉協議会領域、コミュニティ（自治会）領域、本会会員、若者領域等、世代・領域を超えた構成 16 名で構成した。開催時期は、第 1 回（9/9）、第 2 回（11/11）、第 3 回（1/13）、第 4 回（3/4）の 4 回開催。主な協議内容は、①研究会の位置づけと方向性、地域の現状、課題 ②調査実施、調査実施要項、調査個票、調査実施、調査結果考察 ③実践地区検証（7 地区）④公開型研修会結果考察 ⑤事業全般考察（提言）を研究協議をした。

（２）“居場所”を取り巻く地域環境に関する調査の実施

平成 29 年度は、昨年度の「ご近所福祉」から浮き彫りになった、福祉コミュニティの再構築につなぐ課題として「居場所」を切り口に、『居場所ってなに？ その意識と実態調査』の実施した。これまでの調査研究活動を振り返ると

- 平成 09 年度 ①「共働きに関する調査」
- 平成 10 年度 ②「私たちにとって、地域とは何かーその 1ー意識と実態調査」
- 平成 11 年度 ③「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 平成 12 年度 ④「父親に関する調査」
- 平成 13 年度 ⑤「ボランティア活動実践者意識調査」
- 平成 14 年度 ⑥「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 平成 15 年度 ⑦「青少年の生きがいに関する調査」
- 平成 16 年度 ⑧「地域とは何かーその 2ー意識と実態調査」
- 平成 17 年度 ⑨「子どもと社会環境に関する調査」（継続調査）
- 平成 18 年度 ⑩「子どもと社会環境に関する調査」（総括）
- 平成 19 年度 ⑪「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 平成 20 年度 ⑫「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」（静岡県共同募金会助成事業）
⑬「日常生活と福祉情報に関する意識調査」（静岡県委託事業）
- 平成 21 年度 ⑭「長寿社会に関する県民意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 平成 22 年度 ⑮「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え
合いとはなにか本音に迫る調査」（静岡県委託事業）
- 平成 23 年度 ⑯「地域と私の居場所その意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 平成 24 年度 ⑰「家族ってなに その意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 平成 25 年度 ⑱「長寿者とつながる ホッとすぐ近所づくりその意識と実態調査」
静岡県委託事業）
- 平成 26 年度 ⑲「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 平成 27 年度 ⑳「若者の地域参加その意識と実態調査」
- 平成 28 年度 ㉑「ご近所福祉その意識と実態調査」

と、「21 のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。

*調査項目は、(1)基本属性、(2)住民の生活状況、(3)地域との関わりの意識、(4)地域との関わりの実態、(5)地域を取り巻く望ましい生活環境、(6)地域の意識・実態、(7)提言（自由意見）の 7 項目とする。細部は「共創社会研究会」で具体化した。

*調査の展開 (1)調査実施期間（9 月～10 月）(2)入力期間（10 月～11 月）(3)分析・考察（12 月～1 月）(4)公表（2 月）

*協 力 若者発“居場所”あり方研究会 共創社会研究会

*対象 静岡県内の10代以上の県民対象（年代・世代・領域等を考慮）に約1,000名程度

*調査依頼／配布方法

(1) 会員（現在24名）(2) 若者“居場所”あり方研究会 (3) 関係団体 (4) 企業

(3) 市民主体の公開型研修会から“居場所”を検証

できる限り、小地域の生活圏域で地域の課題解決に向けた話し合いの場を創り「生活圏域の地域での福祉文化論議（生活会議）」の取り組みを「ご近所福祉と地域ぐるみの居場所」と置き換えて、自由に県民が参加できる「公開型研修会」を開催した。

*第1回 9月30日（土）13:30 静岡市葵区駿府町 県総合社会福祉会館601会議室

研修テーマ：ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりを拓く

①基調報告 ②実践活動に学ぶ ③ワークショップ

*第2回 11月25日（土）13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」

（「第16回静岡県福祉文化研究セミナー」として開催）

研修テーマ：『静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所』

① 基調報告 その1「福祉文化研究セミナー16年を探る」

② 基調報告 その2「地域の居場所 その意識と実態を探る」

③ ワークショップ「ほっとする私の地域 ほっとする私の居場所を創る」

*第3回 3月4日（日）13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」

研修テーマ：『今なぜ居場所か』

① 基調報告①「居場所ってなにその意識と実態調査」から見えたもの

②基調報告②「地域ぐるみの居場所をめざす」

③グループワーク「一人でも安心して暮らせる地域づくりを考える」

(4) 地域を拓く“居場所活動”を訪問検証

本事業「居場所実践活動検証訪問」は、「共創社会研究会の設置及び研究協議」「公開型研修会による検証研修」「居場所ってなにその意識と実態調査」とそれぞれ連動させて、実社会における現状を把握し、これからの地域社会に向けた課題提起を考察することをねらいとしている。今日、「真の居場所」は、本来家庭にあるはずであるが、弱体化した家庭機能を地域がいかに家庭機能化していくことができるか、とりわけ、各地で様々な地域課題をもとに取り組みされている「居場所」のこれを実践活動の現場研修から、研修の視点を

(1) 最近開所した県内6地区の居場所を実践検証する。

①東部（住民とコミュニティ組織が協働での取り組み）

②東部（自宅解放型から地域活性化に向けた取り組み）

③中部（町内会・自治会を基盤とした取り組み）

④中部（当事者の視点からの取り組み）

⑤中部（施設機能の社会化の取り組み）

⑥西部（障害者支援と地域拠点の取組み）

⑦西部（居場所立ち上げ検討協議の取組み）

(2) プロセスを重視した検証をする。（開設に至る思い）

(3) 地域課題解決に向けた取組みの現状と課題・提言

等をもとに検証した。

第2章 「共創社会研究会」の論点から

「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業—ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言—」を活動テーマに取り組むに当たり、これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、既存の「居場所」の現状把握と課題を浮き彫りにし、果たして、「居場所」の存在について県民の意識と実態はどうかを検証するため、地区実践活動者領域、社会福祉協議会領域、コミュニティ（自治会）領域、本会会員領域そして若者領域から、16名の委員による「共創社会研究会」を設置し、事業実施時期中4回開催した。

*第1回 9月 9日（土）13:30 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室 14:00

協議事項 (1) 事業経過報告 (2) 事業の取り組み／①共創社会研究会の設置について
②調査研究事業について ③実践地区活動検証について (3) 意見交換

*第2回 11月11日（土）13:30 静岡県総合社会福祉会館 102 会議室

協議事項 (1) 全般経過報告 (2) 第1回研究会報告 (3) 調査研究事業の取り組みについて
(4) 公開型研修会考察について (5) 実践地区訪問計画について (6) 意見交換

*第3回 1月13日（土）13:30 静岡県総合社会福祉会館 104 会議室

協議事項 (1) 全般経過報告 (2) 第2回研究会報告 (3) 調査研究事業概要報告
(4) 実践地区検証研修経過説明 (5) 第16回福祉文化研究セミナー報告
(6) 各種報告書の作成について

*第4回 3月10日（土）13:30 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室

協議事項 (1) 全般経過報告 (2) 第3回研究会報告 (3) 事業総括（意見交換）

共創社会研究会委員の意見集約

これまでの「共創社会研究会」において、各事業の経過報告・説明を受けて、それぞれの立場で、その都度、各事業の実践状況や展開に対して、各委員から建設的な議論を積み重ねた。

今後、各地域における実践活動の活性化に向けて、課題提起・提言としてそれぞれの意見を項目ごとに集約をした。

A 居場所の原点とこれからを探る

- (1) 古くて新しい「居場所」論議 ノンマンアルの取り組みの有無
- (2) 排他的にしない、集める居場所から集まる居場所への努力
- (3) 居場所運営の財源確保（補助金・応能な負担・助成金活用）
- (4) 居場所運営における地域資源の開拓
- (5) 既存の居場所から、これから必要な居場所をつくる
- (6) 普段の人間関係を維持するためには自主的な居場所が必要
- (7) 対等な関係の居場所づくりと利用者主体の居場所環境整備
- (8) 食事を入れた居場所の工夫
- (9) 社会の動きに、対応した取組みを検討 地域の「居場所」をいかにつなぐか、その役割を

誰が出来るか（総合的コーディネート機能の確立）

- (10) 一人ひとりが「真の居場所」をもっているか確認することが必要
- (11) 「語れる環境」を創るために、居場所づくり
- (12) 趣味をもとに、人々をつなぐ居場所
- (13) 男性の社会参加をいかに引き出すか
- (14) 「共創の福祉」に「居場所」があり、本来持っている自分たちの力で社会を創造の世界, 現実をしっかりと受け止め、アイデアを出し合う.
- (15) 今日の地域課題は、「居場所」がキーワード

B 協働

- (1) 社会教育と社会福祉の「融合」
- (2) 地域の連帯の必要性
- (3) 社協、行政、自治会等との協働のあり方が問われている
これからの社協のあり方は、いかに課題解決に向けて、住民主体にきめ細かく取り組むか、いかにつなげていくかである
- (4) 施設の社会化の視点（機能・運営・問題・処遇）
- (5) 近隣地域との連携
- (6) 今の時代、運営から経営感覚の保持が求められている
- (7) 企業と地域社会（自治会）の共生＝企業の社会貢献
- (8) 当たり前のことを当たり前出来る社会を維持

C 地域社会を診断する

- (1) 多様なニーズがあって当たり前の社会
当事者による問題提起、いかにコミュニティとの協働で解決できるか
- (2) 地域の診断と問題解決 地域性を活かした居場所の取り組みと仕組み（組織化）
- (3) で、住民は、いろいろなニーズを抱えている現実の社会

D 福祉社会の構築

- (1) 福祉あつての防災，災害に強いコミュニティ組織は「福祉」が中心
災害ありきではなく，福祉の基盤を作つて防災あり．日常の暮らしの中でお互いに関わりながら防災につなげる
- (2) 非営利の福祉→生産性の福祉への発想の転換． 「福祉文化」の原点と実感
- (3) 既存の考え方だけでは発展性がない 制度を生み出す仕組みづくり
- (4) 地域社会が個人志向傾向にある 住民の意識改革の必要性
- (5) 結果論ではなく，プロセスを重要、価値観の交換（共有）
- (6) いかに、コミュニティ活動に関心と参画を呼び掛けるか
- (7) お互い（認知症も）を認め合う チャンスを与える社会の構築が課題

- (8) 多様な選択肢を持てる地域社会の構築
- (9) 地域総合型学習の場を設ける
学び合うことがいかに必要か ⇒共創の教育 みんなで知恵を出し合い創る
- (10) ノーマライゼーションの社会を創る ニーズを知る 知らない人も巻き込む

E 地域コミュニティの組織運営

- (1) 「地域を福祉化」市民の立場で地域をいかに構築するか
専門家がコーディネートしていく時代を迎えているが専門性と市民性の「融合」によりいかにして「共助の時代」を再構築していくか.
- (2) 専門性と多様性を持つ様々な市民領域（包括．主婦，学生，施設職員，大学職員等）を融合する組織化
- (3) 公助ありきの社会環境になった 地域の自立の上に立った活動
- (4) 自治会長とは（「任務の多様化」「継続事業の理解」「状況把握」「任期と一貫性」）
- (5) 地域リーダーとは（「資質の向上」「役割」「意識改革」）周辺のことを理解し合う
- (6) 人財発掘
- (7) 影響力のある人（実践者）が思いを伝える（形にする）ことが大切

F 若者の地域参加

- (1) 若者の地域参加の消極的傾向へのアプローチ
誰もが地域の担い手，その中で地域が創られている.
- (2) 若い世代の世帯が集まる居場所．若い世代の世帯が通える居場所を考える
- (3) 若者として、何ができるか視野を広げていく努力
- (4) 地域全体で、若者の地域参加を呼びかけていかなければならない
- (5) 大人社会が若者に歩み寄り（若者を理解する）、呼び掛け能力（若者が地域を理解できる情報発信を考える）や、調整力（コミュニケーション力の向上・地域のコーディネート力）を高め、出番の機会と役割を明示

G 情報の共有

- (1) 情報収集・提供の工夫
- (2) 情報の共有で「語れる環境」をいかに創りだすか
- (3) 地域内に「ネットワーク」化（NPO，福祉施設、専門機関、自治会・町内会、居酒屋等）
「地域が見える化」していく努力

第3章 住民参加型「公開型研修会」からの提言

1. 企画意図

本事業に地域総合型学習として「公開型研修会」を位置付けた。

本事業の「居場所」の論議は、専門性の視点ではなく、あくまでも、市民性をもとに、生活者の視点で、住民は何を望んでいるのか、地域環境はいかにあるべきかを市民一人ひとりの立場から事業実施期間中の2つの研修会から考察することとした。

「地域総合型学習」の手法は「ワークショップ」の展開をもとに、「KJ法」により、参加者同士が「語れる環境」を生み出せるように「アイスブレイク」のプログラムを導入した。

➤ 「ワークショップ」ってなに？

1. 先生はいない ➡ **参加者全員が主役**
2. お客さんもいない ➡ **地域住民として参画**
3. 初めから決まった答えはない
➡ **お互いの意見を認め合う努力（共有）**
4. アイディアを思う存分出し合う場所
➡ **実現可能な努力につなげる（否定はしない）**
5. 交流し合う機会 ➡ **日頃の地域活動を検証し合う**



“KJ法ってなに？”～本事業で展開したプロセス～

- (1) 一人ひとりが保有している個々の考え方、発想を集団技法（グループワーク）で共有する中で、ありのままに捉え、その中に存在する関係の仕組みを明らかにし、解決方法を発見する。
- (2) ここでは、決して出た意見を否定したりしないで、受け入れていく努力、他者の考えや存在を認め合い、グループ相互の連帯感を高め合う。
- (3) 演習の手順
 - ① アイスブレイク（関係づくり、自己紹介、ジャンケンゲーム…etc.）
 - ② 与えられた課題を整理する
 - ③ 「カードづくり」…自分の思いを短文で表現する
 - ④ 「グルーピング」…出されたカードを同じ内容ごとにまとめる
 - ⑤ 「表札／見出し」…「グルーピング」したものにふさわしい見出しをつける
 - ⑥ 「図表化」……メンバーのアイディアで関係構造を明らかにしながら図表化
 - ⑦ 「発表」……全体を共有化する（2分以内で発表）

2. 地域総合型学習会からの考察

(1) 第1回公開型研修会

平成29年9月30日 静岡県総合社会福祉会館 6階 602会議室 40名参加

- * 研修テーマ：ささえあう地域ぐるみの“居場所”を拓く
どのような居場所であれば行ってみたいか

- 1 居場所の条件
(交通の便, 歩いての距離, 夜型, 参加費, 自宅に近い, 自然発生的)
- 2 語れる環境 (自由性, 気軽さ, 楽しさ, 対等)
- 3 誰でも参加できる場所 (世代間交流, 子どもの声が聞こえる, 新しい人も)
- 4 プログラム内容
(健康体操, 防災講座, 趣味特技, あまりプログラムを重視しない, 終日)
- 5 食育環境 (居酒屋, 持ち寄り)
- 6 参加者の役割, 関係づくり (お客さんでない)
- 7 生きがい, 癒し (特技披露, 野菜の栽培・収穫, 歌声喫茶)
- 8 地域の情報 (語れる環境, 地域を語る, 地域を知る)
- 9 ふれあい交流 (子どもの交流, 話し相手のいる場所)
- 10 趣味を共有

(2) 第2回公開型研修会 (第16回福祉文化研究セミナー)

平成29年11月25日(土) 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」 30名参加

- * 研修テーマ：静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所
地域で支え合い, 共に暮らし合う地域に, どのような“居場所”があればよいか

- 1 経費は, お互いに気兼ねない応能な負担
- 2 自由 (仲間と趣味を楽しむ)
- 3 趣味, 出会い, 生きがい
- 4 役割・価値観 (お互いに認め合う, 自分も役に立っている存在感)
- 5 会話・笑顔 (雑談が出来る, 人を批判しない)
- 6 対等な関係 (ボランティアをつくらない)
- 7 情報の共有 (身近な地域の情報が得られる)
- 8 プログラム (プログラムは要らない)
- 9 移動が容易 (自宅の周辺にある)
- 10 雰囲気 (気兼ねしない, 周囲に気を遣わない)
- 11 教育との連携 (学校教育との連携)
- 12 個人の尊重 (干渉しない)
- 13 企業との連携
- 14 子ども・若者の居場所 (学習支援, 出入りが自由)
- 15 コミュニケーション (傾聴ボランティア, 気兼ねなく, お互いを干渉しない)
- 16 食育 (持ち寄り, 栽培のアドバイザー)
- 17 温かさ (いつでも気軽に寄れる所)
- 18 一人暮らし高齢者 (日中一人暮らし)

第4章

「ささえあう地域の居場所」実践検証からの学び

1. 検証意図

既に、「居場所」活動は、昭和60年代前後から、高齢社会到来に向けて、いかに福祉活動に取り組むか論議される中主に、高齢者の孤立・孤独防止中心とした実践活動が各地で展開されている。こうした地域社会の動きの中で「居場所」の取り組みが広がってきた。

その後、今日では、「居場所」は、多様な福祉課題解決に向けて各地で取り組まれ路用になった。本事業では、ここ2年間に、住民主体の基に、これまでの既成概念にとらわれない、「居場所」を開所し、新たな地域福祉課題解決に向けて、取り組んでいる「居場所」を「施設機能」

「空家空間機能」「団地コミュニティ機能」「地域資源の有効活用」「コミュニティ組織基盤機能」「地域ニーズ把握機能」等の領域的観点から訪問検証した。具体的な視点として、

- (1) 福祉施設機能の社会化としての視点で取り組む
 - (2) 共生社会実現に向けて地域コミュニティとの融合を障がい者支援を視点に取り組む
 - (3) 集合住宅における自治会組織中心に取り組む
 - (4) 自宅解放と地域コミュニティとの融合を視点として取り組む
 - (5) 自治会・町内会組織を基盤として取り組む
 - (6) 当事者組織から地域に問題提起をしながら取り組む
 - (7) これから立ち上げようと各領域と連携をはかろうとする取り組み
- の7つの領域にわたり、本事業の理解をいただき検証訪問をして考察をした。

2. 実践検証からの考察

A 施設機能の地域開放・専門性と市民性の協働

- (1) 共生社会の創造に向け、いかに地域住民に「見える化」していくか。
- (2) 介護事業、企業のイメージを変えていくためのアイデアを創出している。
- (3) 単に「居場所」の定義のもとに、取り組むだけでなく、日常生活に密着した「食」をもとに、地域住民に発信している。
- (4) 専門性と地域資源の有効活用。
- (5) ある程度「経営感覚」をベースに取り組む。根底には「企業感覚」がある。
その上で、福祉理念を確立していく努力がうかがえる。

B 障がい者との共生社会の構築・NPO法人の取り組み・空家開拓

- (1) 長年、福祉領域に従事されてきた関係者が、新たに市民主体の視点で、障害者の地域参加をより具体的に推進し、「共生社会実現」に向け、実社会に拠点を構築し大義は大きい。
- (2) 理論と実践をいかに融合していくかを、市民の立場に立って、専門性につなぐ実践活動の展開は、地域社会に共感関係を深めていく可能性は高い。
- (3) いかに、「居場所」運営を維持していくかは、「人的総合的コーディネーター機能」は確立している中で、当面「拠点整備」「運営資金」の課題改善の取り組みに期待したい。

C 集合住宅地（団地）内の居場所立ち上げ・民生委員活動・生活支援コーディネーター機能

- (1)自治会、民生委員、住民、社協の連携による立ち上げの期待
- (2)住民が、積極的に居場所立ち上げにかかわる工夫
- (3)団地内への広報啓発の具体化と参画呼び掛け

D 町内会事業の位置づけ・公会堂の有効活用・新興住宅地化の世代間交流

- (1)町内会役員の意識改革（役員交代による温度差）の必要性
- (2)地区住民に、あらためて「居場所」の必要性和運営協力呼び掛け
- (3)専門領域への積極的な情報提供による歩み寄り（住民主体の理解）

E 自宅解放型・趣味や特技を通しての生きがい・地域活性化

- (1)「居場所」を運営される構成メンバー一人ひとりの、地域を想う熱い気持ちが伝わり、果てしなく「思い」を「形」にしている姿に接した。
- (2)「趣味」を共有する仲間づくりと、その「趣味」を通じて、地域づくりにつなごうとするプロセスは、人的・物的資源を有効に活用して着実に取り組まれている。
- (3)「居場所」の果たしている役割は、今回の説明でも伺ったが「地域の“文化”と“福祉”に貢献するボランティア一般団体」そのものであった。
本会が22年間取り組んでいる「福祉文化実践活動」とも置き換えられる。
文化としての福祉（文化の福祉化）そのものでもある。
- (4)「居場所」は、自治会役員を担い、各種事業を演出していることから、ある意味で、コミュニティ組織の発信拠点でもある。
- (5)専門的技術や人的ネットワークにより、地域の信頼関係も厚く、今度の発展性に期待できる。
- (6)「居場所」の継続化に向けた課題の一つに「財源維持」があげられる。

F 当事者組織から地域社への共生社会を発信

- (1)身内福祉（認知症家族の介護，ケアする人のケア）を，社会全体で取り組む仕組みづくり，地域課題解決に向けた啓発教育の必要性
- (2)「居場所」（会場）の確保と継続的・常設化に向けた努力
- (3)認知症を取り巻く広域的活動の展開と地域との共生社会実現の道程
- (4)住民福祉教育の取り組み

G 集合住宅地（団地）内、自治会組織の主体的事業として位置付けた運営を目指す

- (1)一般的には，団地の空洞化，高齢化にいかに対応していくかの課題解決のための取り組みをイメージしていたが，「予防福祉的」取り組み，居住者の転入・転出の現状にあって，いかにしてコミュニティ組織を構築していくかを積極的に実践化している
- (2)自治会主体に，組織体制をもとに確実な運営をしている。
また，居場所の運営は，自治会組織体制の中で明確に位置付けている。
- (3)「活動の拠点」は，「団地内の集会場」が確保されている。
「財源確保」は，自治会の予算仕立てをし，居住者の理解につなげている。

居場所活動検証訪問報告書

検証訪問先	〒425-0071 焼津市三ヶ名 558-4 長者の森「カフェコレラ」
検証訪問日時	平成 29 年 12 月 24 日 (日) 11:00～14:00
検証訪問の視点	<p>(1) 開設時期（経過年数）とそのねらい・その動機</p> <p>福祉事業の原点は、身内福祉（祖父）からつながっていった。 平成 17 年 4 月 1 日より、介護保険制度下のもとに、介護事業に取り組むとともに、高齢者福祉と関連を持たせる保育事業に取り組む。 いかに「施設の社会化」を目指すか。10 年を経過した平成 26 年度に、平成 26 年度静岡県が募集した「居場所づくり」に公募した。 平成 27 年 5 月 31 日に開所（毎週日曜・10:00～）するに至り、2 年 7 か月が経過した。</p> <p>「3.11 東日本大震災」を契機に、地域との関わりの必要性が問われてきたこともあり、改めて、「施設機能の社会化」が強く求められていることに気づいた。施設機能を地域に提供できるように、県内外の先進的な「居場所」の取り組みを視察し、地域性を鑑みた内容を模索した。</p> <p>「カフェコレラ」の名称は、富山型デイサービス（古民家、子ども、障がい者誰でも）大人と子どもとの共生を目的に、富山弁「来なさいよ」の意味。今では、月 1 回は、ネロリカフェ（認知症の方、その家族、地域住民が対象）の開所を実施している。</p> <p>(2) 居場所等を取り巻く地域環境と現状（課題）</p> <p>介護保険制度下で、居場所（カフェコレラ）、ショートステイ、グループホーム、デイサービス、居宅、保育所、を経営する中で、地域社会との協働は、災害時の一時避難場所的な機能として地域に開放していくことから、地域住民の福祉施設に対する理解が深まってきた。</p> <p>その後、日常的なつながりを深め、回覧板による、施設の行事も住民に呼びかけられるようになってきた。</p> <p>(3) 開設後の地域の反響（声）</p> <p>お茶を飲みに来たり、食事をしたりと、息抜きの場所になっている。 イベントなどを楽しみに来る人もいる。 夏は水プールを浴びるために来る子供たちもいる。 外からみて喫茶店の感覚にもなっている。 定期的に、47 団体参加の「朝市」を積極的に開催し、地域交流の場は広がっている。</p> <p>(4) 実践（月平均利用者数）</p> <p>月平均 100 人</p> <p>(5) プロセスを重視した検証と施設の手応え</p> <p>施設機能との連動をもとに、「居場所」の位置づけを確立している。</p>

(6) 今後の発展性と地域課題解決に向けた提言

- ① 「協働」
一企業として受け止めているので、行政を当てにすることなく、施設の社会化をいかにしていくべきかを考えている。
「豊田地区まちづくり協議会」に関わり、施設理解に努めている。
自治会からの男性の力が欲しい。
- ② 「運営資金」
自分たちで捻出、居場所の利用料はなし。
助成金の申請はなし。朝市（ブース代（1ブース¥1,500）から捻出）
- ③ 「社会資源の活用」
外部講師による、「料理教室」を開講し、お稽古感覚でもある。
- ④ 「啓発」
SNS (Instagram, FB), アメブロ, ロコミ, チラシ, 朝市等で広報啓発している。
- ⑤ 「運営」
地区民生委員や、スタッフ（身内）中心、ボランティアの開拓は自助努力。

(7) 今後に向けたビジョン

とにかく継続し、地域のニーズに応じて確立していく。
日常化、福祉も地域に溶け込むことが求められている。
福祉の壁を取り払うことが大切である。
特化しない、共感型の時代。地域に溶け込む姿勢。
あらゆる仕掛けをしていく。Win win の関係（相手や地域の利益）

検証訪問所見

- (1) 共生社会の創造に向け、地域住民に「見える化」の工夫がある。
- (2) 介護事業、企業のイメージを変えていくためのアイデアを創出している。
- (3) 単に「居場所」の定義のもとに、取り組むだけでなく、日常生活に密着した「食」をもとに、地域住民に発信している。
- (4) 専門性と地域資源の有効活用。
- (5) ある程度「経営感覚」をベースに取り組む。
根底には「企業感覚」がある。
その上で、福祉理念を確立していく努力がある。



居場所実践活動検証報告書

検証訪問先	〒425-0041 焼津市石津 727-2 北川原公会堂内 「いかずい北川原」(港第14自治会第12町内会)
検証訪問日時	平成29年12月24日(日) 13:30~15:00
検証訪問の視点	<p>(1) 居場所等を取り巻く地域環境と現状(課題) 当地区は、長年にわたり「区画整理事業」が実施されている。最近では、若い世代世帯の転入により、これまで70世帯であった地域がまもなく100世帯になろうとしている新旧混在の新興住宅地化の傾向にある。</p> <p>(2) 開設時期(経過年数)とそのねらい・その動機 区画整理事業を契機に、6年間の経緯を経て、町内の“寄り合い処”として整備された公会堂を、いかに有効活用できるか「公会堂運営委員会」において議論を重ねてきた結果、適正な管理を行うとともに、世代間交流の場として、平成29年4月の定期総会において、新たに、「居場所事業」が町内事業として承認された。「自然発生型」「新規単独型」「共助型」「住民主体型」の4つの基本理念のもと、町内会会員相互に共有し、世代を超えて、いつでも、だれでも、気兼ねなく「立ち寄る場所」をめざし、その環境づくりに努力している。</p> <p>(3) 開設後の地域の反響 開所して7か月を迎える。近隣町内会等の住民も利用できることとして、中学校区単位のコミュニティ組織と連携し、広報啓発に努めている。 平成30年1月7日現在、開所以来29回、延べ562名の利用実績で、平均15.3名/回が利用。「集まる居場所」運営を心掛けている中で、今、2つの動きが見えてきた。1つ目は、自宅に閉じこもる高齢者が心待ちにしている動き、2つ目は、趣味を通じてサークル的人的交流を深めようとしている動きである。「居場所」が地域参加や生きがいにつながる役割を見せようとしている。</p> <p>(4) プロセスを重視した検証 地域資源の有効活用と住民相互の世代間交流をもとに、7か月を過ぎようとしている。運営は誰が担っているのか、見えない部分はあるが、あくまでも、町内会主体の運営であり、上下をつくらぬ相互理解のもとに取り組む仕組みを模索している。</p> <p>(5) 今後の発展性と地域課題解決に向けた提言 開設当初、この事業を展開するに当たり、次の内容を申し合わせた。 [1] 地域の顔が見える 伝統ある北川原を継承し、災害時に強い関係づくりを心掛ける。幸いにも、自治会内の12の町内会の中では、常に防災訓練参加実績はトップレベルである。日頃の生活圏域での付き合いが災害時に大きく発揮できる「居場所」の取り組みでありたい。</p>

- [2] 本音を語る場所とする（プライバシーに関わる干渉は一切しない）
地域を知る上で、400年もの伝統歴史文化を保有する当地区の住民同士が、語れる環境を創り、ささえあう仕組みを住民力で作り上げたい。
- [3] 「集める居場所」から「集まる居場所」に努め、多くの人を集めるのではなく、少人数でも運営できる環境を心掛ける。
- [4] お客さんではなく、上下をつくらず、対等な立場で向き合う。
- [5] 住民主体（自発型）の運営を基本とし、開設日は「分散型運営」（終日担当することなく、時間登録で、運営に参加できる仕組み）を試みる。
- [6] おしゃべりが基本。お互いに話題を持ち寄る「楽しい居場所」に心掛ける。特に、意図的なプログラムは当面つくらない。
- [7] 町内会事業として位置づけ、特別な規約は原則つくらない。会員相互で確認し合う努力をしていく。毎月、「公会堂運営委員会」で報告・議論を実施する。
- [8] 開設日数を確保し、常設的機能をめざす。
※ 第1～3週：火曜日 10:00～15:00 第4週は、原則日曜日 13:00～16:00 但し、町内会行事があれば、これに換える
- 以上をもとに、いかに定着していけるかが重要である。
- ① 「協働」について
当地区は、中学校単位に、「公民館」が、地域コミュニティ組織の拠点及び事務局を担っている。コミュニティ職員との連携や、地域包括支援センターとの日常的な連携を図る。
- ② 運営資金について
町内会福祉事業として予算化。各種助成事業の申請で運営を工面。
- ③ 「社会資源等の有効活用」について
地区住民に、常に、居場所に必要な資機材等の提供を働きかけている。
- ④ 「広報啓発」について
a. 公民館だよりで、開催日周知（毎月発行・全戸世帯配布）
b. 「いかず北川原通信」（これまでに11号発行）で、開催状況、実績等を周知（原則毎月・全戸世帯配布）
c. 毎月開催の「自治会会議」「福祉委員会」にて状況報告

検証訪問所見

- (1) 町内会役員の意識改革（役員交代による温度差）の必要性
(2) 地区住民に、あらためて「居場所」の必要性と運営協力呼びかけ
(3) 専門領域への積極的な情報提供による歩み寄り（住民主体の理解）



居場所活動検証訪問報告書

検証訪問先	〒436-0021 掛川市緑ヶ丘 1 丁目 9-5 NPO 法人 風の家
検証訪問日時	平成 29 年 12 月 26 日 (火) 10:00~14:00
検証研修の視点	<p>(1) 開設時期とそのねらい・動機</p> <p>今日、「居場所＝高齢者の孤立を防ぐ」社会の流れの中で、子ども、障がい者の居場所等、誰でも利用できる「居場所」の必要性を感じた。</p> <p>一般市民の方々とのふれあい交流ができ、いつでもどこでも、誰とでも会える、情報が得られる居場所をめざすとともに、障がい者の社会参加の地域の課題解決に向けて検討が続けられた。</p> <p>長年、福祉事業に関わってきた同志が結束して、NPO 法人化に向けた取り組みをし、障がい者の就労できる環境を併せ持った「居場所」づくりをめざした。</p> <p>平成 27 年 4 月、常設の居場所作りの検討を始めた、様々な諸問題に積極的に取り組むとともに、地域の状況を踏まえて、2 年の道程を経て、平成 29 年 5 月法人認可されて、6 月「NPO 法人 風の家」居場所が誕生した。その後 8 月、障がい者就労支援 B 型事業所を併設開所。</p> <p>(2) 居場所等を取り巻く環境</p> <p>検討段階から、地域住民の理解を得る努力を続け、自治会への積極的な働きかけと連携に力を注いだ。「居場所」は、地域の中に点在できることが望ましいことや、障がい者の孤立化を防ぎ、雇用の確保についても障がい者理解を積極的に働きかけた。</p> <p>(3) 開設後の地域の反響</p> <p>開所して、6 か月が経過した。地域住民の利用も出てきた。居場所でのふれあい交流が日増しに深まっている。就労支援 B 型事業所利用の障がい者の方も、社会適応力を高めるために、居場所運営の中で、食生活の学びの場にもなっている。</p> <p>(4) 実践（1 回また月平均利用者数）と利用者の声</p> <p>平均 400~450 人/月 20 人/日程度であるが、多いときは 35~36 人 平日は、月~金 9:00~18:00 (夏季 19:00) 食事サービスの提供をしている。ランチは 11:00~ 居場所運営の協力呼びかけは、物品提供や側面的協力の申し出も積極的にしている。</p> <p>(5) プロセスを重視した検証と施設の手応え</p> <p>障がい者を中心とする居場所としては、先駆けている。開所を通じて、共生社会実現に向けた「ノーマライゼーション」を理念とした展開が始まったように感じる。</p> <p>(6) 今後の発展性と地域課題解決に向けた提言</p> <p>① 「協働」</p> <p>これまで、学校、支援センターなど、地域全体に働きかけてきた。「ふくしあ」(行政、社協、地域包括、訪問看護ステーション)、自立支</p>

援協議会をはじめ、視覚障害者協会等との関係をさらに深めていく。
 民生委員児童委員協議会（障がい者部会、高齢者部会）へのはたらきかけ。一般市民には、賛助会員・一般寄付を呼び掛けている。
 フードバンク、物品の寄贈等にも心掛けている。

② 「運営資金」

賛助会員（一口¥1,000）、一般寄付等をもって、家賃の捻出にも努力をしている。

③ 「社会資源の活用」

ボランティアスタッフの呼び掛け、外国人との接点も行っている。

④ 「広報啓発」

通信を年4回、口コミ中心で、SNS、インターネットなどの媒体は、現在はない。今後の検討課題である。市のふれあい広場への参加（10月第3日曜）の機会をいただき、市民への啓発に努めている。

(7) 今後に向けたビジョン

開所6か月を経過した今、障がい者と共に、地域で日常的な関わりを持ち、暮らし合う社会づくりをいかに継続していくか、若い世代の関心と男性の地域参加等、後継者人財育成の課題がある。

専門機関からの身近な相談にも対応し、地域で課題解決していく拠点整備をめざしたい。

検証訪問所見

- (1) 長年、福祉領域に従事されてきた関係者が、新たに市民主体の視点で、障がい者の地域参加をより具体的に推進し、「共生社会実現」に向け、実社会に拠点を構築する取り組みの意義は大きい。
- (2) 理論と実践をいかに融合していくか、市民の立場に立って、専門性につながる実践活動展開は、地域社会に共感関係を深めていく可能性は高い。
- (3) いかに、「居場所」運営を維持していくかは、「人的総合的コーディネーター機能」が確立していく中で、当面「拠点整備」「運営資金」は課題改善の取り組みと感じる。



居場所活動検証訪問報告書

検証訪問先	〒410-1115 裾野市千福 4-11-6 千福が丘アートサロン (山田茂幸様方)
検証訪問日時	平成 30 年 1 月 5 日 (木) 10:00~14:00
検証訪問の視点	<p>(1) 地域を取り巻く地域環境と現状 (課題)</p> <p>裾野市北西部に位置する、約 40 年前に開発され、全国各地からこの地域に居住された世帯の閑静な新興住宅地で、歴史的にも、縄文時代から人が暮らし合ってきたことが証明されている地域。文化人や趣味豊かな人も多く住む人財豊富な地域であり、結束していくことにより拓かれる地域性を有している。愛鷹山の麓 (約 300m)、北に富士山、東に箱根と風光明媚な地域。昔は、セレブの住む町、あこがれの町として、今も継承されている。</p> <p>都市景観大賞 (景観形成事例部門) (1992 年度) 受賞の町。</p> <p>現在、約 1,000 世帯、約 2,600 人で、市平均高齢化率と同じ傾向の 24% を維持している、今後に向けて、少子・高齢化の地域課題がある。</p> <p>(2) 開設時期 (経過年数) とそのねらい・その動機</p> <p>写真を趣味として、活動している仲間との出会いの中で、クロスコミュニケーション (人との交流を盛んに) の場を創り、自分たちの写真が展示できるギャラリーが欲しいという思いがあった。県コミュニティづくり推進協議会主催「出張コミュニティカレッジ」(平成 25 年度裾野市で開催) を受講し、地域活性化に向けて具体化した。</p> <p>奥さんに先立たれ、一人暮らしの生活から、自宅を開放した「ギャラリー」開設へ発展し、「千福が丘アートサロン」として、2014 年 11 月に開所し 3 年経過。</p> <p>現在、裾野市内には、約 30 箇所の居場所・サロンが開所されている。</p> <p>(3) 開設後の地域の反響</p> <p>毎週、金・土曜日の 2 日間 (10:00~17:00) を「アートサロン」として開所し、改装した 2 階ギャラリーでは、月毎に作品を入れ替え、各種広報啓発をして一般開放 (入場無料・使用料、展示作品料、チラシ作成等全て無料)。1 階の居間では、来所者相互の語らいの場を確保している。</p> <p>ギャラリー運営 5 名、サロン運営補助 3 名 + α が中心。絆づくり、コミュニティづくり、介護予防、一寸した困りごと相談 (PC、電気、電子機器関連)、「お互い様サービス」(社協事業) の協力員として関わりを持つ。初めて、個展を開かれた方は、来場者の温かい言葉、久しぶりの再会、地域の方々との交流の実現で、また頑張ろうと生きがいを感じられたと感想が寄せられている。</p>

(4) プロセスを重視した検証と施設の手応え

近隣社会に共通の趣味を通じて接点を持ち、つながる社会を創り、「お互い様」の無形の関係を創ることが今日の社会に求められている。傾聴する心で、人と人とのつながりを構築することが必要である。

自治会役員任期は1年であると、人が替われば、活動の継続性につながらないことがある。そこで、「プロジェクト」方式を導入して、地位課題を改善解決につなげ、相互理解する努力をしている。「地域づくりは楽しい」をモットーにして、語れる環境構築に取り組んでいる。

(5) 今後の発展性と地域課題解決に向けた提言

まずは、活動を継続していく努力。「趣味」を共有し、生きがいがづくりにつなげていく同志との関係を維持して「居場所」としての位置づけをしていくこと。あくまでも、自宅開放型の「居場所」であるが、プライバシーの問題や、維持していくための経費も生じる。将来的には、「遺贈」や「基金」等の財源確保も考えられる。NPO 法人化し、運営の確立も課題となる。ボランティア参加者の呼び掛けや、当地の特性は、相当人財が豊かな人的資源を有している。いかに、地域づくりに関心を持っていただけのかを呼びかけていく。

検証訪問所見

- (1) 「居場所」を運営される構成メンバー一人ひとりの、地域を思う熱い気持ち伝わり、果てしなく「思い」を「形」にしている姿に接した。
- (2) 「趣味」を共有する仲間づくりと、その「趣味」を通じて、地域づくりにつなごうとするプロセスは、人的・物的資源を有効活用して着実に取り組まれている。
- (3) 「居場所」の果たしている役割は、「地域の“文化”と“福祉”に貢献するボランティア一般団体」そのものであった。本会が22年間取り組んでいる「福祉文化実践活動」とも置き換えられる。文化としての福祉（文化の福祉化）そのものである。
- (4) 「居場所」は、自治会役員を担い、各種事業を演出していることから、ある意味で、コミュニティ組織の発信拠点でもある。
- (5) 専門的技術や人的ネットワークにより、地域の信頼関係も厚く、今後の発展性に期待できる。
- (6) 「居場所」の継続化に向けた課題に「財源」が挙げられる。



居場所活動検証訪問報告書

検証訪問先	〒426-0078 藤枝市青木2丁目31-2 ほっとな居場所 輪笑
検証訪問日時	平成30年1月12日(金) 10:00~12:00
検証訪問の視点	<p>(1) 開設時期（経過年数）とそのねらい・その動機</p> <p>20年余にわたり、身内福祉（認知症の母親の介護）に関わる中で、「(公社)認知症の人と家族の会」の出会い、静岡県支部とのつながりをもった。</p> <p>更に、身近な地域（藤枝市）において、取り組む活動の必要性を痛感され、「認知症家族会・ほっと会」((公社)認知症の人と家族の会静岡県支部 藤枝分会)を立ち上げ、定例の集い、会報発行、電話相談に取り組み、現在10年を迎えた。一人から始まった活動も現在では、会員60名と共に各種活動に取り組んでいる。</p> <p>こうした諸活動に取り組みながら、認知症家族が相互に寄り添える、誰もが（赤ちゃんから高齢者まで誰もが）集える「居場所」（認知症カフェの役割）の取り組みを始めて4年を迎える。毎週水・木・金 10:00~15:00 利用料200円。新たに、平成29年度より、介護保険制度改正下の新しい総合事業・住民主体通所Bにも取り組まれている。</p> <p>(2) 居場所等を取り巻く地域環境と現状（課題）</p> <p>開設当初の場所から移転して、現在の場所を確保している。</p> <p>市外関係者の利用を呼びかけているため、広域的活動となっている。</p> <p>開設会場を取り巻く自治会との連携を重視し、チラシ等を作成し、回覧のお願いをしている。関係者が地元地区出身ではないために、地元との信頼関係の構築に一層の努力されている一面が伺える。</p> <p>居場所開設後、「コールセンター」機能の取り組み、「ケアラズ・カフェ」（毎月第3土曜日 10:00~12:00 参加料一般400円）をあらたに設けている。管内地域包括支援センターとの連携をとる。</p> <p>(3) 開設後の地域の反響</p> <p>管内町内会の組回覧に関係資料を入れていただくようお願いし、利用を呼びかける努力をしている。その結果、少しずつ利用者は増加している。居場所の必要性について、総論はわかるが、各論は他人の意識があり、あらためて、町内会活動こそ「福祉」を必要とする時代を迎えていることを強調している。個を大事とする居場所 個々の人との関係を重視。家族、認知症の本人、認知症と関係のない人も集まれる居場所を心掛けている。向こう三軒両隣だけでなく、自分の行きたいところへ行く、違う地区の人を選んでくることができる場所として、その運営を心掛けている。その人らしい生活を期待している。地元のボランティアの確保に努めている。</p> <p>* 楽しい、ちょっとおしゃれをして参加…生きがい</p>

- * 認知症の人も参加できる内容…平等
- * 助け合う、譲り合う…思いやり
- * ティータイムはみんなで準備…主体性
- * 知り合い、つながり、笑い声
- * 歩き方が良くなった、筋力がついた…改善

を利用者は心掛けている。

(4) 実践（1回また月平均利用者数）、参加者（利用者）の声

平均1回10人。イベントがある日は、20名を超える盛況である。年間、平均140日開所。毎回、ボランティア2人～3人で運営。

(5) プロセスを重視した検証と手応え

身内の尊い認知症介護の経験をもとに、4年間の活動を通じて、参加者主体のアットホームな運営に心掛けている。

(6) 今後の発展性と地域課題解決に向けた提言

① 「協働」

地域包括支援センターをはじめ、社会福祉協議会や行政との連携を更に働きかけていく努力と近隣地域との関係づくりに心掛けている。

② 「運営資金」

利用料と社会福祉協議会助成事業をもとに、家賃等の支払いに充てているが、活動を継続していくための資金確保の課題がある。

③ 「社会資源の活用」

負担を軽減する会場確保の課題、身近な地域ボランティアの受入れ等働きかけている。

(7) 今後のビジョン 継続すること、常設化 行政への働きかけ（理解）

検証訪問所見

- (1)身内福祉（認知症家族の介護，ケアする人のケア）を，社会全体で取り組む仕組みづくり，地域課題解決に向けた啓発教育の必要性
- (2)「居場所」（会場）の確保と継続的・常設化に向けた努力
- (3)認知症を取り巻く広域的活動の展開と地域との共生社会実現の道程
- (4)住民福祉教育の取り組み



居場所活動検証訪問報告書

検証訪問先	〒439-0018 菊川市本所 市営上本所団地内 居場所立ち上げ検討会 (菊川市社会福祉協議会) TEL0537-35-3724
検証訪問日時	平成 29 年 12 月 28 日 (木) 10:00~14:00
検証訪問の視点	<p>(1) 市営団地内「居場所」立ち上げ検討会に同席して、会議の状況を検証</p> <p>① 地域を取り巻く環境と現状</p> <p>平成 5 年～7 年, 9 年, 11 年にわたり, 市営団地として建設整備されている。現在, 98 世帯 213 名をもって, 上本所団地自治会が組織化されている。高齢化率は 26.1% (六合地域高齢化率よりも若い)</p> <p>しかし, 当地区担当の民生委員から, 単身世帯や高齢者世帯の生活環境の改善に取り組むことの必要について, 予めから, 菊川市社会福祉協議会の「生活支援コーディネーター」に相談を持ち掛けられていた。</p> <p>当団地内の公会堂の有効活用に併せて, 自治会長に相談を投げかけていた。自治会役員の任期は 1 期 1 年で, 継続的な活動を新たにに取り組むことについては, 判断が慎重である中, 総括的な判断は関係者に委ねられていた。</p> <p>今回の検討会には, 担当民生委員と居住歴の長い住民 (女性), 比較的短い住民 (女性), 民生委員との連携を大切にされている方 (男性), それに, 社会福祉協議会職員 2 名と共に会場の公会堂を訪ねた。</p> <p>(2) 今回の検討会の意見集約</p> <p>① 生活者視点から、今の団地内の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 団地内に, 高齢者の姿を多く見かけるようになった。 ➢ 交流の機会が少ない。 (隣近所でも挨拶なし。同じ棟であっても挨拶・話し合う機会がない。コミュニケーションが取りにくい地域環境である。) ➢ これからは, なんとなく話をする必要と感じる。 ➢ 新旧混在の団地生活では, お互いに声を掛け合う機会が少ない。 ➢ 組としての集まりもなし。子どもは挨拶するが, 大人はしない。極力目を合わせないようにする人が多い。交流をすればよいと思われる。 ➢ 男性と女性の交流の問題あり。なかなか入りづらい。嫌がる人も多い。 ➢ 現在は, 自宅での交流 (自宅開放型) <p>② 居場所開所の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 時代を回想しながら, 年を取った時の友達がほしい。 ➢ 自然発生型の居場所に, いろいろな人が集まることができる機会を創る必要性を感じる。 ➢ 居場所への参加を希望する人はあるが, 積極的に関わることには消極的である。 ➢ 自治会長 1 年で交代, 現在は 40 代の方が担っている。周囲の働きかけを期待したいとの意向が伺える。 ➢ 生活する上で, 買い物に不自由さを感じていたが, 4 月からローソンの移動販売が開始された。 ➢ こうした動きの中に, 「居場所」が浮上した。 <p>③ 居場所開所にあたっての留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 居場所, サロンに集まり, みんなで話し合っておしゃべりをす

ることを日常化し、生きがい・励みとする。“集める”ではなく、“集まる”居場所をめざし、取り組むことで、ニーズを持った人が来る。関係ないではなく、みんなが関係する。

- 居住歴の新しい人も長い人も一緒に居場所を活用する工夫。
- 会って雑談する、持ち寄り方式（食べるもの、飲むものなどを持ち寄る）
- 本来は、拒んでいる人にも来てもらうことが課題
- 男女の交流。和やかに、来られる人が集まる。
- 団地の現状を理解し、地域社会を巻き込む。
- 自治会との接点を持っていた方が良い。

④ 「居場所」の必要性と具体的な展開検討・開設の見通し

- 団地はまとまっているので、まとめ始めたら、効果が出るのは早い。
- 団地の連絡網（回覧板）あり。
- 公会堂の有効活用を合わせて、検討していく。
- 居場所立ち上げには、中心的人財を以て体制を整える。
- 3月までにアクションを決めればよい。持ち寄り方式で実施。
- 居場所と食のコラボ ex.男性の料理教室、ワゴンランチ…etc.
- 最初から大勢集まる居場所よりも、必要な人の集まりから開始。
- 走りながら方向性を拓き最初からあまり形にしない。
- 居場所に集まる楽しみだけでなく、居場所が、一人ひとりの自立につなげていく役割もある。人々をつなぐ、コーディネート。多目的な仕掛けを考えていく。
- 世代間のふれあい交流
- 民生委員という言葉あまり出さない。団地を明るくする人。
- 居場所開所の目的だけははっきりすること（キャッチコピー）
（団地のコミュニケーションを促し、ふれあいの場を広げる、誰でも時間があるときに集まれる居場所）
- 来たいという人もいる。強制ではない。長続きしない。さりげなく誘う。
- 健康問題、保険加入（サロンのための保険・行事保険）
- 広報啓発：口コミ⇒回覧板（最初は4～5人）
- 開設日を明確化。徐々に回数を増やしていく。ゆとりを持つ取り組み。
- 自治会とのレション。班長会議へ出席。民生委員が人員把握。

検証訪問所見

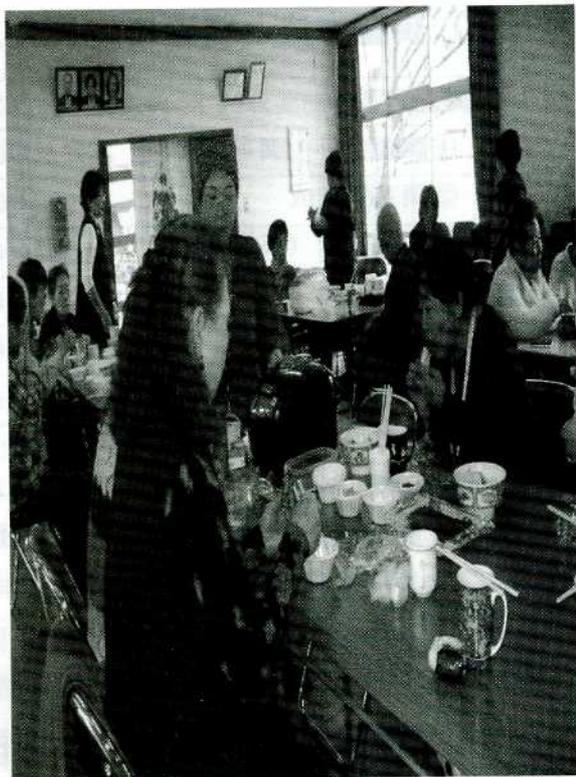
- (1) 自治会、民生委員、住民、社協の連携による立ち上げの期待
- (2) 住民が、積極的に居場所立ち上げに関わる工夫
- (3) 団地内への広報啓発の具体化と参画呼びかけ。
- (4) 自治会組織に、事業として位置付けていく働きかけ



居場所活動検証訪問報告書

検証訪問先	〒410-0306 沼津市大塚 1121-4 県営原団地自治会内 ヌマヅハラ県「Sルーム
検証訪問日時	平成 30 年 1 月 19 日（金）10:00～12:00
検証訪問の視点	<p>(1) 開設時期（経過年数）とそのねらい・その動機</p> <p>当団地自治会は、今年 40 周年を迎え、約 550 世帯、1,200 人が居住している。住みよい団地をめざし、居住世帯間の連携を深め、モデル団地として、球技大会、運動会、独自の成人式、お祭り、イベント等の恒例行事を通じて「ふるさとづくり」に積極的に取り組み、コミュニティ組織を強化し今日に至っている。静岡県社会福祉協議会、静岡県住宅供給公社、沼津市社会福祉協議会等から、団地内における「居場所」開設の呼び掛けがあった。既に、原地区周辺の 21 の自治会では、開所回数はまちまちの「いきいきサロン」の運営が取り組まれていた。当団地にも、年 3 回程度開催の「いきいきサロン」はあった。呼び掛けを機会に、団地内の地域性を踏まえ、定期的に開所する「居場所設置」の必要性について協議を重ねてきた。当面、月 1 回の開所として「ヌマヅハラ県「Sルーム」(居場所)を 28 年 4 月立ち上げ、丸 2 年が経過した。</p> <p>(2) 居場所を取り巻く地域環境と現状</p> <p>団地内の組織体制を基本に、自治会長、19 の棟長ほか、19 棟の「婦人部役員」が中心に「居場所」の運営にあたっている。上下の関係をつくらないこととし、「ボランティア」の位置づけは、人間が固定化し、地域活動も、長続きしないためしない。子ども（小中学生約 100 人）は多く、高齢化率は、高くはないが、現在の「居場所」は、高齢者中心である。</p> <p>(3) 開設後の地域の反響</p> <p>団地内の事業は、会員の結束も強く、年間の居場所計画の提案は、前向きに取り組むことができている。特に、「民生委員」に負担をかける運営はなく、自治会主体の取り組みで運営している。</p> <p>(4) プロセスを重視した検証</p> <p>2 年を経過し、当面は、現状を維持しながら、自治会組織をもって運営を継続していく。年間の開所日数を増やしながら、将来的には、常設化を目標としている。</p> <p>(5) 今後の発展性と地域課題解決に向けた提言</p> <p>① 「協働」</p> <p>19 の棟から、棟長 19 人（棟長の下に体育、婦人部、防災、環境等の役割有）を中心に、年間計画を協議し、確実な運営をしている。</p> <p>県社会福祉協議会、沼津社協、県住宅供給公社、地域包括支援センター等との連携をもっている。民生委員（管内 3 名）は、直接運営に関わりはない。年間計画に基づき、内容が明らかになっていけば、役員が責任をもって取り組む。後継者育成を考えつつ、「居場所」運営にも取り組んでいる。</p> <p>② 「運営資金」</p>

	<p>立ち上げ支援のみで、運営に関わる補助・助成を受けることなく、自治会予算で運営をしている。</p> <p>③ 「社会資源の活用」 日常的、関係方面からの協力関係があり、「居場所」の運営に問題はない。</p> <p>④ 「啓発」 自治会内の情報手段で十分取れている。 他地区の住民も、口コミで、関心のあるプログラムに参加することもある。</p> <p>⑤ 「継続」 負担を感じさせないように、段階的に開所回数を増やしながら、将来は、常設化を目指す。</p>
<p>検証訪問所見</p>	<p>(1) 一般的には、団地の空洞化、高齢化にいかに対応していくかの課題解決のための取り組みをイメージしていたが、「予防福祉的」取り組み、居住者の転入・転出の現状にあって、いかにしてコミュニティ組織を構築していくかを積極的に実践化していることは、これからの地域づくりの事例として学ぶことが多い。</p> <p>(2) 自治会主体に、組織体制をもとに確実な運営をしている。 また、居場所の運営は、自治会組織体制の中で明確に位置付けている。</p> <p>(3) 「活動の拠点」は、「団地内の集会場」が確保されている。</p> <p>(4) 「財源確保」は、自治会の予算仕立てをし、居住者の理解につなげている。</p>



第5章

居場所ってなに その意識と実態調査結果から見たもの

1 調査概要

「静岡福祉文化を考える会」では、この22年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。福祉文化活動のプロセスを重視し、若い世代層に呼び掛け、調査個票の作成、調査協力依頼・回収、データ入力・考察等調査研究活動に積極的に参画していただき、地域の課題解決に向けた研究活動として取り組むことができた。福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言」をもとに、「居場所ってなに？ その意識と実態調査」に取り組んだ。これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、「家族機能」を問いつつ、既存の「居場所」の現状を把握し、県民の意識と実態調査結果から浮き彫りとなった課題を基に、これからの福祉コミュニティに向けた、「真の居場所」（ささえあう環境）の開拓と共にその「地域の担い手」を検証することとした。

(1) 調査方法と調査日

1) 調査方法

①調査項目・調査票検討 本会及び「共創社会研究会」を中心の調査部会等で検討

②調査票作成 9月20日

③調査依頼（実施期間） 9月25日～10月25日

④回収期間 9月26日～11月10日

⑤入力期間 9月30日～11月30日

※入力作業は、学生の参加協力とともに、本委員会の「調査研究部会」で協議

⑥分析・考察は、 12月10日～2月下旬までの調査研究部会において実施

⑦公表・報告 平成30年3月以降実施

a 公開型研修会及び関係機関・団体等の各種研修会で経過報告実施

b 本会機関紙「our life」で随時経過・概要紹介

2) 調査日 9月20日を基準とする。

(2) 調査票の形式及び調査項目

1) 調査票の形式 A4版 4ページ 30項目

2) 調査項目

a 基本属性	⇒ 設問 1 (問 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8)	(8項目)
b 住民の生活状況	⇒ 設問 2. 3. 4. 5. 6. 7	(6項目)
c 地域との関わりの意識	⇒ 設問 8. 9. 10. 11. 12	(5項目)
d 地域との関わりの実態	⇒ 設問 13. 14. 15. 16. 17	(5項目)
e 地域を取り巻く望ましい生活環境	⇒ 設問 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24	(7項目)
f 地域参加の動向	⇒ 設問 25. 26. 27. 28. 29	(5項目)
g 提 言	⇒ 設問 30	(1項目)

(3) 調査対象・協力機関団体と調査票の発送

- 1) 調査対象：静岡県内の10代以上の方々を対象に、年代・世代・領域等を考慮して、約500名程度の回収を目標に実施をしたが、最終的には1,443名の協力をいただいた。
- 2) 依頼方法：会員、「若者発“居場所”あり方研究会」(常葉大学同好会)、地域実践者、市町社会福祉協議会、企業、各種研修会参加者、教育機関、その他地域を考慮しながら依頼実施。

(4) 調査実施機関 静岡福祉文化を考える会

(5) 調査協力機関・団体等と回収状況

No.	依 頼 先	箇所数	依頼枚数	箇所実数	回収実績枚数	回収率
1	会員	24	240	11	80	33%
2	地域実践者	150	870	73	640	74%
3	市部社会福祉協議会	23	690	17	428	62%
4	町部社会福祉協議会	12	240	11	135	56%
5	施設・団体・企業	4	160	4	160	100%
	計	213	2200	116	1443	65%

※回収率は、依頼枚数に対する回収実績枚数の割合を示す

(6) サンプル構成／基本属性

本会が、この22年間取り組んできた各種調査研究活動は、一貫して、県内一円に協力を求め、かつ調査の均等化とともに、信頼性を深める努力を続け現在に至っている。

今年度の調査研究事業は、特に、調査依頼先について、会員や企業、市町社会福祉協議会、地域実践者等の協力をいただき、10代から80代の世代を対象に、地域別や性別などに偏りがないように、これまでと同様「均等化」「確実性」に努め取り組んだ。

1) 性別

①男性 550名 (38.1%) ②女性 885名 (61.3%) ③無回答 8名 (0.6%)

*男性より、女性は23.2%回収率が高い割合の回答

2) 世代別

① 10代	126名 (8.7%)	⑥ 60代	329名 (22.8%)
② 20代	185名 (12.8%)	⑦ 70代	259名 (17.9%)
③ 30代	141名 (9.8%)	⑧ 80代以上	47名 (3.3%)
④ 40代	181名 (12.5%)	⑨ 無記入	3名 (0.2%)
⑤ 50代	172名 (11.9%)		

*今回の調査では、60代22.8%、70代17.9%、20代12.8%、40代12.5%、50代11.9%、の回答。60~70代40.7%、40~50代24.4%、10代~30代31.3%

3) 職業別

① 中学・高校生	30名 (2.1%)
② 短大・専門校生・大学	247名 (17.1%)
③ 会社員	220名 (15.2%)
④ 公務員	33名 (2.3%)
⑤ 自営業	70名 (4.9%)
⑥ 団体職員	193名 (13.4%)
⑦ 自由業	12名 (0.8%)
⑧ 主婦	214名 (14.8%)
⑨ パート・フリーター	115名 (8.0%)
⑩ 無職	253名 (17.5%)
⑪ その他	39名 (2.7%)
⑫ 無記入	17名 (1.2%)

*今回の調査では、無職17.5%と多く、短大・専門校生・大学17.1%、会社員15.2%、主婦14.8%、団体職員13.4%等と幅広い職域の回答である。

4) 地域別

① 県東部地域 658名 (45.6%) ② 県中部地域 465名 (32.2%)
③ 県西部地域 305名 (21.1%) ④ 無記入 15名 (1.1%)

*今回の回答では、東部地域が45.6%と多く、次に中部地域32.2%、西部地域21.1%

5) 居住別

① 祖父母や孫等が同居する大家族	317名	(22.0%)
② 親と子どもだけ	622名	(43.2%)
③ 夫婦のみ	305名	(21.1%)
④ 一人(未婚)	42名	(2.9%)
⑤ 一人(死別)	79名	(5.5%)
⑥ その他	66名	(4.5%)
⑦ 無記入	12名	(0.7%)

*今回の回答では、親と子どもだけが43.2%と多く、次に、祖父母や孫等が同居する大家族22.0%、夫婦のみ21.1%の順である。

6) 居住歴別

① 2年未満	64名	(4.4%)
② 5年未満	108名	(7.5%)
③ 10年未満	102名	(7.1%)
④ 15年未満	123名	(8.5%)
⑤ 20年未満	190名	(13.2%)
⑥ 30年未満	269名	(18.6%)
⑦ 30年以上	582名	(40.3%)
⑧ 無回答	5名	(0.3%)

*今回の回答では、30年以上の居住歴の方が40.3%と多い。次に、30年未満18.6%、20年未満13.2%となっている。

7) 地域形態別

① 街部	412名	(28.6%)	② 新興住宅地	379名	(26.3%)
③ 農村部	277名	(19.2%)	④ 山間地	152名	(10.5%)
⑤ 海浜部	132名	(9.1%)	⑥ その他	53名	(3.7%)
⑦ 無記入	38名	(2.6%)			

*今回の回答では、街部28.6%で一番多い。次に、新興住宅地26.3%、そして農村部19.2%の順である。

8) 居住形態別

① 持ち家	1,230名	(85.2%)	② 借家	148名	(10.3%)
③ 社宅・官舎	12名	(0.8%)	④ その他	41名	(2.8%)

無記入12名(0.8%)

*今回の回答では、持ち家85.2%と多い、その次が借家10.3%しめている。

2 調査結果と考察

(1) 22年間の「福祉文化の創造」をもとに「ご近所福祉」から「真の居場所」を検証した調査のプロセス

本会は、これまで、22年間にわたり、「啓発学習事業」「実践活動地区事業」「調査研究事業」の3つの柱立てをもとに活動を展開してきた。

第三の柱立て「調査研究事業」については、この22年間、「静岡発（地方発）福祉文化の創造」を目指し、各年度における地域社会を取り巻く、様々な福祉問題に焦点をあてて、世代を超えた県民の意識と実態を把握する目的で、調査研究活動に取り組み、浮き彫りになった地域社会の課題を考察し、「啓発学習」とともに、広く県民に問題提起をしてきた。

今回の調査活動は、昨年度の「ご近所福祉その意識と実態調査」結果をもとに、これまで、身近な生活圏域における地域課題を「福祉文化のプロセス」を基盤として、福祉コミュニティの再構築としての「真の居場所」を検証することとして、ここに調査をまとめることが出来た。

(2) 基本属性は、それぞれの項目に沿って、「均等化」「信頼性」を念頭におきながら、関係団体、地域実践者による市民への積極的な働きかけにより、確かな課題提起できる努力をした

本会の調査研究活動は、結成以来、関係団体、会員、地域実践者等の精力的な取組みを基本に、各種基本属性が偏らないように、調査実施中に十分連携を計りながら展開し、定期的な協議をしながら、確実な調査票回収、データ入力、考察につなげられるように努力をした。

「性別」では、男性38.1%、女性61.3%と、4:6は、今日、女性が積極的な地域活動に近い、一般的な回答を得た。

「年代別」では、これまで、「居場所」が高齢者の孤立防止という側面から、今日の「居場所」へのつながりが回答者の年代層にも関係した回答状況である。60代22.8%、70代17.9%の状況にある。10代から20代の回答が21.5%あったのは、意図的に本事業に関わった若者中心の調査協力呼び掛けが反映していることと、若者の教育に携わっている教育関係者の努力は大きい。こうした福祉関連活動において課題とされる中間層の年代（30～50代）にいかに働きかけていくかの課題がある。

「職業別」では、年代別との関連性は大きい。回答は、無職17.5%、短大・専門学校・大学生17.1%の回答。今回は、企業領域にも積極的に協力を呼びかけた結果、会社員15.2%、団体職員13.4%の回答をいただいた。また、地域活動に関心の高い主婦層14.8%、パート・フリーター8%の協力をいただくことが出来た。

「居住形態別」では、持家85.2%中心となったが、借家10.3%の回答が含まれ

ている。「居住年数別」に関して、「居場所ってなに その意識と実態調査」では、地域との関わりの重要な属性にあることから項目とした。30年以上40.3%と多い。

次に30年未満18.6%、20年未満13.2%と、地域との繋がりが深い。

「地域別」では、毎回、中部地域が多い回収状況であるが、今回は、東部地域の関係団体、個人関係者の精力的な協力をいただき、東部地域45.6%、次に、中部地域32.2%、西部地域21.1%で、西部地域の回収状況は前年度を9.1%多い。

「地域形態別」では、街部28.6%、新興住宅地26.3%、農村部19.2%、山間部10.5%、海浜部9.1%と昨年度とほぼ同じ回答状況であった。

「居住別」では、親と子どもだけ43.2%、大家族22%、夫婦だけ21.1%の回答状況は、昨年度と同様の実績であった。

(3) 住民の生活状況に関する考察

調査票の組み立ては、地域社会における住民の生活状況から入った。「真の居場所は、本来家庭そのもの」。生み育てる、保護、福祉、情緒安定、教育、経済のそれぞれの家庭・家族機能の希薄化から、せめて、生活圏域におけるホッとする居場所をいかに構築することが出来るかに踏み込んでみた。こうした、社会の大きな変化に、果たして地域社会に求められる「居場所」は、いかにあるべきかを正すこととした。

- ①一人でも安心して暮らせる地域こそ「地域ぐるみの居場所」であるとして、住んでいる地域の暮らしやすさ全体的にみると、暮らしやすいと回答しているが、日頃、就労が主で、地域との接点が少ない40代から50代層は、やや暮らしやすさに否定的傾向を示している。現役の時からいかに福祉コミュニティに参画していくかが問われる。
- ②隣近所とのつきあいでは、男性より、女性の方が積極的であり、男性の地域からの孤立は加齢と共に課題となる。
- ③現在の地域での暮らしの安心度は、不安を感じる年代層は、50代～60代、30代、～40代、70代～80代の断層的状况が伺える。不安内容は「災害時」「健康面」「情報がない」「社会の仕組み」があげられる。生活圏域での普段の暮らしの中で補うことの課題がある。
- ④地域活動に関する情報・知識の入手方法では、全体的には的には、「回覧板」が大きな役割を持っている。しかしながら、今日においては、特に、若者の情報ルートは、IT・マスコミからの情報入手が高い。家族一人一人に確実に伝わる地域の情報システムを構築させ、若者の積極的な地域参加を働きかけていかなければならない。
- ⑤今日の「家族像」を全体的に考察すると、「明るい」「仲が良い」「楽しい」「にぎやか」とプラス思考の家族環境が伺えるが、加齢化と共に、家族を取り巻く生活環境の大きな変化の中で、マイナス傾向の「暗い」環境が浮き彫りとなっている。ここに、浸りでも安心して暮らせる地域づくりとして「一人ひとりが情緒安定を求めた生活環境」の確保が課題となる。

(4) 地域との関わりを意識に関する考察

- ①地域活動への関心は6割ある。ここでも、若い年代層の男性が地域に目を向ける働きかけが課題となっている。居住歴年数が長いほど地域活動への関心は高いことから、いかに、若いうちから、地域コミュニティに目を向けることが出来るか、大人社会の取り組みの課題がある。
- ②関心のある地域活動の分野を全体で見ると、不安要素と関連する「災害・防災領域」「地域コミュニティ領域」「福祉ボランティア領域」「自然環境保全領域」「世代や領域を超えた交流領域」「教育領域」「ご近所福祉領域」の順にあげられている。
- ③今の地域への居住意向は、年代が高まるとともに、地域への関心は高まる。
- ④家族の持つ意味を、改めて問いかけた結果「休息・安らぎの場」「家族の団らん」の場「家族の絆を深める場」「親子が共に成長する場」でありたいと回答しているが、加齢化と共に、大きく変化をしている状況が前項との関連で伺える。
- ⑤家族から、隣近所との交流のあり方につなげると、住んでいる地域の人々と交流の大切さは大切と回答している反面、交流の大切さに消極的的回答もある。ここでも、男性より、女性の方が、また若者の意識は薄く、加齢化と共に積極的に交流を求めている。若い世代、男性に、地域交流の機会、地域参加をどのように提供できるかが課題。

(5) 地域との関わりの実態に関する考察

- ①本会では、これまで「地域総合型学習」の必要性を訴えている。地域住民を対象にした福祉に関する研修会・講座を開催の有無は、開催の認知度は4割、約5割は十分周知されていないと読み取れる。特に、若い世代に認識・関心とともに、地域社会の身近な取組みを伝えていく課題がある。その結果、こうした研修会・講座への参加状況は、2割と低い回答結果である。女性や加齢化と共に参加傾向顕著。ここでも、若者層の地域活動への参加をいか働きかけていくかの課題が浮き彫りになっている。
- ②地域の福祉活動を企画・運営する組織の認知度は約5割であるが、反面、理解していない割合が約4割。住民への「見える化」「わかる化」の啓発活動が課題となるとともに、ここでも、若い世代への地域の組織運営を理解する呼び掛けの必要性が浮き彫りになる。さらには、組織の活動拠点の認知度は低い。組織内の身近な生活圏域に、公民館をはじめ、公会堂、集会場等の活動拠点があることは、地域住民にとって、常に住民同士の話し合いが出来、問題解決につながり、地域活動の活性化にも大きな地域資源にもなり得ると考えられる。
- ③福祉サービスや福祉制度等に関心を持ち、話題がある地域である環境である5割の回答の反面、ここでも、「わからない」が3割、特に、若年層ほど地域への関心度が低いことがはっきりと浮き彫りになっている。世代を超えたふれあい交流による地域課題解決の一步として、若者層がいかにして、地域に目を向けていく地域学習を意図的に創ることが出来か大きな課題がある。

(6) 地域を取り巻く望ましい生活環境に関する考察

- ①住んでいる地域は、身近に福祉問題について相談し合える環境については、半数は対応出来る環境にあるが、わからないの回答が3割を示している。
- ②お互いに、ささえあう体制がある地域かは、半数が「支え合う地域」と回答。「わからない・支えあう地域ではない」が各2割。 ささえあう環境への課題がある。
- ③住み慣れた地域で、共に暮らし合い、支え合う活動を実現するための環境については、お互いに気軽に参加できる環境が整っていること、一緒に活動する仲間がいること地域の抱えている課題に関する情報が提供されていることが望ましいと回答。
- ④地域において取り組む「寄り合い処」の主なタイプは、「おしゃべりタイプ」「趣味タイプ」「カフェタイプ」「自由タイプ」「世代交流タイプ」。領域では、その必要性を感じない「希望なし」の回答もあり。
- ⑤地域で積極的に新しい人々とのつきあいを広げたい住民は約8割と高い。一方で、2割は消極的回答。福祉コミュニティ構築においては、積極的タイプだけを対象にした取組みから、一人でも多くの住民が参加する地域社会の構築が課題である。高齢者層と若者層では、積極的な地域交流を望んでいるが、勤労者層においては、地域社会との接点が少ないため、現状認識に留まっている状況と言える。
- ⑥地域での支え合いを約9割必要と感じている。特に、高齢者層及び30代から50代は、地域での支え合認識は高いが、若者層は必要性の認識は薄い。
- ⑦地域での役割の期待では、①防災・防犯などの日常的協力体制②世代を超えた住民同士のふれあい交流③日頃の見守り体制④地域行事での交流⑤暮らしの情報提供⑥近隣と問題提起こった時の解決、⑦身体上の緊急対応が挙げられている。

(7) 地域参加の動向に関する考察

これまでは、広く地域社会を捉えて、「居場所」の意義と取り巻く地域社会のあるべき方向性を探ってきた。こうした地域の大きな変化の中で、果たして「地域ぐるみの居場所」はいかにあるべきかを考察する。

- ①身近な地域の行事・活動への参加は、全体的には、6割「参加している」。しかし、2割は参加していない現状。女性の地域参加は男性よりも多い。年配者の参加状況が高く、若者層の参加は低い。居住年数別の地域参加状況を分析すると、地域に関わりの長い層は、地域参加も積極的である。
- ②身近な地域の行事・活動に参加していない理由は、「時間がない」「参加のきっかけがない」「興味がわかない」「情報が入らない」「近くに活動がない」「一緒に活動する人がいない」「自分に合った活動がない」である。ここで、参加を引き出す課題として「参加のきっかけ」「行動を共にする仲間づくり」「自分に合った活動」近くに活動がないをいかに改善し、課題解決できる地域づくりとするかである。
啓発活動を具体化し「見える化」の課題あり。
- ③気軽にしかける地域の居場所は、「公会堂・集会」「公民館」「友人宅」「出かけな

い」「なし」「親戚宅」「神社」などがあげられている。

加齢化と共に、地域資源としての公共施設を利用しているが、若者層は、個人的環境に留まっている傾向が顕著である。いかにして、地域の関わりをもとに人々の関係づくりが出来るかである。

- ④地域の居場所づくりは、誰が主体的に取り組むかの全体的結果では、ボランティアの有志、次に、地域コミュニティ組織と住民、そして、参加を希望する仲間中心、専門的な知識と経験を持った人又は施設、地域コミュニティの回答順である。また、今日の「居場所」の取り組みについて、わからないの回答は1割。公助ありきの今の社会の制度下において、このたびの調査研究事業では、改めて、福祉コミュニティ組織の再構築を問うにおいては、制度下のもとに、これまで培われてきた福祉コミュニティは、複雑かつ多様化した福祉ニーズが生じている現在において、継続的にかつ発展的に活動を維持していくためには、いかなる体制づくりが必要か検討していくことが望まれる。つまり、公助の仕組みが見直されてきていることに気づき、地域でささえあい、問題を改善・解決していく仕組みづくりはいかにしていくか、単に、市民の一部、又は特定の市民集団で地域を担う仕組みを良しとするか、あくまでも、福祉コミュニティ組織を再構築し確立していく上で、専門性（行政・施設・社協）との協働で取り組む仕組みを構築していくかを認識していく時期がすでに来ていることに気づき取り組むかである。すでに、各項目ごとに、明らかにしてきた、若者層の地域との関わりを誰が仕掛けていき気づく場の提供をしていくかである。

改めて、強調しなければならないことは、これまでは、社会的ニーズが大きく取り上げられていない状況にあっては、ごく一部のボランティア有志の活動で良かった取り組みが制度改正に伴い、地域課題として浮き彫りになってきた今日、ごく一部の市民集団で、社会全体の課題解決が十分できるかを、改めて問題提起をしていく時期を迎えている。

- ⑤望む地域の居場所の環境は、誘われた参加といった受身的回答が7割を占めている。居場所への参加の自主的傾向は弱い。それだけ、まだ、一人ひとりの福祉課題としての「居場所」の受け止めではない。「居場所」の原点とともに、一人ひとりの居場所の存在を考える機会と捉えたい。ルールは、ある程度設定することが望ましいとしている。円滑な活動展開の上では一定のルールをしていくことが望まれている。
- ⑥組織・運営については、上下をつくらない対等な環境を保持することを原則として自由性を重視しながらも、気軽に対等な環境でありたいとの思いが受け止められる。今日、様々なタイプの居場所が展開されているが、地域を取り巻く望ましい生活環境における「地域の寄り合い処」として望む傾向として、お互いを認め合いながら行動を共にし、地域の情報を共有し、生活と社会参加を基盤にした「おしゃべりタイプ」「趣味タイプ」「カフェタイプ」「自由タイプ」「世代交流タイプ」等があげられているが、いずれにしても、参加者同士の自由な交流の場を維持継続していくことの課題が明らかにされている。

第6章 福祉コミュニティ再構築に向けた提言

ーご近所福祉論議からつなぐ“地域ぐるみの居場所”をいかに創るかー

本事業は、本会がこれまで、福祉文化実践活動として、22年間取り組んできたプロセスを通じて、「ご近所福祉」からさらに、いかにして、「地域ぐるみのささえあいの仕組み」を生み出すことが出来るかを市民の視点で検証する目的で取り組んだ。

今日、住民の地域参加への関心の弱まり、参加への消極的傾向、加えて、家庭機能の弱体化による生活困窮者や、子育て環境の不安定、子どもの孤立化・貧困化、若年層を取り巻く精神的不安定な環境、高齢者を取り巻く生活環境変化に伴う孤独孤立化等、様々な福祉問題が年々浮き彫りになっている。複雑化・多様化した地域社会を今一度、住民一人ひとりが再認識していくことの必要性を本事業では強調し提起してきた。これまでの地域づくり1から、これからの福祉コミュニティの構築に向けて、私たちの地域社会は、一体誰が担っていくのか、そのためにはどのような問題・課題があるのかを9月から3月までの7ヶ月間にわたり、事業の柱立てをして取り組んできた。

具体的には、家庭機能に求められる安らぎや精神的解放感といった「情緒安定機能」は、子どもや高齢者、子育て環境にいる全ての人々にとって十分な役割を果たしているか、またご近所とお付き合いが家庭の個人志向化・希薄化で閉ざされてきたいま、地域の資源を有効活用した拠点整備はできないか、家族間やご近所間、職場間といった人とのつながりが希薄化している環境の中での寄合処の必要性を問い質す時期に来ている。

こうした、人々とのつながりを深めようと今日、県内各地で、特に、福祉問題解決課題別に、高齢者対象、認知症を理解し合う関係者対象、障害児者対象、子育て対象、青少年対象、子ども対象、世代交流対象等多様な形で「居場所」に取り組んでいる。最近では、運営上の課題をはじめ、誰が取り組むべきか、協働の取り組みは出来ないのか等様々な議論が浮上している。

本事業では、こうした運営の主体性、地域環境整備、協働のあり方等、「居場所」を取り巻く様々な諸問題をもとに、今一度「居場所の原点」を県民と共に検証しようと、(1)専門性と市民性の融合による「共創社会研究会」の開催 (2)“居場所”を取り巻く地域環境に関する調査の実施 (3)市民主体の公開型研修会から“居場所”を検証 (4)地域を拓く“居場所活動”を訪問検証 の4つの柱立てで取り組んだ。

この章では、「地域社会の各領域から16名の構成で議論した共創社会研究会の意見集約」「県民1,443名から回答をいただき、若者層8名がデータ入力・考察に参画してまとめた「居場所ってなにその意識と実態」調査研究活動の考察」「“居場所”をテーマに地域総合型学習としてワークショップで学び合った公開型研修会からの成果物」「最近開所した新たな地域ニーズに基づき取り組んでいる“居場所”を直接訪問し検証した居場所活動検証訪問活動からの検証」から浮き彫りになった25項目を本事業からの提言としてここにまとめた。

ささえあう地域ぐるみの“地域ぐるみの居場所”をいかに創るか”

福祉コミュニティ再構築に向けた25の提言

- 提言 1 「地方発 福祉文化の創造」をもとに「豊かに暮らせる地域づくり」の第一歩は、それぞれの地域実情を確実に把握し、「地域を知ること」「社会の動き・地域の動きの把握」に関心を持つことから始める
- 提言 2 「居場所」なぜ誕生したのか そこに人がいて、自由に関係づくりをする「居場所」の原点を明確にし、いかに継続性、発展性つなげる「居場所」のこれまでのプロセスを論議し実践につなげる
- 提言 3 専門性と市民性をトータルにコーディネートする役割分担を明らかにした地域づくりをめざし、福祉問題を決して福祉関係者だけで解決することなく、協働による取り組みに発展させ地域の組織間調整機能を確立する
- 提言 4 語れる・話せる環境（地域コミュニケーション力のアップ）の醸成に努め、市民一人ひとりが参画する「楽しい地域」を創る
- 提言 5 大人社会が若者の地域参加できる地域環境を整える地域力を磨く
- 提言 6 常に地域資源の発掘と活用、地域の担い手の養成に努め、地域活動のさらなる成果をあげて、社会提言出来るよう関係機関・団体等と福祉情報を共有する
- 提言 7 全ての住民、領域別に福祉情報を共有し、住民福祉教育（地域総合型学習）を推進する
- 提言 8 子どもから長寿者まで、それぞれの領域が持つ住民力（趣味・特技）もって、世代間をつなぐ交流で「地域力の再構築」に取り組み
- 提言 9 地域や住民をつなぐ生活圏域の移動手段を解決する等、生活圏域におけるささえあいの必要性を日常生活の中で話し合う環境をつくり、課題解決につなげる
- 提言 10 家庭環境から地域環境につなぐ地域住民一人ひとりを尊重して、豊かに暮らせるコミュニティづくりをめざす
- 提言 11 世代にあった情報提供のあり方を探り、地域ぐるみで支え合うための福祉情報の共有と個人情報保護のルール化の徹底に努める

- 提言 12 地域の福祉課題を共有し、コミュニティ組織でいかに取り組むかを協議し、活動に関わる社会的資源の開拓に努める
- 提言 13 「当たり前のことを当たり前実践できる地域環境づくり」に努める
- 提言 14 日頃から、一人ひとりが他人に頼らない「自分の居場所づくり」を持ち、地域との関係づくりをし、世代を越えた「地域ぐるみの居場所」創りを心掛ける
- 提言 15 地域活動は、地域をつなぐ、一人ひとりをつなぎ、住民主体の地域づくりに心掛け、依存することなく、応能な負担による真の自立をめざす
- 提言 16 地域社会にあっては、対等で見返りを求めず、常にコミュニケーションが取れる環境に心掛ける
- 提言 17 福祉施設の持つ「施設の社会化」を地域コミュニティ組織が理解し、地域と福祉施設の協働による地域福祉問題解決に努める
- 提言 18 「地域社会には、いろいろな人がいて当たり前」
対等で向き合う地域環境に努める
- 提言 19 集合住宅地域におけるコミュニティ組織の維持と地域活動の意義を住民に理解を求め周知する
- 提言 20 男性の地域活動の出番とその役割が見える化し、コミュニティ組織の活動の中で明らかにする
- 提言 21 家族・家庭機能を総合的教育領域の中で理解し、真の居場所の確立を図る中で、日常生活圏域において、ささえあう支援体制や仕組みを発展させる
- 提言 22 住民一人ひとりが、現在の福祉サービスや制度を理解し、学び合う機会をつくりながら、地域社会の支援のあり方を専門領域と市民性の融合により、と共に構築する努力をする
- 提言 23 防災と福祉を地域活動の原点におき、日頃の近所関係を維持できる努力をする
- 提言 24 お互いにささえあう地域づくりに努め、市民総ボランティア意識を高めていく
- 提言 25 住民一人ひとりが主体の地域を創る意識啓発学習環境づくりに努める

第7章 資料編

平成29年度 ふじのくに未来財団助成事業「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくり」経過記録

月日	活 動 内 容
05/21	平成25年度本会全体会第1回公開型研修会開催（寄ってっ亭・25名参加）
05/27	平成29年度調査研究活動に関する検討研究会開催
05/28	焼津市港第14自治会・第12町内会「いかずい北川原」居場所開所式協力
06/13	県社協ふれあい基金助成決定連絡有／静岡市V連絡協議会より、「静岡市表彰推薦」打診あり
06/14	県社協ふれあい基金助成決定に伴う申請書の正式提出
06/15	あしたの日本を創る協会に、「新たな地域課題助成申請書」提出
06/16	ふじのくにNPO活動センター「ふじのくに未来財団・助成申請書」を提出打診 「日本財団」に本会登録手続き実施
06/19	ふじのくにNPO活動センター「ふじのくに未来財団・助成申請書」提出。 印刷業者との連絡調整（調査報告書の見積書（200部））研究会との連絡調整
06/24	焼津市港地域づくり推進会主催「平成29年度焼津市港地域ささえあい講座」協力要請文書届く。
06/25	初めて第4日曜日開所した「焼津市いかずい北川原」居場所協力（23名参加）
06/28	静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業贈呈式出席
06/30	静岡県社会福祉協議会へ「ふれあい基金助成事業概算請求書」提出
07/05	Our Life 111号発送作業
07/08	ふじのくに未来財団助成事業プレゼンに関する連絡調整（PowerPoint）
07/11	港地域ささえあい講座（焼津市）第1回実行委員会開催 ふじのくに未来財団助成事業プレゼンに関する連絡調整（PowerPoint）
07/13	「あしたの日本を創る協会」との助成申請に関する連絡調整
07/13	ふじのくに未来財団より、書類審査合格 7/19 までに PowerPoint データを事務局に送信の連絡有。
07/18	ふじのくに未来財団助成事業のプレゼンに関する PowerPoint 最終作成作業 その後、ふじのくに未来財団に PowerPoint 提出 7/20 プレゼン用関連資料作成作業
07/20	13:00 ふじのくに未来財団助成事業プレゼン出席
07/21	「あしたの日本を創る協会」より、助成決定通知書届く
07/22	今後の事業計画の再検討作業実施
07/27	ふじのくに未来財団助成事業決定通知届く。
07/29	「ふじのくに未来財団助成事業」、「あしたの日本を創る協会」助成決定、
07/31	「ふじのくに未来財団助成事業」「概算払い請求書」提出 「あしたの日本を創る協会助成金」「県社協ふれあい基金助成金」助成確認
08/01	平成29年度本会活動計画の見直し作業実施。
08/06	第184回委員会開催（本会活動進捗状況確認と修正事業確認）
08/07	「共創社会研究会」設置に関する協議、居場所実践地区開拓作業
08/20	調査研究活動に関する連絡調整
08/26	第185回運営委員会開催、公開型研修会企画作業及び広報啓発作業実施
08/30	Our Life 112号発行、関係方面に発送。
08/26	第185回委員会開催 助成決定に伴う、9月以降の活動の具体化検討と「第1回共創社会研究会」の開催について説明
08/27	助成事業に関する「報告書」作成について、印刷業者との協議

08/28 「共創社会研究会」委員の依頼に関する問い合わせ・協議
第1回「共創社会研究会」開催に向けた、各種資料及び準備資材等の作成作業開始

08/30 静岡市表彰に関する連絡調整 共創社会研究会の委員承諾確認

09/05 ふじのくに未来財団へ近況報告実施

09/06 第1回共創社会研究会に関する連絡調整

09/09 第1回共創社会研究会開催 16名中1名欠席

09/14 Our Life 113号編集作業実施（～9/25）

09/15 「居場所ってなに？その意識と実態調査」個票作成作業（～9/25）

09/22 第3回港地域ささえあい講座実行委員会開催

09/22 ふじのくに未来財団へ出向き、「第1回共創社会研究会」等近況報告実施

09/23 「居場所ってなに？その意識と実態調査」個票印刷作業実施（2000枚）

09/25 Our Life 113号発送作業実施

09/30 第186回委員会開催 第2回公開型研修会開催（40名参加）
若者発“居場所”あり方研究会との意見交換（本会活動との協働）

10/02 平成29年度「居場所ってなに？その意識と実態調査」に関するデータ入作業に関する協議

10/03 平成29年度「調査研究事業」に関する当面の取り組み協議

10/04 9/25 発送した「平成29年度・居場所ってなに？その意識と実態調査票」の回収始まる

10/05 若者発“居場所”あり方研究会との連絡調整

10/11 調査活動に関する連絡調整

10/15 Our Life 114号発送作業実施

10/26 調査票回収614枚（28%）

10/27 ふじのくに未来財団へ事業実施状況経過報告 当面の事業の取り組み協議

11/01 調査票回収772枚（35%） 本会が静岡市表彰決定

11/08 ふじのくに未来財団へ事業実施状況経過報告

11/10 ふじのくに未来財団との連絡調整（11/30開催の活動報告会関連）

11/11 第2回共創社会研究会開催 第5回港地域ささえあい講座実行委員会開催

11/14 実践地区訪問検証計画作成作業実施（訪問先打診作業）

11/16 本日まで、151名の調査協力者への礼状と負担額の支払い事務手続き実施
ふじのくに未来財団との連絡調整（調査票回収状況）

11/17 調査票回収1417枚（64%） 本日をもって回収終了 学生協力者に調査票渡す

11/21 ふじのくに未来財団に出向き、経過報告（調査・研究会・実践地区訪問）実施

11/23 静岡市表彰式出席

11/25 第167回委員会開催 第16回 静岡県福祉文化研究セミナー開催

11/29 関係機関・団体との連絡調整

11/30 ふじのくに未来財団活動報告会出席

12/01 Our Life 115号発送作業実施

12/02 第4回港地域ささえあい講座協力支援

12/08 実践活動検証研修依頼文書送付

12/12 調査データ入力作業状況打診

12/14 研究会委員の実践活動検証研修参加希望とりまとめ 調査データ入力作業状況打診

12/24 実践活動検証研修①（焼津市・長者の森 コラレカフェ） 調査データ入力作業状況打診

12/26 実践活動検証研修②（掛川市・NPO法人風の家長者の森）

12/28 実践活動検証研修③（菊川市・市営団地内居場所設置協議同席）

12/29 調査入力協力学生への礼状発送

01/01 調査データ入力作業状況打診
 01/05 実践活動検証研修④（裾野市・アートサロン）
 01/06 調査報告書作成検討作業
 01/13 第3回共創社会研究会開催／第188回委員会
 01/14 第3回共創社会研究会事後処理 沼津市古川氏との連絡調整
 01/15 調査研究事業のデータ処理について問い直す
 01/16 Our Life 116号編集作業
 01/17 居場所検証研修報告書作成作業
 01/18 県社会福祉協議会より、助成事業実施報告書4/10までに提出連絡あり
 01/19 調査研究事業のデータ処理協議実施
 01/24 あしたの日本を創る協会主催「自治会町内会講座」参加の折、助成事業の進捗状況報告し、引き続き支援要請をお願いする
 01/26 第3回公開型研修会開催要項・チラシ作成作業
 01/27 第3回公開型研修会開催案内文書とOur Life 116号発送（157ヶ所）
 01/28 第3回公開型研修会開催 マスコミ対応
 01/30 調査協力者中心に第3回公開型研修会開催案内文書とOur Life 116号発送、
 01/31 会計に関する連絡調整 調査研究事業のデータ処理協議実施
 02/01 静岡新聞社 鈴木記者より、調査結果の取材時期問い合わせあり
 02/02 調査報告書考察作業実施
 02/03 静岡新聞社 荻田氏へ、取材依頼
 02/07 クロス集計考察作業に入る
 02/15 沼津原団地 居場所見学 調査研究・クロス集計考察及び修正作業に入る
 02/17 第28回日本福祉文化学会 東京大会に参加し、次年度より、中部・東海ブロック担当に当たり、事務局長に要望意見を伝える。
 02/19 静岡新聞社 鈴木記者との連絡調整 調査報告書データをシブヤ印刷工芸社に渡す
 02/20 静岡新聞社 鈴木記者との協議（調査報告書に関する意見交換）
 02/21 第189回委員会レジメ作成作業 助成事業報告書作成作業に入る
 ふじのくに未来財団との連絡調整
 02/22 静岡新聞社 鈴木記者との協議（居場所に関する考察についての取材）
 02/24 調査報告書に関する印刷業者との協議
 02/25 助成事業報告書編集作業に入る
 02/28 調査報告書納品 助成事業報告書データ渡し（入稿）
 03/04 第3回公開型研修会開催
 03/06 第3回公開型研修会事後処理作業 第4回共創社会研究会準備
 03/07 関係機関団体等との連絡調整
 03/09 助成事業報告書納品あり
 03/10 第190回委員会開催
 第4回「共創社会研究会」開催
 03/11 「共創社会研究会」事後処理
 03/17 第8回港地域ささえあい講座実行委員会開催
 03/20 助成事業実施報告書の作成作業実施
 03/23 助成事業実施報告提出
 03/24 ふじのくに未来財団との連絡調整
 03/25 関係機関・団体等に事業終了に伴う礼状送付

平成 29 年度 ふじのくに未来財団・静岡トヨタ助成事業
福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業
—ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言—事業実施計画書

1. 目的

今日、社会全体が「公助」又は「専門領域」により地域づくりは成し得ている意識が強い。「共助」による、市民主体の地域活動のあり方を探り、地域の担い手は、一体だれかを問い質す。また、弱体化した家庭機能を「地域がいかに、家庭機能化していくことができるか」について、本来「真の居場所」は、家庭にあるはずであるが、今日では、「福祉課題別居場所」（高齢者対象，障がい者対象，子育て対象，青少年対象等）が、地域の福祉ニーズ改善・解決に向けて積極的に取り組まれている「居場所」を改めて、これから地域社会における「地域ぐるみの居場所」の取り組みについて、県民の意識と実態を把握し、県民に課題提起をしていくとともに、どのような運営主体、環境整備等が求められるか「共創社会研究会」や「公開型研修会／ワークショップ」を通じて検証する。

2. 事業内容

(1) 「共創社会研究会」設置による研究協議（16名の委員構成）

- a. 期間中4回（10月、11月、1月、3月）開催し、研究協議をする
- b. 研究協議内容
 - ①調査個票作成，調査実施方法の検討
 - ②実践地区（協力いただいた地区）の取り組みのプロセスから学び検証
 - ③調査結果考察
 - ④公開型研修会企画
 - ⑤事業報告・提言

(2) 「居場所ってなに その意識と実態調査」の実施

- a. ねらい：「静岡福祉文化を考える会」は、この21年間、「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組んで出来た。その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。今回の事業では、これまでの調査研究活動のプロセスを継承し、引き続き、若者の地域参加の重要性を呼びかけて、「居場所ってなに？ その意識と実態調査」をテーマに実施。

b. 調査項目

30の設問を、(1)基本属性(性別、地域別、居住年数、年代別、居住環境別等)、(2)住民の生活状況、(3)地域との関わりの意識、(4)地域との関わりの実態、(5)地域を取り巻く望ましい生活環境、(6)地域の意識・実態、(7)提言(自由意見)の7項目で考察する。

c. 調査展開:

- ① 調査実施期間……………09月～10月
- ② 入力期間……………10月～11月
- ③ 分析・考察……………12月～01月
- ④ 公表……………03月

d. 実施主体: 静岡福祉文化を考える会

e. 協力: 若者発“居場所”あり方研究会, 共創社会研究会

f. 対象: 静岡県内の10代以上の県民(年代、世代、領域等を調査依頼/配布方法
①会員(現在24名)、②若者発“居場所”あり方研究会、③関係団体、④企業 等約1,000枚の回収を目標とする。

(3) 県民対象に「公開型研修会」開催

a. 第1回「公開型研修会」の開催

- 日時: 平成29年11月25日(土) 13:30～16:30
- 会場: 静岡県総合福祉会館6階601会議室
- テーマ: 『ほっとする居場所をつくる』
 - ① 基調報告「地域の居場所 その意識と実態を探る」
 - ② ワークショップ「ほっとする私の地域 ほっとする私の居場所を探る」

b. 第2回「公開型研修会」の開催

- 日時: 平成30年3月4日(日) 13:30～
- 会場: 静岡県総合福祉会館1階101会議室
- テーマ: 『今なぜ居場所か』
 - ① 報告「若者から見た居場所, 大人から見た居場所」
 - ② ワークショップ「一人でも安心して暮らせる地域づくりを考える」

c. 第16回 静岡県福祉文化研究セミナー

- 日時: 平成29年11月25日(土) 13:30～16:00
- 会場: 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
- テーマ: 『静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所』
 - ① 基調報告 その1「福祉文化研究セミナーの16年を探る」

- ② 基調報告 その2「地域の居場所 その意識と実態を探る」
- ③ ワークショップ「ほっとする私の地域 ほっとする私の居場所を創る」

(4) 居場所活動訪問検証事業

1. 東中西7か所各2ヶ所の訪問先を決定

- ①東部（住民とコミュニティ組織が協働での取り組み）
410-0306沼津市大塚1121-4 県営原団地自治会内 “ヌマヅハラ県” Sルーム
- ②東部（自宅解放型から地域活性化に向けた取り組み）
410-1115裾野市千福が丘4-11-6 千福が丘アートサロン
- ③中部（町内会・自治会を基盤とした取り組み）
425-0041 焼津市石津727-2 北川原公会堂内「いかずい北川原」
（港第14自治会第12町内会運営主体）
- ④中部（当事者的視点からの取り組み）
426-0078藤枝市南駿河台2-2-3 ほっとな居場所輪笑
- ⑤中部（施設機能の社会化の取り組み）
425-0071焼津市三ヶ名558-4 長者の森「カフェコラレ」
- ⑥西部（障害者支援と地域拠点の取組み）
436-0021掛川市緑ヶ丘1丁目9-5 NPO法人風の家
- ⑦西部（居場所立ち上げ検討協議の取り組み）
439-0018菊川市本所 市営上本所団地内

2. 開設に至る思いやプロセスを重視した検証をする。

3. 地域課題解決に向けた各居場所の取組みの現状と課題・提言

(5) コミュニティ組織との連携に努め、広く住民の意見を把握する

- a. 住民主体の啓発学習の取り組みのプロセス
- b. 住民主体の居場所の取り組みの検証
- c. 住民の意見集約

平成 29 年度 ふじのくに未来財団助成事業「静岡トヨタ自動車（株）ハイブリッド基金助成事業」
 テーマ：「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言」 事業計画

静岡福祉文化を考える会

区分	事業名	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
研究 協議	(1)定例委員会 提言報告書完成			5/21			8/6	9/30	柱立て	11/25		1/13	2/18	報告書発行	
	(2)共創社会研究会							①9/9		②11/11		③1/13		④3/10	
	(3)事務局連絡調整	← 常時連絡調整機能を持ち、事業の円滑な進行管理を行う →													
	(4)若者発“居場所”あり方研究会との協働	← 本会から、平成 28 年度、常葉大学同好会として活動するグループ・常時連絡調整機能を持ち、事業の円滑な進行管理を行う（年間） →													
実践	(1)「ご近所福祉かるた」(拡大かるた)の有効活用と検証	←平成 27 年度、共同募金助成事業で 100セット作成 常時、貸出先との連絡関係を持ち、県民の啓発に活かす（年間） →													
	(2)居場所実践地区検証	情報収集作業			地区開拓	地区協議	検証①	検証②	検証③	検証④	考察	考察	総括		
広報	(1)OUR LIFE 発行				111号	112号	113号	114号		115号	116号			117号	
	(2)マスコミ対応	← 年間を通じて、本事業を課題提起し、県民へ啓発する →													
研修会	(1)全体会研修会		5/21												
	(2)第 1 回公開型研修会	協議				協議	9/30	考察							
	(3)第 2 回公開型研修会							協議	11/25	考察					
	(4)第 3 回公開型研修会												協議	3/4	
	(5)第 16 回福祉文化研究セミナー						協議		11/25	考察					
調査	「居場所ってなに？ その意識と実態調査」の実施	調査項目検討		調査実施			回収入力		分析	考察				公表	
団体 連携	(1)ふじのくに未来財団	定期的に事業進捗状況報告等実施													
	(2)あしたの日本を創る会	その都度情報提供・連絡・報告実施													
	(3)関係大学・NPO 法人等	その都度情報提供実施													
	(4)地域福祉活動実践団体等	その都度情報提供実施													
	(5)日本福祉文化学会	その都度情報提供実施													
	(6)焼津市港地域ささえ合い講座協力							第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回				
	(7)居場所立上げ支援(焼津市)	5/28 開設 その後、月 4 回の開設への協力と実践活動・検証													
	(8)県社協・35 市町社協との協働	県社協：定期的に事業進捗状況報告 / 35 市町社協：その都度情報提供実施（調査協力依頼）													
	(9)静岡市 V 連	その都度情報提供実施													
(9)あしたの日本を創る協会	定期的に事業進捗状況報告等実施														

平成 29 年度 ふじのくに未来財団助成事業
静岡トヨタ自動車（株） ハイブリッド基金
「福祉コミュニティ再構築に向けた県民意識と実態把握事業」
共 創 社 会 研 究 会 設 置 要 綱

1. 設置目的

「静岡福祉文化を考える会」が、平成 29 年度に、福祉コミュニティ再構築に向けた県民意識と実態把握事業一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言―を活動テーマに取り組むに当たり、これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、既存の「居場所」の現状把握と、課題を浮き彫りにし、問題提起を持ち、県民の意識と実態どうかを把握し、これからの福祉コミュニティのあり方を問い質す機会を創り、これからの地域づくりに求められる「真の居場所」（地域で人々がささえあう）を問うとともに、「地域の担い手」を検証し、「いかにして、共創社会を実現していくか」を議論する目的で設置する。

2. 構 成

本会の委員は、世代・領域を超えた構成で、市民主体の議論ができる、次に掲げる領域から概ね 10 名程度をもって構成する。

- (1) 地区実践活動者
- (2) 社会福祉協議会領域
- (3) コミュニティ（自治会）領域
- (4) 本会会員
- (5) 若者領域

3. 依頼期間と研究会開催日

(1) 依頼期間

本会の本事業活動期間（平成 29 年 8 月 10 日より平成 30 年 3 月 31 日まで）を依頼する。

(2) 開催時期

- 第 1 回 09 月 09 日（土） 13:30 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室
- 第 2 回 11 月 11 日（土） 13:30 静岡県総合社会福祉会館 102 会議室
- 第 3 回 01 月 13 日（土） 13:30 静岡県総合社会福祉会館 104 会議室
- 第 4 回 03 月 10 日（土） 13:00 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室

(3) 協議内容

- ① 研究会の位置づけと方向性、地域の現状、課題
- ② 調査実施、調査実施要項、調査個票、調査実施、調査結果考察
- ③ 実践地区検証（6 地区）
- ④ 公開型研修会結果考察
- ⑤ 事業全般考察（提言）

4. 研究会の運営・連絡先

- (1) 本研究会の運営は「静岡福祉文化を考える会」が実施する。
- (2) 本会研究会の連絡先を下記に置く。

郵便 425-0041 焼津市石津 751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平 田 厚
Tel & Fax: 054-624-1924
携帯 : 090-4861-4547

平成 29 年度 静岡福祉文化を考える会事業

「福祉コミュニティ再構築に向けた県民意識と実態把握事業

ーささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言ー」

共 創 社 会 研 究 会 委 員 名 簿 (順不同・敬称略)

No.	氏 名	領 域	地 域	備 考
1	石黒和子	沼津市社会福祉協議会	東部・沼津市	
2	大澤佑介	静岡市社会福祉協議会 清水区地域福祉推進センター	中部・静岡市	
3	松井洋治	掛川市社会福祉協議会	西部・掛川市	
4	古川 久	居場所・ヌマヅハラ県, S ルーム	東部・沼津市	
5	石原孝之	居場所・カフェコラレ	中部・焼津市	
6	西山美紀子	居場所・ほっとな居場所輪笑	中部・藤枝市	
7	佐藤春美	特定非営利活動法人風の家	西部・掛川市	
8	池田貞夫	市民（健康生きがいづくりアドバイザー）	東部・長泉町	
9	桑原信夫	市民（静岡市清水区由比寺尾自治会長）	中部・静岡市	
10	江間彦之	市民（磐田市豊岡地区社会福祉協議会会長）	西部・磐田市	
11	河野恵介	静岡福祉文化を考える会 若者発“居場所”あり方研究会	駿東郡清水町	
12	家本 豊	静岡福祉文化を考える会	静岡市葵区	
13	古屋貴彦	静岡福祉文化を考える会	静岡市葵区	
14	坂本真琴	静岡福祉文化を考える会	静岡市駿河区	
15	藤下品子	静岡福祉文化を考える会	静岡市清水区	
16	平田 厚	静岡福祉文化を考える会	焼津市	

○事務局・問い合わせ先

〒425-0041 焼津市石津 751-1

静岡福祉文化を考える会

代表 平 田 厚

TEL054-624-1924 携帯 090-4861-4547

平成 29 年度 静岡福祉文化を考える会 調査研究事業
福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業
－ ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言 －

居場所ってなに？ その意識と実態調査 実施要項

1. 調査の目的

「静岡福祉文化を考える会」は、この 21 年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にし、「調査研究活動」に取り組んできた。そして、その調査分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

これまでの調査研究活動を振り返ると、

- 平成 09 年度 ①「共働きに関する調査」
- 平成 10 年度 ②「私たちにとって、地域とは何かーその 1ー意識と事態調査」
- 平成 11 年度 ③「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 平成 12 年度 ④「父親に関する調査」
- 平成 13 年度 ⑤「ボランティア活動実践者意識調査」
- 平成 14 年度 ⑥「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 平成 15 年度 ⑦「青少年の生きがいに関する調査」
- 平成 16 年度 ⑧「地域とは何かーその 2ー意識と事態調査」
- 平成 17 年度 ⑨「子どもと社会環境に関する調査」(継続調査)
- 平成 18 年度 ⑩「子どもと社会環境に関する調査」(総括)
- 平成 19 年度 ⑪「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 平成 20 年度 ⑫「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」(静岡県共同募金会助成事業)
- ⑬「日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)
- 平成 21 年度 ⑭「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成 22 年度 ⑮「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとはなにか本音に迫る調査」(静岡県委託事業)
- 平成 23 年度 ⑯「地域と私の居場所その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成 24 年度 ⑰「家族ってなに その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成 25 年度 ⑱「長寿者をつながる ホットするご近所づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成 26 年度 ⑲「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成 27 年度 ⑳「若者の地域参加その意識と実態調査」
- 平成 28 年度 ㉑「ご近所福祉 その意識と実態調査」

と、「21 のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。通算 22 回目となる今年度は、これまでの展開を継承しつつ、福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業－ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言－を課題として「居場所ってなに？ その意識と実態調査」に取り組む。

これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、「家族機能」のあり方を問いつつ、既存の「居場所」の現状を把握し、県民の意識と実態調査結果から浮き彫りとなった課題を基に、これからの福祉コミュニティに向けた、「真の居場所」(地域を人々がささえあう環境)の開拓と共にその「地域の担い手」を検証する。

2. **実施主体** 静岡福祉文化を考える会

3. **協 力** 若者発“居場所”あり方研究会 共創社会研究会

4. **対 象**

静岡県内の10代以上の方々を対象に、年代・世代・領域等を考慮して、約1,000名程度の回収を目標に実施。

5. **調査依頼／配布方法**

- (1) 会員（現在24名）には、各5枚（120枚）
 - (2) 若者発“居場所”あり方研究会の全面的な協力により、家族・知人・友人・先輩等広く開拓し協力をお願いする。（100枚）
 - (3) 地域実践者には、本会より直接郵送等で依頼。（300枚）
 - (4) 県内市町社会福祉協議会、福祉施設、NPO、企業等に直接郵送等で依頼（1,000枚）
 - (5) 各種研修会等（100枚）
 - (6) 県内自治会組織関係者等（100枚）
 - (7) 大学・専門学校・高等学校等（280枚）
- 計 2,000 枚

6. **調査項目**

- (1) 基本属性
 - (2) 住民の生活状況
 - (3) 地域との関わりの意識
 - (4) 地域との関わりの実態
 - (5) 地域を取り巻く望ましい生活環境
 - (6) 地域参加の動向
 - (7) 提 言（自由意見）
- ※細部は「共創社会研究会」で具体化する。

7. **調査展開**

- (1) 調査項目・調査票検討 本会及び「共創社会研究会」を中心とした調査部会等で検討
- (2) 調査票まとめ……………09月20日
- (3) 調査依頼（実施期間）……………09月25日～10月25日
- (4) 回収期間……………09月26日～11月10日
- (5) 入力期間……………09月30日～11月30日
※入力期間は、協力者を基に、本委員会の「調査部会」で調整協議
- (6) 分析・考察……………12月10日～01月10日の調査部会において実施
- (7) 公表・報告……………平成30年02月以降予定
 - ① 公開型研修会及び関係機関・団体等の各種研修会で経過報告
 - ② 本会機関紙『Our Life』で随時経過・概要紹介に努める

8. **問い合わせ先・送付先**

〒425-0041 焼津市石津 751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平 田 厚
Tel & Fax: 054-624-1924 携帯：090-4861-4547

平成 29 年度（第 22 回） 静岡福祉文化を考える会 調査研究事業

居場所ってなに？ その意識と実態調査

本来、「真の居場所」とは、家庭機能の中に、ホッとできる環境として存在しています。しかし、今日、家族形態の大きな変化により、希薄化・弱体化している一面が感じられます。また、超高齢社会の到来により、地縁・血縁の希薄化により、相互扶助の基盤が崩れつつあります。こうした家庭的機能の環境を、身近な地域でいかに築いていけるかです。「住み慣れた地域で人々が顔の見える関係づくりをし、ふれあい交流する場」として、現在、県内外で広く「ふれあいサロン・居場所」が取り組まれています。このたびの調査は、私たちの生活圏域における住民相互のささえあいのあり方を「居場所ってなに？ その意識と実態調査」として、皆様にご協力をいただき実施するものです。

※特に、指定がなければ、該当する番号 1 つに○を付けてください。指定のある場合は、指定内の選択で回答してください。

設問 01. あなたの属性について、お答えください。

問 01. 性別 ①男性 ②女性

問 02. 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上

問 03. あなたの職業（所属群）は、次のどれにあたりますか。

①中・高校生 ②短大・専門学校・大学生 ③会社員 ④公務員 ⑤自営業 ⑥団体職員 ⑦自由業
⑧主婦 ⑨パート・フリーター ⑩無職 ⑪その他（ ）

問 04. あなたの居住形態について、お答えください。

①持ち家 ②借家 ③社宅・官舎 ④その他（ ）

問 05. あなたは、今の地域に住んで何年になりますか。

①2年未満 ②5年未満 ③10年未満 ④15年未満 ⑤20年未満 ⑥30年未満 ⑦30年以上

問 06. あなたのお住まいは、どの地域ですか。

①県東部 ②県中部 ③県西部

問 07. あなたの地域は、次のどの地域形態にありますか。

①街部 ②新興住宅地 ③農村部 ④山間部 ⑤海浜部 ⑥その他（ ）

問 08. あなたの現在の家族形態をお答えください。（下宿者（学生）は、これまでの生活環境）

①祖父母や孫が同居する大家族 ②親と子どもだけの家庭 ③夫婦だけの家族 ④一人暮らし（未婚）
⑤一人暮らし（配偶者との死別、離別、別居） ⑥その他（ ）

設問 02. あなたの住んでいる地域は、暮らしやすいですか。

①とても暮らしやすい ②どちらかといえば暮らしやすい ③どちらともいえない
④どちらかというとも暮らしにくい ⑤暮らしにくい

- 設問 03. あなたは、隣近所にお住まいの方々とは、どのようなおつきあいをされていますか。
①家族ぐるみで親しくしている ②困った時に協力し合う ③時々世話をする
④会えば挨拶をする ⑤ほとんどつきあいはない
- 設問 04. あなたの、現在暮らしている地域での暮らしについて、お答えください。
①まったく不安を感じていない ②不安を感じていない ③多少不安を感じている
④非常に不安を感じている
- 設問 05. 「③多少不安を感じている、④非常に不安を感じている」を回答された方にお聞きします。
不安な内容はどのようなことですか。主なものを2つ以内でお答えください。
①健康面 ②身近に頼れる人がいない ③家族のこと ④社会の仕組み ⑤災害時 ⑥犯罪 ⑦家事
⑧経済的負担 ⑨相続に関すること ⑩近所づきあい ⑪その他（ ）
- 設問 06. あなたは、地域活動に関する情報や知識はどのように得ていますか。主なものを2つ以内でお答えください。
①自治会・町内会回覧板 ②自治会・町内会関係者から ③福祉関係者（民生委員・福祉施設・社協）から
④地域掲示板 ⑤新聞・雑誌 ⑥テレビ・ラジオ ⑦公共施設（公民館） ⑧教育領域（学校・教員）
⑨口コミ ⑩情報がない ⑪その他（ ）
- 設問 07. あなたの家族はどのような家族ですか（でしたか）。主なものを2つ以内でお答えください。
①明るい ②暗い ③楽しい ④つまらない ⑤仲が良い ⑥仲が悪い ⑦まとまりがある
⑧まとまりがない ⑨にぎやか ⑩おとなしい ⑪やすらぐ ⑫疲れる ⑬温かい ⑭冷たい
⑮その他（ ）
- 設問 08. あなたは、「地域活動」に関心がありますか。
①とても関心がある ②ある程度関心がある ③あまり関心がない ④全く関心がない ⑤わからない
- 設問 09. 「①とても関心がある ②ある程度関心がある」と回答した方にお聞きします。あなたが関心のある地域活動は、どの分野ですか。主なものを2つ以内でお答えください。
①災害・防災領域 ②自然環境保全領域 ③教育領域 ④青少年健全育成領域 ⑤文化伝統継承領域
⑥地域コミュニティ領域 ⑦世代や領域を超えた交流領域 ⑧福祉ボランティア領域 ⑨安全安心領域
⑩異文化共生活動領域 ⑪IT 領域 ⑫ご近所福祉領域 ⑬その他（ ）
- 設問 10. あなたにとって、家族はどのような意味を持っていますか。
①家族の団らんの場合 ②休息・安らぎの場合 ③家族の絆を深める場・親子が共に成長する場
④子どもを産み育てる場 ⑤夫婦の愛情を育む場 ⑥子どもをしつける場 ⑦親の世話をする場
⑧その他（ ） ⑨わからない
- 設問 11. あなたは、住んでいる地域の人々との交流があることは大切だと思いますか。
①全くその通りである ②どちらかといえばそうである ③どちらかといえばそうではない
④全くそうではない
- 設問 12. あなたは、今の地域にずっと住みたいと思いますか。
①住みたい ②住みたくない ③わからない
- 設問 13. あなたの住んでいる地域では、地域住民を対象にした福祉に関する研修会・講座を開催していますか。
①開催している ②開催していない ③わからない

- 設問 14. 「①開催している」と回答した方にお聞きします。その研修会・講座に参加したことがありますか。
①その都度参加している ②たまに参加している ③まったく参加していない
- 設問 15. あなたの住んでいる地域には、地域の福祉活動を企画・運営する組織がありますか。
①ある（活動している） ②あるが活動していない ③ない ④わからない
- 設問 16. あなたの住んでいる地域には、福祉活動をする活動拠点（場所）がありますか。
①地域内にある ②隣接地区にある ③ない ④わからない
- 設問 17. あなたの住んでいる地域は、福祉サービスや福祉制度等に対して関心を持ち、話題があがる地域ですか。
①大いに関心を持っている地域である ②それなりに関心を持っている地域である
③あまり関心をもっていない地域である ④全く関心を持っていない地域である ⑤わからない
- 設問 18. あなたの住んでいる地域は、身近に福祉問題について相談し合える環境ですか。
①いつでも対応できる環境である ②ある程度対応できる環境にある ③あまり対応できる環境ではない
④全く対応できる環境ではない ⑤わからない
- 設問 19. あなたの住んでいる地域は、お互いに「ささえあう体制」がある地域ですか。
①大いにある地域である ②ある程度ある地域である ③あまりある地域とは感じない
④まったくない地域である ⑤わからない
- 設問 20. あなたは、住み慣れた地域で、共に暮らし合い、支え合う活動を実現するためには、どのような環境があれば活動しやすいと思いますか。主なものを2つ以内でお答えください。
①地域の抱えている課題に関する情報が提供されていること ②一緒に活動する仲間がいること
③お互いに気軽に参加できる地域環境が整っていること ④生活と就労のバランスが保証されていること
⑤地域活動を積極的に評価し支援する仕組みがあること ⑥その他（ ）
⑦どんな地域環境でも参加したいとは思わない
- 設問 21. あなたは、地域において、どのような取り組みの「寄り合い処」を希望しますか。
①お食事会・お茶・コミュニティカフェタイプ ②憩いや語らいが自由にできるタイプ
③趣味などを通じて交流できるタイプ ④教養・学習し合える対応 ⑤まったく形にとらわれないタイプ
⑥世代間交流のできるタイプ ⑦希望しない ⑧その他（ ）
- 設問 22. あなたは、地域で積極的に新しい人々とつきあいを広げていきたいと思いませんか。
①全くその通りである ②どちらかといえばそうである ③どちらかといえばそうではない
④全くそうではない
- 設問 23. 地域での支え合いについて、あなたの意見をお伺いします。
①これから、ますます必要と思う ②それなりに必要と感じる ③あまり必要と感じない
④全く必要と感じない ⑤わからない
- 設問 24. あなたは、地域にどのような役割を期待していますか。主なものを2つ以内でお答えください。
①世代を超えた住民同士のふれあい交流 ②防災・防犯などの日常的協力体制
③日頃の見守り隊性 ④身体上の緊急対応 ⑤近隣と問題が起こったときの解決
⑥地域行事での交流 ⑦暮らしの情報提供 ⑧その他（ ）

設問 25. あなたは、身近な地域の行事・活動に参加していますか。

- ①よく参加している ②ときどき参加している ③ほとんど参加していない

設問 26. 「③ほとんど参加していない」と回答した方に、お聞きします。主な理由を1つお答えください。

- ①時間がない ②興味がわからない ③自分に合った活動がない ④健康でない ⑤費用がかかる
⑥近くに活動がない ⑦情報が入らない ⑧一緒に活動する人がいない ⑨参加のきっかけがない
⑩その他（ ）

設問 27. あなたは、時々気軽に出かけることが出来る地域の居場所がありますか。

- ①公民館 ②公会堂・集会場・コミュニティセンター ③神社 ④お寺 ⑤協会 ⑥親戚宅
⑦個人宅開放の居場所 ⑧隣近所 ⑨友人宅 ⑩その他（ ） ⑪出かける
⑫ない

設問 28. あなたは、気軽に出かけることができる「地域の居場所づくり」を継続的に取り組むには、誰が主体的に取り組むことが望ましいと思いますか。

- ①ボランティアの有志 ②専門的な知識と技術を持った人又は施設 ③参加を希望する仲間中心
④地域コミュニティ組織 ⑤個人が地域貢献活動として ⑥地域コミュニティ組織と住民 ⑦行政
⑧その他（ ） ⑨わからない

設問 29. あなたが望む「地域の居場所」とは、どのような環境でしょうか。

問 01. [呼びかけ] ①呼び掛け・招かれる・誘われた方が行きやすい ②自発的に参加する

問 02. [ルール] ①決まりはあった方がよい ②決まりはない方がよい

問 03. [組織] ①上下をつくらず過ごせる環境 ②運営を円滑にするために確実な組織体制をつくる

問 04. [内容] ①しっかりとしたプログラムを創る ②参加者同士の自由な交流の場とする

設問 30. ホットとする居場所「人々が楽しく、ふれあい交流が出来る居場所」について、あなたの意見をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

●身近な生活圏域で福祉課題解決に向けた「生活会議」を創る

ささえあう地域ぐるみの“居場所”を拓く

平成29年度 静岡福祉文化を考える会 公開型研修会開催要項

1. 開催目的

本会は、平成8年9月に結成して、今年度は、22年目の活動に取り組んでいる。

静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」に平成20年度から平成26年度までの7年間取り組み、今日、大きな社会問題となっている長寿者等の孤立・孤独防止に向けて、県内の関係機関・団体、地域実践者等のご理解とご支援、ご協力により、福祉文化実践活動を基盤に、県民に数々の課題提起をし、確かな手応えを得ることが出来た。

今年度の公開型研修会は、21年間の福祉文化実践活動を検証する中で、浮き彫りになった身近な福祉課題を地域全体の生活課題と捉え、本会の3つの活動基調である(1)さまざまな分野で活動する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る。「専門性と市民性の融合」(2)会員だけが求心的・閉鎖的に集うことなく、広く市民に拓かれた活動をめざす。「公開型地域総合型学習の企画と実践」(3)既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざす。「課題解決のに向けたプロセス重視」をもとに、公開型で、世代を超えた「生活会議」の場を設けて議論を深める。第2回目の今回の研修会は、あらためて「ご近所福祉」をそれぞれの立場で検証するとともに、「地域をいかに家庭化していくか」の地域づくりに向けた取り組みについて、一人ひとりが向き合う中で「ささえあう地域ぐるみの居場所」を参加者相互に意見を交わし合いながら、検証した内容を身近な生活圏域において地域づくりに活かすことを目的に開催する。

- #### 2. 着眼項目
- (1)「静岡発 福祉文化の創造」21年間の確かな手応えを学習につなげる場
 - (2) 世代を超えた身近な生活圏域の課題解決に向けた議論(「生活会議」)をする場
 - (3)「今、あらためて、ご近所福祉の現状を浮き彫りにする」語り合いの場
 - (4)「私たちにとってささえあう居場所とは何か」を語り合う場(ワークショップ)
 - (5)「地域の居場所の実践事例」を学ぶ場

3. 主催 静岡福祉文化を考える会

4. 開催日時 平成29年9月30日(土) 13:30~16:00

5. 開催会場 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館 6階 602会議室

6. 定員 30名

7. 参加費 無料

8. プログラム

13:30	開会	*開会挨拶	*オリエンテーション
13:50	基調報告「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握のプロセスを考えるーささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言ー」		
14:20	調査活動へのトライ「居場所ってなに? その意識と実態調査」への期待		
15:00	休憩		
15:10	実践事例に学ぶ「地域の中の居場所に取り組む」		
15:30	ワークショップ「居場所を拓く 私が望む居場所とは」		
16:30	閉会		

9. 参加申し込み・問い合わせ先

電話、FAX、メールなどで「氏名」「市町名」「連絡先」を明記の上、下記まで

〒425-0041 焼津市石津751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚

TEL & FAX 054-624-1924 携帯 090-4861-4547 E-MAIL monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

第16回 静岡県福祉文化研究セミナー（第2回公開型研修会）開催要項

●年代や世代を超えて、創ろう 語ろう “豊かな地域で生活会議”

静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所

1. 開催趣旨

「福祉文化とは何か」を、世代を超えて、実践活動に取り組みながら、議論して16年目を迎えた。平成14年11月30日・12月1日の2日間、裾野市、裾野市社会福祉協議会、社会福祉法人富岳会の全面的協力のもと、裾野市民文化センターにおいて、全国各地から650名の参加者が「富士山麓いのちとくらしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに熱く議論。そして、静岡県から「福祉文化の火」を消さないためにも、この大会を「第1回静岡県福祉文化研究セミナー」として、繋ぎ続けて16年目。

人々が、ささえあいながら、住み慣れた地域で暮らし合う地域環境をいかにして創り出すか、地域の現状をしっかりと把握しながら、「共助」による福祉コミュニティ構築に向けた「集まる、地域ぐるみの居場所」について、その実現に向けたプロセスを学び合う。

「居場所ってなに？その意識と実態調査」の取り組みのプロセスを確認し合う。

2. 着眼項目

- (1) なぜ、いま「静岡発 福祉文化の創造」か、16年の道程からの提言を学ぶ場
- (2) 「居場所とはなにか」を福祉文化実践活動としての「調査研究活動」に学ぶ場
- (3) これまでの「居場所論議」をさらに深め合い、「実現したい居場所」を検証する場
- (4) 「楽しく地域づくりを語り合う環境（地域総合型学習）」を実践する場

3. 主催 静岡福祉文化を考える会

4. 日時 平成29年11月25日（土）13:30～16:30

5. 会場 静岡市清水区追分3丁目5-17「寄ってっ亭」（TEL: 054-367-2878）

* 会場には、公共の交通機関を利用してお越しく下さい。

6. プログラム

- 13:30 開会セレモニー
- 13:40 アイスブレイク「集まる居場所」を実践・演出します
- 14:10 基調報告 その1「福祉文化研究セミナーの16年を探る」
- 14:40 基調報告 その2「地域の居場所 その意識と実態を探る」
- 15:10 休憩
- 15:20 ワークショップ「ほっとする私の地域 ほっとする私の居場所を創る」
- 16:20 全体会

7. 定員 30名

8. 参加費 無料

9. 問い合わせ（電話、FAX、等で下記までお願いします。）

〒425-0041 焼津市石津751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚

TEL & FAX: 054-624-1924 携帯: 090-4861-4547 Email: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

●身近な生活圏域で福祉課題解決に向けた「生活会議」を創る
「ご近所福祉で集まる地域ぐるみの居場所を拓く
一あらためて、今なぜ居場所か一
平成 29 年度 静岡福祉文化を考える会 第 3 回 公開型研修会 開催要項

1. 開催目的

本会は、平成 8 年結成以来、「福祉を文化にする、静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）を活動の原点として、22 年間の道程を検証してきた。県内各地域や各地の各種研修会で「ワークショップ方式」等により、意見交換や討論を交え、多様な学習方法を提案し、世代を超えて地域の課題解決に向けた「地域総合型学習」を実践し、現在に至っている。

情報の共有、広報啓発、人的交流、プロセスを重視し、専門性と市民性を融合し、人々が支え合って暮らし合う生活圏域を「ご近所福祉」と捉え、支え合うご近所における「ほっとする居場所」をテーマに、生活圏域における「地域課題」を掘り起こし、問題提起をする取り組みを、「生活会議」と置き換え、実践活動に取り組んできた。

このたびの研修会は、この一年間議論してきた、コミュニティそのものの機能を発揮した「地域ぐるみの居場所」とは何かを調査研究活動や居場所活動検証訪問等の取り組みから、県民の意識と実態を明らかにし、福祉コミュニティの構築により、支え合う地域をいかに創るかの研修を深めることを目的に開催する。

2. 着眼項目 (1) 「静岡発 福祉文化の創造」22 年間の確かな手応えを学習につなげる場
(2) 世代を超えた身近な生活圏域の課題解決に向けた議論（「生活会議」）をする場
(3) これからの福祉コミュニティのあり方を議論する場
(4) 地域ぐるみの居場所とは何かを語り合う場
(5) 一人でも安心して暮らせる地域を語り合う場

3. 主催 静岡福祉文化を考える会

4. 開催日時 平成 30 年 3 月 4 日（日）13:30～16:30

5. 開催会場 静岡市葵区駿府町 1-70 静岡県総合社会福祉会館 1 階 101 会議室

6. 定員 30 名

7. 参加費 無料

8. プログラム

- 13:30 開会 *開会挨拶 *オリエンテーション
13:50 基調報告①「居場所ってなに？その意識と実態調査」から見たもの
14:30 基調報告②「地域ぐるみの居場所をめざす一実践活動からの検証—」
15:10 休憩
15:20 ワークショップ「一人でも安心して暮らせる地域づくりを考える」
16:30 閉会

9. 参加申し込み・問い合わせ先

電話、FAX、メールなどで「氏名」「市町名」「連絡先」を明記の上、下記まで
〒425-0041 焼津市石津 751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
TEL & FAX 054-624-1924 携帯 090-4861-4547 E-MAIL monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

Our Life 111号

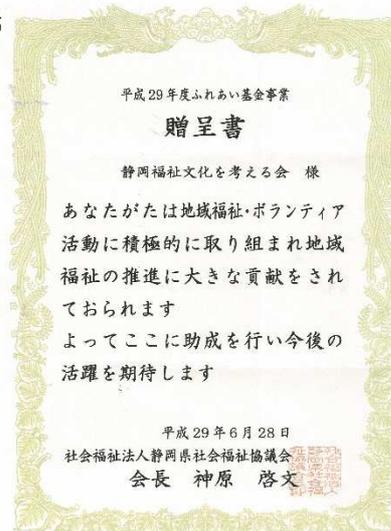
＊ ＊ 内 容 ＊ ＊

- 22年目の調査研究活動“ご近所福祉”から“真の居場所”を福祉文化の視点から探る……………P.1
- 私たちにとって“居場所”とは、公開型研修会盛り上がる……………P.2
- 居場所の誕生のプロセスを学ぶ 90世帯の町内会で、今なぜ“居場所”なのかを検証
2年目の「港地域ささえあい講座」協力……………P.3
- 第16回福祉文化研究セミナーへの期待、事務局日誌拝見、編集後記……………P.4

22年目の調査活動“ご近所福祉”から“居場所”を福祉文化の視点から探る

「静岡福祉文化を考える会」は、この21年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。このたび、静岡県社会福祉協議会ふれあい基金地域福祉・ボランティア活動等活動推進助成事業の助成金交付決定をいただき、今年度の調査研究活動に取り組み見通しができた。これまでの調査研究活動を振り返ると、平成9年「①共働きに関する調査」に始まり、「②私たちにとって、地域とは何か(1) 意識と実態調査」、「③私たちにとって、家族とは何か調査」、「④父親に関する調査」、「⑤ボランティア活動実践者意識調査」、「⑥私たちにとって、家族とは何か調査」、「⑦青少年の生きがいに関する調査」、「⑧地域とは何か(2) 意識と実態調査」、「⑨子どもと社会環境に関する調査」(継続調査)、「⑩子どもと社会環境に関する調査」(総括)、「⑪地域活動と団塊の世代の役割に関する調査」、「⑫長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」(静岡県共同募金会助成事業)、「⑬日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)、「⑭長寿社会に関する県民意識と本音に迫る調査」(静岡県委託事業)、「⑮いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとはなにか調査」(静岡県委託事業)、「⑯地域と私の居場所 その意識と実態調査」(静岡県委託事業)、「⑰家族ってなに その意識と実態調査」(静岡県委託事業)、「⑱長寿者とつながるホッとするご近所づくり その意識と実態調査」(静岡県委託事業)、「⑲豊かに暮らせる地域づくり その意識と実態調査」(静岡県委託事業)、「⑳若者の地域参加 その意識と実態調査」、そして、平成28年度には、“ご近所福祉”をキーワードに「㉑ご近所福祉 その意識と実態調査」に取り組んだ。

実に大きな反響をいただき、調査結果をそれぞれの県内各地で検証していただいた。通算22回目となる今年度は、これまでの展開を継承しつつ、テーマ『居場所ってなに？ その意識と実態調査』を実施する。500名程度の回収規模で実施。調査項目は、(1)基本属性、(2)住民の生活状況、(3)地域との関わりの意識、(4)地域との関わりの実態、(5)地域と取り巻く望ましい生活環境、(6)地域との関わりの実態、(7)提言(自由意見)の7項目とする。8月より、「調査委員会」を設置、9月より、調査研究個票を発送予定。会員をはじめ参加機関・団体、地域実践者のご協力をお願いする次第である。



●身近な生活圏域で福祉課題解決に向けた「生活会議」を創る ご近所福祉で、集まる地域ぐるみの居場所を拓く 平成 29 年度 第 1 回公開型研修会に 26 名参加で盛り上がる

今年度の公開型研修会は、これまで 21 年間の福祉文化実践活動の成果をもとに、浮き彫りになった身近な福祉課題を地域全体の生活課題と捉え、本会 3 つの活動基調である(1)さまざまな分野で活動する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る。「市民性と専門性の融合」、(2)会員だけが求心的・閉鎖的に集うことなく、広く市民に開かれた活動を目指す。「公開型地域総合型学習の企画と実践」、(3)既存の福祉組織の活動から取り残された課題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざす。「課題解決に向けたプロセス重視」をもとに、世代を超えた「生活会議」として議論を深める。をもとに、平成 29 年 5 月 21 日(日)、静岡市清水区追分 3-5-17「寄ってっ亭」で、第 1 回公開型研修会を開催した。

これまで、「ご近所福祉」と「若者の地域参加」を地域社会に呼びかけてきた。その原点に立ち、これからの地域づくりに向けた取り組みについて、(1)「静岡発 福祉文化の創造」21 年間の確かな手応えを学習につなげる場、(2)世代を超えた身近な生活圏域の課題解決に向けた議論(「生活会議」)をする場、(3)「今、あらためて、ご近所福祉とは何か」をそれぞれの立場から意見を出し合い、和やかな雰囲気の中で、これからの地域づくりに活かそうと意見を深め合った。「プログラム」は、「21 年間の本会の協働による福祉文化実践活動の展開」を紹介。その後、平成 28 年度調査研究事業「ご近所福祉その意識と実態調査結果から見えたもの」を報告した。

メインは、参加者による「ジャンボ KJ 法」による「真の居場所を探る 大人の言い分 若者の言い分」を導入して「真の居場所」を浮き彫りにした。

** 「私がホッとする“居場所”とは」に 14 のカテゴリーを浮き彫りにした。 **

- (1) 出会いを大切にする、(2) いやし(やさしさがある、笑い声が聞こえる、安らぎを感じる)
- (3) 対等な関係がある(話を聴く、待っていてくれる人がいる、気の合う仲間と一緒に、他人の悪口を言わない)
- (4) 生きがい(仲間と生きがいづくりができる場所、言いたいことが言える)、(5) 会話(おしゃべりで発散する、おしゃべりで思いを共有)、(6) 地域を知ることができる、(7) 健康づくり、(8) ご近所(町内に居場所がある、ご近所持ち回りの食事会)、(9) 私が主役(自分が役に立てる)、(10) 共生社会(いろいろな人が平等に、子育てママの、子どもからお年寄りまで)、(11) 自然環境(自然に囲まれたキレイな施設)、(12) 自由(いつ行っても良い、1 人でもぼんやりできる)、(13) 趣味特技(学び合う)、(14) 食育(一緒に食事会、男女が一緒に)

今回の公開型研修・ジャンボ KJ 法ワークショップから、「対等な関係」、「いろいろな人が自由に入出入りする」、「気軽に会話ができる環境」といった意見が目立った。ご近所の付き合いが希薄化した今日、全ての住民が自由に入出入りできる“居場所”の誕生が求められる。

いかに、「地域を家庭化していくか」が“居場所”の原点。他者(知らないけれど知ろうとする関係)から他己(知って関わる関係)を創る居場所の機能も求められる。



➤ **居場所の誕生のプロセスを学ぶ**
90世帯の町内会で、今なぜ“居場所”かを検証
今年度の本会のテーマ“居場所”を実践支援

制度改革が急速に進み、今日、社会全体が「公助」主体の波に流されつつある。暮らす基本を「自助」としながらも、それだけでは為し得ない地域での暮らし合いを「共助」による「支え合い」をいかに構築していくか、災害や社会的諸問題（長寿者・児童・若年層の孤立、生活困窮対策等）に対処できるよう、「予防的コミュニティ構築」に向けて、各地で「地域住民がふれあう場所・居場所」立ち上げの話題が報じられている。

本会では、焼津市港第14自治会の第12町内会（90世帯、高齢化率23.9%、生産人口率51.4%、年少人口率24.6%）の“居場所”立ち上げを協力支援し、今年度の活動を実践検証することとした。

町内の“寄り合い処”として6年前に新たに整備された「北川原公会堂」の有効活用において、「いかずい北川原」居場所事業を町内会活動として、若い世代と年配者等がふれあい、町内会員相互の親睦の場をめざし、開所の運びとなり、5月28日（日）に、約70名の関係者出席のもと盛大に開所式をおこなった。その後、6月から本格的に始動。毎週1回開所（火曜日と日曜日）には、これまで、毎回世代を超えた住民約23名がふれあい交流をしている。今後も、運営状況に学びながら、本会として、「真の居場所」を提言していきたい。



2年目の「焼津市港地域ささえあい講座」も支援協力！いよいよスタート!!

今年も楽しく学ぶ「港地域ささえあい講座」9月開講をめざして、7月11日に、第1回実行委員会開催。平成28年度、延べ186名が受講した「一誰が担う？ つながる地域 支え合う地域 輝いて、“一人でも安心して暮らせる港地域づくり”をめざす一港地域ささえあい講座」は、学び合い・語り合う居場所。9月より全4回（9/9, 10/7, 11/4, 12/2 13:00～16:30 港公民館）開講。

主な内容は、ふれあい交流／楽しく「歌声喫茶」（全4回）、基礎講座「焼津市の福祉を学ぶ」、「認知症の理解と接し方を学ぶ」、「居場所づくり」、ワークショップ（三人寄れば文殊の知恵、みんなでアイデアを出し合う）、「港地域を語る」、「ご近所福祉あれこれ」、「高齢者事例を学ぶ」等。会員の皆さんの支援よろしく。

**** 第16回「静岡県福祉文化研究セミナー」のご案内 ****

*日 時：11月25日（土）13:30～16:30 *会 場：静岡市清水区追分「寄ってっ亭」

*テーマ：『静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所』

・基調報告 その1「福祉文化研究セミナー16年を探る」 ・基調講演 その2「地域の居場所 その意識と実態を探る」 ・ワークショップ「ほっとする私の居場所を創る」

※参加申し込み・問い合わせ先※ Tel & Fax: 054-624-1924 携 帯：090-4861-4547

Email: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp 平 田 厚

事務局日誌拝見 (3/18~7/5)

- 03/18 第 182 回委員会開催 (28 年度総括・29 年度計画, 5/21 全体計画)
03/28 Our Life 110 号発行及び発送作業 「ご近所福祉調査報告書」送付作業
03/31 静岡市 V 連助成金事業の報告について連絡調整 「ご近所福祉調査報告書」入稿
04/06 「ご近所福祉調査報告書」静岡市 V 連へ助成金事業完了報告文書送付
04/08 静岡市 V 連総会出席, 併せて, 助成へのお礼を申し上げます。
04/14 県社協より, 助成事業に関する情報提供をいただく。静岡新聞社社会部 鈴木明芽記者取材対応
04/20 静岡市夕刊に「調査研究結果」記事掲載
04/21 平成 29 年度調査研究活動に関する連絡調整
港地域づくり推進会役員会にて「港地域ささえあい講座」(4 回) 承認
04/22 焼津市港第 14 自治会・第 12 町内会「いかずい北川原」居場所開所式事前連絡調整
04/23 研究会との連絡調整
04/24 県社協ふれあい基金活動助成事業申請書類提出 (県社協に提出)
04/25 「若者発“居場所”あり方研究会」との連絡調整
04/27 平成 29 年度調査研究活動に関する連絡調整
05/18 港地域づくり推進会役員会にて「港地域ささえあい講座」(4 回) 最終承認
05/21 第 1 回公開型研修会開催 (寄ってっ亭・25 名参加) *欠席者に当日資料, 調査報告書送付
05/23 焼津市港第 14 自治会・第 12 町内会「いかずい北川原」居場所開所式事前連絡調整
05/27 平成 29 年度調査研究活動に関する検討作業 研究会との連絡調整
05/28 焼津市港第 14 自治会・第 12 町内会「いかずい北川原」居場所開所式協力
06/13 県社協ふれあい基金助成決定 (30 万円⇒13 万円) 連絡有
静岡市 V 連絡協議会より, 「静岡市表彰推薦」打診あり
06/14 県社協ふれあい基金助成決定 (30 万円⇒13 万円) に伴う申請書の正式提出
06/15 あしたの日本を創る協会に, 「新たな地域課題助成申請書」(5 万円) 提出
06/16 ふじのくに NPO 活動センター「ふじのくに未来財団・助成申請書」を FAX で対応
「日本財団」に本会登録手続き実施
06/19 ふじのくに NPO 活動センター「ふじのくに未来財団・助成申請書」を持参する。
印刷工芸社との連絡調整 調査報告書 11 万の見積書 (200 部) 研究会との連絡調整
06/24 焼津市港地域づくり推進会主催「平成 29 年度焼津市港地域ささえあい講座」協力要請文書届く。
06/25 初めて第 4 日曜日開所した「焼津市いかずい北川原」居場所協力
子どもから大人まで, 23 名参加し, 「チャレンジランキングゲーム」楽しむ。
06/28 静岡市社会福祉協議会ふれあい基金助成事業贈呈式出席 (調査報告書作成費 13 万円助成)
06/30 静岡市社会福祉協議会へ「ふれあい基金助成事業概算請求書」提出
07/05 Our Life 111 号発送作業

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか？

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災 (1995) 翌年度の平成 8 年 9 月 1 日に発足し、平成 28 年度に 21 年の節目を迎えました。平成 29 年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」、「公開型地域総合型学習の企画と実践」、「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決にむけて市民視点で活動をしています。

- ◇ 会費：社会人 3,000 円 大学生以下 1,000 円
- ◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗 3-7-15-5
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

編集後記

本会は、22 年目の「地方発 福祉文化の創造」の取り組みに入った。こうした市民活動を継続していく難しさは、「福祉文化」の定義理解もその一つである。福祉文化実践活動を積極的に取り組み課題解決に努めたい。複雑多様化した今日にあって、人々の地域社会をとらえる価値観も大きな変化をもたらしている。昨年度取り組んだ調査研究事業「ご近所福祉 その意識と実態調査結果」から、コミュニティ組織の必要性は、5 年前の調査から 15%減少し、47%の回答である。さらに、課題解決にトライしたい。

Our Life 112号

＊ ＊内 容 ＊ ＊

- コミュニティ活動支援協力から学ぶ“居場所”立ち上げのプロセスと「地域総合型学習」……………P.1
- 助成事業決定を受けて、平成 29 年度本会活動計画拡大し「静岡発 福祉文化の創造」持続 ……………P.2
- 福祉コミュニティ再構築と支え合いの提言をもとに調査研究活動に取り組む……………P.3
「居場所とはなにか」をテーマに 9 月 30 日公開型研修会開催
- 事務局日誌拝見 福祉文化実践活動をご一緒にしませんか?? 編集後記……………P.4

福祉コミュニティ活動支援協力から学ぶ

「地域総合型学習」と“居場所”立ち上げのプロセスへの関わり

本会では、今年度の活動テーマを「居場所」とし、ある程度、コミュニティ組織の中で、実践活動を通じて課題を浮き彫りにし、「静岡発 福祉文化の創造」に向けた活動に取り組もうと、4 月より始動している。

その一つが、2 年目を迎えた、焼津市内で住民主体の「地域総合型学習」（この用語は、本会が、7 年間の県委託事業から生み出したもので、世代や領域を超えて、地域の福祉課題を学習し、住民自ら、課題改善・解決に向けて実践活動に移行しようと試みる学習プログラム）の取り組みが、「焼津市港地域ささえあい講座」。

もう一つは、90 世帯の小規模の町内会が 5 年の経過を得た、「いかずい北川原」の居場所。「いかずい」とは、焼津の方言「行きましよう」の意味を持つ。

「焼津市港地域ささえあい講座」

約 5,000 世帯の中学校区（公民館単位）で、昨年度に引き続き、自治会からの推薦や自発的に参画した実行委員 23 名で実行委員会を組織化しスタート。「楽しく学ぶ」「公助ありきの地域づくりではなく、共助で何が出来るか、話し合いによる解決学習（ワークショップ）」「管内の人財をもって講座を運営する」を着眼項目に挙げて、9/2、10/7、11/4、12/2（いずれも土曜日 13:00～16:30・焼津市港公民館・電話 054-624-8855）で全 4 回開講。本会は、実行委員としての参画と、「若者発 ご近所福祉かるた」を活用して、「ワークショップ：ご近所福祉あれこれ」を支援し、併せて、「かるた」の活用普及に努める。港公民館には、平成 27 年度に 4 セットの「かるた」を提供している。関心のある会員は、ぜひ支援に加わってほしい。

「いかずい北川原」の居場所

この地区の「公会堂」は、これまで、管理的規定の基に維持されていた。住民から維持費を徴収していることから、「もっと、日常的な活用方法はないか」「若い世帯が増えてきたこの地域の交流の場にしては」との意見を基に、5 月 28 日に開所式を行い、すでに 2 か月が経過した。

毎週原則火曜日 10:00～15:00、これまで、毎回 20 名の参加者が和やかなひと時を過ごす。ここでも、「かるた」の提供や資機材、運営ボランティア・助言等に関わっている。



助成事業決定を受けて、 平成 29 年度本会活動計画拡大し、「静岡発 福祉文化の創造」持続

平成 29 年度は、本会 21 年間の実績を基に、改めて活動の原点に戻り、「福祉を文化にする、静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）とは何かを検証する。このたび、「ふじのくに未来財団助成事業」「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」（第 111 号広報誌で紹介済）「あしたの日本を創る協会助成事業」がそれぞれ決定された。そのため、5 月 21 日に開催した「本会全体会」の計画を見直し、活動を拡大して取り組む。

支え合うご近所における居場所をテーマに、生活圏域における「地域課題」を掘り起こし問題提起をする取り組みを、「生活会議」と置き換え、実践活動に取り組む。県民の意識と実態を明らかにし、福祉コミュニティの構築に県民一人ひとりが関わることの重要性を明らかにする。本会活動を広く意見を求めるために「共創社会研究会」を設置して、課題提起をしていく。主には、福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業—ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言—を課題とする。これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、既存の「居場所」の現状把握と、県民の意識と実態はどうかを把握し、県民に、これからの福祉コミュニティのあり方を問い質す機会を創り、改めて、「家族機能」の再認識を持つ機会とし、「真の居場所」を問う。拡大した活動内容の主なものは、

1. 「共創社会研究会」の設置と運営

(1) 開催時期

- 第 1 回（09 月 09 日） 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室
- 第 2 回（11 月 11 日） 静岡県総合社会福祉会館 102 会議室
- 第 3 回（01 月 13 日） 静岡県総合社会福祉会館 104 会議室
- 第 4 回（03 月 10 日） 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室

(2) 構成

本会会員（5 名）、県内実践者（3 名）、社協職員（2 名） 計 10 名程度

(3) 協議内容

- 研究会の位置づけと方向性、地域の現状、課題、調査結果考察
- 調査実施要項、調査個票、調査実施、調査結果考察
- 実践地区検証、公開型研修会結果考察
- 事業全般考察（提言）

2. 「現場視察研修」

最近開所した県内 6 地区の居場所実践地区を検証し、プロセスとともに課題解決に向けて取り組み、報告書にまとめる。

3. 「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくり」報告書作成

A4 版、60 ページ仕立て、100 部作成とし、主な章立ては、「はじめに」「事業取り組みの背景」「公開型研修会からの成果」「実践からの学び」「調査結果から見えたもの」「共創社会研究会論議」「提言」「資料編」の組み立てを予定。

4. 「広報・啓発活動」

『Our Life』の発行は、当初 4 回発行であったが、改めて、年 6 回、A4 版、4 ページ構成、上質紙印刷、200 部発行、今年度取り組む「居場所」をテーマとした課題提起、地域・団体との連携の状況、各地区から寄せられた活動レポート紹介等を掲載する。

福祉コミュニティ再構築と支え合いの提言を基に調査研究活動に取り組む テーマは、「居場所ってなに？ その意識と実態調査」

「静岡福祉文化を考える会」は、この21年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

これまでの調査研究活動を振り返ると、①「共働きに関する調査」②「私たちにとって、地域とは何か—その1—意識と実態調査」③「私たちにとって、家族とは何か調査」④「父親に関する調査」⑤「ボランティア活動実践者意識調査」⑥「大人を対象とした生きがいと就労に関する調査」⑦「青少年の生きがいに関する調査」⑧「地域とは何か—その2—意識と実態調査」⑨「子どもと社会環境に関する意識調査」(継続調査)⑩「子どもと社会に関する意識調査」(総括)⑪「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」⑫「長寿者の生きがい、その意識と実態調査」(静岡県同業金銭城業)⑬「日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)⑭「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業)⑮「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとは何か本音に迫る調査」(静岡県委託事業)⑯「地域と私の居場所その意識と実態調査」(静岡県委託事業)⑰「家族ってなに その意識と実態調査」(静岡県委託事業)⑱「長寿者とながら ホットするご近所づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)⑲「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)⑳「若者の地域参加その意識と実態調査」㉑「ご近所福祉その意識と実態調査」と、「21のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。通算22年目となる今年度は、これまでの展開を継承しつつ、「居場所ってなに？その意識と実態調査」として実施。

- * 調査項目は、(1)基本属性、(2)住民の生活状況、(3)地域との関わりの意識、(4)地域との関わりの実態、(5)地域を取り巻く望ましい生活環境、(6)地域の意識・実態、(7)提言(自由意見)の7項目とする。細部は、「共創社会研究会」で具体化する。
- * 調査の展開：(1)調査実施期間(9月～10月)、(2)入力期間(10月～11月)、(3)分析・考察(12月～1月)、(4)公表(2月)を予定。
- * 協力：若者発“居場所”あり方研究会 共創社会研究会
- * 対象：静岡県内の10代以上の県民対象(年代・世代・領域等を考慮)
- * 回収目標：約1,000名程度
- * 調査依頼/配布方法：(1)会員(現在24名)、(2)若者発“居場所”あり方研究会、(3)関係団体、(4)企業

●参加者募集!!

「居場所とは何か」をテーマに9月30日公開型研修会開催!!

本会の今年度の研修会は、当初2回を予定していたが、助成事業が決定されたことから、第2回目の研修会を、新たに、9月30日(土)13:00 静岡市葵区駿府町 県総合社会福祉会館601会議室で開催することとなった。

★研修テーマ：ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりを拓く★

研修会の組み立ては、

- (1) 基調報告……………「居場所」とは何か、今日、居場所が社会的な課題となっている背景を正す。
- (2) 実践活動に学ぶ……県内の「居場所」の取り組みについて紹介していただき、「ワークショップ」につなげる。
- (3) ワークショップ……「集める居場所」から「集まる居場所」を探る。
社会が求めている居場所について、参加者同士で、議論を深め、それぞれの地域性を基に、「真の居場所」とは何かを議論し合う。

事務局日誌拝見（7/5～8/30）

- 07/08 ふじのくに未来財団助成事業プレゼンに関する連絡調整（PowerPoint）
- 07/09 本会、静岡市表彰に関する不足資料の提供 会計に関する連絡調整
- 07/11 港地域ささえあい講座（焼津市）第1回実行委員会開催（河野出席）
ふじのくに未来財団助成事業プレゼンに関する連絡調整（PowerPoint）
- 07/12 焼津市地区会食サービス「あじさいの会」7月例会にて、「ご近所福祉ジャンボかるた」を紹介し、交流を深める（参加者55名）
- 07/13 「あしたの日本を創る協会」との助成申請に関する連絡調整
- 07/13 ふじのくに未来財団より、37万円の助成申請は書類審査合格、7/19までにPowerPointデータを事務局に送信の連絡有。7/20 14:30 プレゼン出席連絡有。
- 07/18 ふじのくに未来財団助成事業のプレゼンに関するPowerPoint最終作成作業
その後、ふじのくに未来財団にPowerPoint提出
- 07/19 7/20 プレゼン用関連資料（事業展開表）作成作業
- 07/20 13:00 ふじのくに未来財団助成事業プレゼン出席
- 07/21 「あしたの日本を創る協会」より、5万円の助成決定通知書届く
- 07/22 今後の事業計画の再検討作業実施
- 07/24 「あしたの日本を創る協会」に、助成決定のお礼と資料配布状況報告
掛川市上内田地区研修打ち合わせの際、「ご近所福祉その意識と実態調査結果」の話題が出る。
8/10 研修会当日の資料に紹介する。
- 07/25 掛川市社会福祉協議会より「ご近所福祉その意識と実態調査報告書」提供依頼の連絡有。
- 07/27 事務局に、ふじのくに未来財団助成事業決定通知届く。
- 07/29 本会事務対応について協議。「ふじのくに未来財団助成事業」、「あしたの日本を創る協会」助成決定、県社協ふれあい基金助成等の今後の運営について、確認をする。
- 07/30 「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成」「概算払い請求書」提出
- 07/31 「ふじのくに未来財団助成事業」「概算払い請求書」提出
「あしたの日本を創る協会助成金」「県社協ふれあい基金助成金」振込確認済み
- 08/01 平成29年度本会活動計画の見直し作業実施。第2回実行委員会関連資料作成作業（～8/5）
- 08/06 第184回委員会開催（本会活動進捗状況確認と修正事業確認）
- 08/07 共創社会研究会設置に関する協議、居場所実践地区開拓作業
- 08/20 調査研究活動に関する連絡調整
- 08/26 第185回運営委員会開催、港地域ささえあい講座第2回実行委員会開催、公開型研修会企画作業及び広報啓発作業実施
- 08/30 Our Life 112号発行、関係方面に発送。

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか？

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災（1995）翌年度の平成8年9月1日に発足し、平成29年度に22年の節目を迎えました。平成29年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合型学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円

◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗3-7-15-5
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & FAX: 054-246-1486

編集後記

平成29年度の活動も5か月が経過したこの時期に、福祉コミュニティの再構築への課題解決に向けて、このたび「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」「ふじのくに未来財団助成事業」そして、「あしたの日本を創る協会助成事業」から、それぞれ、本会の活動に多大な評価をいただき、事業助成の決定をいただいた。後半の事業をさらに加速させながら、「真の居場所」への提言ができるように、「共創社会研究会」の設置、「居場所実践地区の検証」等、活動を拡大させて成果が挙げられるように努力をしていきたい。

Our Life 113 号

＊ ＊ 内 容 ＊ ＊

- 共助とは？ 協力支援事業「焼津市港地域ささえあい講座」いよいよ開講！82名が和やかに議論……P.1
- 一福祉コミュニティ再構築と地域ぐるみの居場所を探る— 第1回共創社会研究会開催……P.2
- 本活動の主軸である「地域の課題」を明らかにし、課題提起をする22年目の調査への想い……P.3
- 事務局日誌拝見 静岡福祉文化を考える会活動をご一緒にませんか?? 編集後記……P.4

共助とはなにか？ 協力支援事業「焼津市港地域ささえあい講座」 いよいよ開講！82名が和やかに議論

● 実行委員メンバー23名とともに、市民主体の講座が誕生

本誌第112号でも紹介した「焼津市港地域ささえあい講座」がいよいよ9月2日に開講した。今回は、これからの地域を担う、若い世代の参画の必要性から、幅広く実行委員を呼びかけ、23名体制で実行委員会がスタート。開講までに2回の実行委員会を開催。これまでに、(1)地域の担い手は住民一人ひとりである、(2)若い世代がこれからの地域づくりに関心と参画をする呼びかけをすること、(3)「福祉」を楽しく学び合える学習環境づくりに努めること、(4)「わかる化」「見える化」する情報発信等を着眼項目に、住民主体の講座を目標とした。実行委員会は、今年度8回開催し講座を検証する。

本会では、講座運営支援と共に、地元焼津市の会員も講座に参加し盛り上げている。また、「若者発“居場所”あり方研究会」会員も実行委員の1人と加わり、精力的に大人社会と向き合う議論に参画。また、事前の「講座テキスト」作成をはじめ、毎回の参加者アンケート集計、ワークショップ成果物の資料化をはじめ、今年度、新しい試みとして、「港地域ささえあい講座通信」の編集・発行を担当する。

● 定員を上回る延べ64名の参加！！ 和やかな学習環境で居場所誕生

今日、こうした講座を定員確保で開催することが難しい時代。30名の定員も開講直前まで満たない状況であった。各実行委員の精力的な努力により、延べ64名が参加申し込みをした。文書やチラシを配るだけでは、真の理解までには及ばないことが、プロセスの中でも見えた。しっかりと伝えることの大切さ。

学んだ、第1回講座は、「地域を知る」「いろいろな人が暮らし合える一障がい者支援」「港地域ってどんな地域（ワークショップ）」のプログラムで和やかな3時間半は、時間が足りない前向きな意見多数。開会前と閉会前の「歌声喫茶」（アイスブレイク）も好評。具体的な地域の統計データも新鮮だとの意見が多くあった。参加者が身近な地域を語り合えた研修を「学び合える居場所」と捉えている人も…。



福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業スタート！ 一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言—に向けて 第1回共創社会研究会に10名の委員出席し議論深める

共創社会研究会の設置により、幅広い県民の意見を集約し課題提起をする

本会は、平成29年度活動に、「ふじのくに未来財団」「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金」「あしたの日本を創る協会」から尊い助成支援をいただき「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言—」事業に取り組むことになった。より具体的に事業に取り組むため、各領域から10名の委員をお願いし、「共創社会研究会」を設置した。この研究会には、毎回、本会会員・役員も同席し、議論を深める。福祉コミュニティのあり方を問い質す機会を創りこれからの地域づくりに求められる「真の居場所」（地域で人々がささえあう）を問うとともに、「地域の担い手」を検証し、「いかにして、共創社会を実現していくか」を議論する。平成29年8月10日より平成30年3月31日までとし、4回（9/9, 11/11, 1/13, 3/10）「研究会の位置づけと方向性」「地域の現状、課題整理」「居場所に関する調査実施と検証／調査実施要項・調査個票・調査実施・調査結果考察」「実践6地区の検証」「公開型研修会結果考察」「事業全般考察（提言）」など研究討議を重ねていく。このたび、委員をお願いした方々は下記の通り。

共創社会研究会委員（順不同・敬称略）

No.	氏名	領域
1	石黒和子	沼津市社会福祉協議会
2	大澤佑介	静岡市社協・清水区地域福祉推進センター
3	松井洋治	掛川市社会福祉協議会
4	古川 久	居場所・ヌマツハラ県、Sルーム
5	石原孝之	居場所・カフェコラレ
6	西山美紀子	居場所・ほっとな居場所輪笑
7	佐藤春美	特定非営利活動法人風の家
8	池田貞夫	市民（健康生きがいづくりアドバイザー）
9	桑原信夫	市民（静岡市清水区由比寺尾自治会長）
10	江間彦之	市民（磐田市豊岡地区社会福祉協議会会長）



「第1回共創社会研究会」から、早くも深まる課題浮き彫り

第1回共創社会研究会は、平成29年9月9日（土）に、静岡県総合社会福祉会館で、15名が出席して開催した。今回は、今後議論が深まるように、(1)本事業の経過説明、(2)共創社会研究会の設置目的、(3)研究会委員相互理解（自己紹介）をもとに、本事業の位置づけを確認した。今後に向けて、さらに、本事業の主旨を理解していただき、委員相互の関係づくりを深め、本研究会に求めるべき項目を明確にしていく努力をする。第1回研究会から浮き彫りになった項目をあげると次の通りである。これらの項目を、今後さらに整理し深めていく。

- (1) 古くて新しい「居場所」論議 ノンマニュアルの取り組みの有無
- (2) 社会教育と社会福祉の「融合」
- (3) 多様なニーズがあって当たり前の社会
当事者による問題提起、共感者と共に、いかにコミュニティとの協働で解決できるか。
- (4) 排他的にしない、「集める居場所」から「集まる居場所」への努力
- (5) 福祉あつての防災、災害に強いコミュニティ組織は、「福祉」が中心、「地域を福祉化」
- (6) 市民の立場でいかに構築するか
専門家がコーディネートしていく時代を迎えているが専門性と市民性の「融合」によりいかにして「共助の時代」を再構築していくか
- (7) 非営利の福祉→生産性の福祉への発想の転換。これこそ、「福祉文化」の原点と実感

- (8) 若者の地域参加の消極的傾向へのアプローチ
- (9) 専門性と多様性を持つ様々な領域（包括、主婦、学生、施設職員、大学職員等）の組織化
誰もが地域の担い手、その中で地域が創られている。
- (10) 情報収集・提供のあり方
- (11) 公助ありきの社会環境になった。地域の自立の上に立った活動。
- (12) 自治会長とは（「任務の多様化」「継続事業の理解」「状況把握」「任期と一貫性」）
- (13) 居場所運営の財源確保（補助金・応能な負担・助成金活用）
- (14) 居場所運営の地域資源の開拓
- (15) 地域の連帯の必要性
- (16) 既存の居場所から、これから必要な居場所をつくる
- (17) 施設の社会化の視点（機能・運営・問題・処遇）
- (18) 社協、行政、自治会等との協働のあり方が問われている
- (19) 既存の考え方だけではない 制度を生み出す仕組みづくり
- (20) 対等な関係の居場所づくりと利用者主体の居場所環境整備
- (21) 近隣地域との連携
- (22) 地域リーダーとは（「資質の向上」「役割」「意識改革」）
- (23) 地域の診断と問題解決に向けて、地域性を活かした居場所の取り組みと仕組み（組織化）
- (24) 人財発掘
- (25) 若い世代の世帯が集まる居場所。若い世代の世帯が通える居場所を考える。
- (26) 地域社会が個人志向傾向にある。住民の意識改革の必要性。
- (27) 今の時代、運営からの経営感覚の保持が求められている。
- (28) 企業と地域社会（自治会）の共生＝企業の社会



●福祉コミュニティ再構築への提言に向けて 「居場所ってなに？ その意識と実態調査」のプロセスをもとに 意義ある調査研究活動展開になるようご協力を！！

「静岡福祉文化を考える会」は、この21年間、「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。いよいよ、今年度は助成事業として取り組み、結果をもとに県民に課題提起をする。福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言一を課題として取り組む。

これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、「家庭機能」のあり方を問いつつ、「真の居場所」の開拓と共にその「地域の担い手」を検証する。静岡県内の10代以上の方々を対象に、年代・世代・領域等を考慮して、約1,000名程度の回収を目標に実施。調査実施期間（9月25日～10月25日）、回収期限（11月10日）、データ入力（9月30日～11月30日）、公表・報告（平成30年2月以降）を予定。

事務局日誌拝見 (8/26~9/25)

- 08/26 第185回委員会 助成決定に伴う、9月以降の活動の具体化検討と「第1回共創社会研究会」の開催についての説明
- 08/27 助成事業に関する「報告書」作成について、印刷業者との協議
- 08/28 「共創社会研究会」委員の依頼に関する問い合わせ・協議
第1回共創社会研究会開催に向けた、各種資料及び準備資材等の作成作業開始
- 08/29 各種助成事業に関する事業費の運営管理について協議
- 08/30 静岡市表彰に関する連絡調整
- 08/31 共創社会研究会の委員承諾確認と第1回研究会旅費支払い準備作業
第1回共創社会研究会関連資料作成作業完了
- 09/01 第2回公開型研修会チラシ作成送付作業開始
- 09/02 第1回共創社会研究会の議事録作成に関する連絡調整
- 09/04 第2回公開型研修会に関するマスコミへの情報提供実施 (15社)
- 09/05 ふじのくに未来財団へ近況報告実施
- 09/06 第1回共創社会研究会に関する連絡調整
- 09/07 第1回共創社会研究会に関するマスコミへの情報提供実施 (15社)
- 09/08 第2回公開型研修会に関する関係方面への参加呼び掛け実施
第2回公開型研修会に関する参加呼び掛け(社協(35)、住民(50))を文書で依頼
- 09/09 第1回共創社会研究会開催 (16名中1名欠席)
- 09/10 第1回共創社会研究会議事録整理
- 09/11 ふじのくに未来財団へ近況報告実施 静岡市表彰に関する本会役員写真提出
- 09/12 当面の本会活動に関する連絡調整
- 09/13 第2回港地域ささえあい講座に関する資料作成作業 (~9/15)
- 09/14 Our Life 113号編集作業実施 (~9/25)
- 09/15 「居場所ってなに? その意識と実態調査」個票作成作業 (~9/25)
- 09/16 第2回公開型研修会に関する参加呼び掛け実施
- 09/17 第2回公開型研修会に関する当日レシメ及び関連資料作成作業 (~9/24)
- 09/18 第2回公開型研修会に関するマスコミへの情報提供実施 (15社)
- 09/19 第1回共創社会研究会に関する課題整理と第2回開催に向けた検討
- 09/20 第2回公開型研修会に関する連絡調整
- 09/22 第3回港地域ささえあい講座実行委員会開催
- 09/23 「居場所ってなに? その意識と実態調査」個票印刷作業実施 (2,000枚)
- 09/25 「居場所ってなに? その意識と実態調査」個票発送作業実施
Our Life 113号発送作業実施

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか??

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、平成28年度に21年の節目を迎えました。平成29年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費：社会人 3,000円 大学生以下 1,000円

◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗 3-7-15-5
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

編集後記

「Our Life」(本会広報誌)の果たす役割は、本会活動を「見える化」し「わかる化」し、会員をつなぐ、地域をつなぐ、関係機関・団体への課題提起と、実に大きな位置づけになっていることを常に忘れないようにしていかなければならない。そうした意味合いから、今年度は、各種助成事業により、活動が展開されている内容や取り組んでいる過程における課題等を、しっかりと伝えていかなければならない。本号は、当初10月発行を予定していたが、「共創社会研究会」が始動し、調査活動も本格的に始まったため、9月発行となった。

Our Life 114号

＊ ＊ 内 容 ＊ ＊

- 850名が“福祉文化”を熱く語った「第13回日本福祉文化学会静岡大会」から16年……………P.1
- 公開型研修会で、大いに“私が望む居場所”議論を展開……………P.2
- 「調査活動にご協力を！！」／「若者発 ご近所福祉かるた」で、焼津市「講座」盛り上がる……………P.3
- 訪問研修から、これからの居場所を探る／事務局日誌拝見／編集後記……………P.4

650名が“福祉文化”を熱く語った「日本福祉文化学会静岡大会」から16年 静岡発 福祉文化の創造を「セミナー」に託して 第16回は“居場所”をテーマに

今、じっくりと振り返ると、あの時代の福祉文化の創造への想いは大変熱かった。平成14年11月30日・12月1日の2日間、裾野市、裾野市社会福祉協議会、社会福祉法人 富岳会の全面協力のもと、裾野市民文化センターにおいて、全国各地から650名の参加者が「富士山麓 いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに熱く議論し合った。そして、静岡県から「福祉文化の火」を消さないためにも、この大会を「第1回静岡県福祉文化研究セミナー」と置き換え、「静岡発 福祉文化の創造」の原点をリレーションし、何とか今日まで細々と「セミナー」を継続開催して今年度が16回目。

- 第02回 「全ての人々が豊かに生きるための福祉文化」……………静岡福祉大学 153名
- 第03回 「地域福祉と福祉文化を探る」……………富士川町地域福祉センター 120名
- 第04回 「つながる地域に福祉文化を発信できる新たなまちづくりを語る」……………静岡福祉大学 110名
- 第05回 「静岡から発信する“福祉文化の創造”とはなにか」……………静岡福祉大学 120名
- 第06回 「これからの地域社会は一体誰が担うのか―地域と団塊の世代の役割を検証」……………県労政会館 80名
- 第07回 「長寿者と共に暮らす共生社会の担い手は誰か？」……………県総合社会福祉会館 100名
- 第08回 「長寿者と共に小地域をつなぐ仕組みづくり実現に向けて」……………県総合社会福祉会館 70名
- 第09回 「地方発“福祉文化の創造”これからののご近所づくりの原点を探る」……………県総合社会福祉会館 40名
- 第10回 「“福祉文化の創造”の原点に振り返って―世代を超えて語り合う―」……………県総合社会福祉会館 46名
- 第11回 「福祉文化と家族―これまでの家族とこれからの家族―」……………県総合社会福祉会館 50名
- 第12回 「地域を変える新たな支え合いのシステムを生み出す」……………県総合社会福祉会館 50名
- 第13回 「静岡発 福祉文化の創造―人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり」……………県総合社会福祉会館 40名
- 第14回 「静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり」……………県総合社会福祉会館 30名
- 第15回 「静岡発 福祉文化の創造と豊かなご近所福祉づくり」……………県総合社会福祉会館 30名

★第16回 静岡県福祉文化研究セミナーのテーマは、「静岡発 福祉文化の創造とホッとする居場所」★

＊日 時：2017年11月25日（土）13:30～16:30 ＊会 場：静岡市清水区追分「寄ってっ亭」 ＊定 員：30名

＊プログラム：

- 基調報告 その1「福祉文化研究セミナー16年を探る～福祉文化とは何か～」
- 基調報告 その2「地域の居場所 その意識と実態を探る」（調査研究活動中間報告）
- ワークショップ 「ホッとする私の地域 ホッとする私の居場所を創る」

※参加希望者は、TEL&FAX: 054-624-1924 静岡福祉文化を考える会 平田 厚まで

●身近な生活圏域で福祉課題解決に向けた「生活会議」を創る ささえあう地域ぐるみの“居場所”を創る 第2回公開型研修会に県内各地から40名参加で議論！

今年度の公開型研修会は、21年間の福祉文化実践活動を検証する中で、浮彫になった身近な福祉課題を地域全体の生活課題と捉え、本会の3つの活動基調である、(1) さまざまな分野で活動する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る。「専門性と市民性の融合」、(2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うことなく、広く市民に拓かれた活動を目指す。「公開型地域総合型学習の企画と実践」、(3) 既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、常に市民生活に密着した活動をめざす。「課題解決に向けたプロセス重視」をもとに、公開型で、世代を超えた「生活会議」の場を設けて議論を深める。第2回目今回の研修会は、「静岡発 福祉文化の創造」21年間の確かな手応えを学習につなげる場、世代を超えた身近な生活圏域の課題解決に向けた議論（「生活会議」）をする場、「今、あらためて、ご近所福祉の現状を浮き彫りにする」語り合いの場、「私たちにとってささえあう居場所とは何か、私が望む居場所」を語り合う場（ワークショップ）、「地域の居場所の実践事例」を学ぶ場をもとに開催した。あらためて「ご近所福祉」をそれぞれの立場で検証するとともに、「地域をいかに家庭化していくか」の地域づくりに向けた取り組みについて、一人ひとりが向き合う中で「ささえあう地域ぐるみの居場所」を、20代～80代の40名の参加者が相互に意見を交わし合った。

●ワークショップ：私の望む居場所とは

- 1 身近に利用できる居場所の立地条件
（バス停・駐車場・回数・夜間・経費）
- 2 語れる和やかな雰囲気（環境）
- 3 誰でも参加できる
- 4 自由参加のプログラム内容
- 5 自由が保障される
- 6 飲食が共にできる
- 7 参加者の役割（対等な関係）
- 8 生きがい・癒し（趣味・特技を共有）
- 9 生活の向上
- 10 地域の情報を共有できる
- 11 ふれあい交流



●参加者の声

- 1 居場所論議も、様々な課題や問題点が見えて面白いと思った。
- 2 私の地域では、今日発表があったような居場所はない。良い勉強をさせてもらった。
- 3 男性利用者、ボランティアの確認の必要性を感じた。
- 4 居場所のあり方について多くの皆様に伝えることが大事。
- 5 町内の役員のみが年何回かの大きな行事のみ。決められたものを年中行事で行っているのが現状。
- 6 これから地域へ居場所を考えていく上で参考になった。
- 7 現在検討中、無償型でやろうと思っているので、前途多難。
- 8 私の住んでいる地域では、同世代の関わりはあっても違う世代間での関わりがない。

第2回焼津市港地域ささえあい講座支援レポート

若者発ご近所福祉かるたで「ご近所福祉あれこれ」を大いに語る

第1回講座(9/2)ワークショップ「港地域を語る」から地域の良さ、こうあってほしい地域を語り合った。第2回講座(10/7)ワークショップ「ご近所福祉あれこれ」では、まず、ご近所福祉の概念は、(1) お互いを認め合う、(2) 対等であり上下をつくらない、(3) 見返りを求めない、(4) 継続的である、(5) 無理がないと捉え、これまで、本会が実施した「ご近所福祉 その意識と実態調査報告書」(平成28年度)619名の県民からの回答結果を紹介した。年々、「地域コミュニティの希薄化・弱体化の傾向にある」課題をもとに、今こそ、福祉コミュニティの再構築の必要性を学び合った。その後、「若者発 ご近所福祉かるた」取りを通じて、ご近所福祉あれこれを語り合った。

1. そばにいる ただそれだけで いやされる

◆キーワード⇒「癒される人間関係」……一人ひとりの存在感

*一人より、誰かがいるだけで安心する *温もりを感じる *とにかく、そばに誰かがいるだけで和む

2. つなげてく 手から手へと 回覧板

◆キーワード⇒「情報共有の回覧板の果たす役割」……家族で地域を知る 内容をしっかりと理解する

*現状は、手渡しではなく、ポストに入れるか、玄関先に置いてあることが多い

*入院や、しばらく留守をするときは、近所に伝えてほしい *家族全員には伝わらない 一人が代表して

*大事なことは、コピーをして個々に渡すが、なかなか徹底しない

3. いるだけで あたたかいなあ このまちは

◆キーワード⇒「いるだけのボランティア」……若者も長寿者も、誰もがホッとする地域づくり

*子どもが外にいない *子どもを見守ってくれる近所の人がいると安心する

*年寄りがいると安心感、暖かな気持ちになる

4. 子育ては 語れる先輩 さがすこと

◆キーワード⇒「子育て」……日頃からのおつき合い、まずは、世代を超えた語れる環境づくり

*ママ友 インターネットの時代 *大きなお世話と言われる 口を出せない

*今日では、「子育てセンター」を利用する *息子から、お母さんは口を出さないで!!と言われた

班	短 冊
1班	さりげない 何げない 心づかいを発揮して ご近所楽し
2班	ひとりにならない ひとりにさせない 見守りながら おせっかい
3班	見守りとおせっかいは 勇気をもってやりましょう
4班	ご近所は つかず 離れず さりげなく!
5班	回覧板 渡しながら声掛け コミュニケーション!!



居場所ってなに? その意識と実態調査始まる! 2,200枚依頼

9月25日までに、県内地域実践者、35市町社会福祉協議会、企業、施設・団体、学校等213ヶ所に2,200枚の調査票を依頼発送した。10月14日現在、22件、170枚(7.8%)の回答あり。

すでに、本会役員4名と、「若者発“居場所”あり方研究会」6名のデータ入力協力者がデータ入力体制を整えている。回収期限を11月20日としている。「第16回静岡県福祉文化研究セミナー」において進捗状況の概要を報告予定。ぜひ、調査回答にご協力を!

訪問研修活動を具体化 福祉コミュニティ再構築に向けた“居場所”を探る

今日、各地で取り組まれている「居場所」は、いろいろな形態で取り組んでいると考えられる。

No.	A	B
1	自然発生型	仕掛け型
2	単独型	併設型
3	対象非限定型	対象限定型
4	交流主体型	非交流型
5	自由形	プログラム型
6	有償型	無償型
7	コミュニティ型	志縁型

本会では、今年度の活動テーマ「居場所」を実践的視点から検証していく取り組みを計画している。

“集める居場所”から、“集まる居場所”への発想転換の時代。「共創社会研究会」委員の協力をいただき、11月～2月の4か月間に、県内6地区の「居場所」を訪問研修し、それぞれの居場所のこれまでのプロセスをもとに、課題解決の取り組みをまとめる。

- 東部…住民とコミュニティ組織協働の取り組み（自宅開放型・趣味を地域活性化に活かす取り組み）
- 中部…町内会・自治会を基盤とした取り組み（当事者の視点による取り組み）
- 西部…障がい者支援を含んだ市民主体の取り組み（地域性を活かした市民主体の取り組み）

事務局日誌拝見（9/25～10/25）

- 09/25 「居場所ってなに？その意識と実態調査」個票発送作業実施／Our Life 113号発送
- 09/30 第186回委員会開催／第2回公開型研修会開催（40名参加）
- 10/04 9/25に発送した「平成29年度・居場所ってなに？その意識と実態調査票」の回収始まる
- 10/07 第2回焼津市「港地域ささえあい講座」に、本会及び若者発“居場所”あり方研究会協力支援
今回は「若者発ご近所福祉かるた」を使用して「ご近所福祉あれこれ」のワークショップ展開
- 10/08 データ入力協力者6名確認し、早急に協力依頼文書送付作業検討
- 10/10 焼津市南部地域包括支援センターに「若者発ご近所福祉かるた」及び「拡大かるた」貸出
- 10/16 「平成29年度・居場所ってなに？その意識と実態調査票」の回収作業
本日までに、172枚（7.8%）回収し、データ入力作業に入る（本会古屋氏取り組む）
ふじのくに未来財団に、これまでの助成事業の取り組みを報告
- 10/24 共創社会研究会委員への第2回研究会案内と第16回研究セミナー開催案内準備作業
- 10/25 Our Life 114号発送／第16回静岡県福祉文化研究セミナー開催案内周知

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか？

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、平成28年度に21年の節目を迎えました。平成29年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費：社会人 3,000円 大学生以下 1,000円

◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗 3-7-15-5
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

編集後記

ふじのくに未来財団をはじめ、県社会福祉協議会ふれあい基金、あしたの日本を創る協会等の助成事業により、本会の今年度の活動は活気が出ている。地域活動には、「拠点確保」「財源確保」「人財確保」3つの要素が求められる。幸いに、本会は、関係機関・団体との連携のもとに継続した活動を維持することが出来ている。特に、今年度の調査研究活動は、若者発“居場所”あり方研究会との協働により、2,200枚の調査個票の発送作業後のデータ入力は、すでに6名の協力により、いつでも作業できる体制が整った。感謝。

Our Life 115号

- ＊内 容＊
- 「福祉文化研究セミナー」の原点から、「福祉文化」と市民性を学び合う……P.1
 - 1,443枚の調査票回収！「居場所ってなに？ その意識と実態調査」いよいよ分析作業に…P.2
 - 全委員出席による「第2回共創社会研究会」議論深まる
「ボランティア等善行功労賞」受賞……P.3
 - 事務局日誌拝見／今後の本会関連事業予定／本会入会案内／編集後記……P.4

「第16回静岡県福祉文化研究セミナー」で、「福祉文化」は55年前から私たちに呼びかけている。その原点を市民22名とともに学び合う。

第16回を迎えた「静岡県福祉文化研究セミナー」に、22名が参加して11月25日（土）、静岡市清水区追分「寄ってっ亭」で開催した。今回の研修テーマは、「静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所」。

平成14年11月30日・12月1日の2日間、裾野市、裾野市社会福祉協議会、社会福祉法人富岳会の全面協力のもと、裾野市市民文化センターにおいて、全国各地から650名の参加者が「富士山麓 いのちとくらしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに、熱く議論。そして、静岡県から「福祉文化の火」を消さないためにも、この大会を「第1回静岡県福祉文化研究セミナー」として、繋ぎ続けて16年。人々が、ささえあいながら、住み慣れた地域で暮らし合う地域環境をいかにして創り出すか、地域の現状をしっかりと把握しながら、「共助」による福祉コミュニティ構築に向け、「集まる、地域ぐるみの居場所」の実現に向けたプロセスを学び合った。また、「居場所ってなに？ その意識と実態調査」の取り組みのプロセスを報告、ワークショップでは、これまでの「居場所議論」をさらに深め合い、「実現したい居場所」を検証した。

主な「実現したい居場所のキーワード」を挙げると、「応能な負担で経費を捻出」「会話・笑顔のあるプログラムを持たない自由な居場所」「趣味・出会い・生きがいを生み出す環境」「自分も役立っていると思える、価値観の交換と互いに認め合う場」「対等な関係が維持できる場所」「身近な生活圏域の情報が得られる場所」「生活圏域で歩いていける範囲・移動が困難でない場所」「食育が体験できる環境」「生涯学習の場所」「企業の理解が得られる場所」「世代を超えたふれあい交流の場」「地域ボランティアの育成の場」「趣味・健康を伸ばせる場所」…etc.

セミナー参加者からは、「アイスブレイクの導入で、次のプログラムが話しやすかった」「ワークショップは、みんなの意見が集まり、大きな渦を生み出すことがよく解った」「和やかさが感じられた 地域での研修環境の改善に参考にしていきたい」「自由に出入りする“居場所”であっても、経費（財源）は根本的に考えたい」「あらためて、「福祉は文化」という重みのある言葉、内容を考える機会を持ち良かった」「自分たちの地域、自治会のあり方などの課題を浮き彫りにして、気兼ねなく「集まる居場所」の実現に向けて努力していきたい」「居場所がいろいろなところにあると、問題解決につながる」…等の意見をいただいた。さらに、「福祉文化の火」を消さないためにも…



1,443 枚の調査票を回収できました！！

「居場所ってなに その意識と実態調査」いよいよ分析作業開始です

「静岡福祉文化を考える会」は、この 22 年間、「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

今年度の調査研究活動は、福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言」を課題に取り組んでいる。これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、「家庭機能」のあり方を問いつつ、既存の「居場所」の現状を整理し、県民の意識と実態調査結果から浮き彫りになった内容をもとに、これからの福祉コミュニティのあり方を問い質し、「真の居場所」の開拓と共に、その「地域の担い手」を検証することとしている。県内 213 箇所、2,200 枚の調査票を送付した結果、11 月 10 日をもって回収を終えたが、調査票の回収状況は、下記の通りである。

No.	依頼先	個所数	依頼枚数	箇所実数	回収実績枚数	回収率
1	会員	24	240	11	80	33%
2	地域実践者	150	870	73	640	74%
3	市部社会福祉協議会	23	690	17	428	62%
4	町部社会福祉協議会	12	240	11	135	56%
5	施設・団体・企業	4	160	4	160	100%
	計	213	2,200	116	1,443	65%

調査実施にあたり、当初、回収目標を 1,000 枚としたが、実に、予想をはるかに超え、1,443 枚の調査票を回収することができた。地域活動は、単に、啓発活動として取り組めばよいのではなく、問題を改善・解決につなげるためには、「調査に始まり、調査に終わる」ことこそ重要であると認識する。尊い 1,443 枚の解消した個票をこれから、しっかりと分析作業につなげていきたい。

【地域別回収状況】

地域	回収枚数	回収率
東部	739	51%
中部	379	26%
西部	325	23%
計	1,443	100%



これまでの調査研究活動 22 年を振り返ると、回答協力の多かった「調査」を年次別に挙げると、今回の回収実績は、4 番目に多い結果となった。

- 平成 26 年度「豊かに暮らせる地域づくり その意識と実態調査」……………1,673 枚
- 平成 25 年度「長寿者とつながるホッとすご近所づくり その意識と実態調査」……………1,671 枚
- 平成 24 年度「私にとって、家族ってなに？ その意識と実態調査」……………1,583 枚
- 平成 29 年度「居場所ってなに？ その意識と実態調査」……………1,443 枚**
- 平成 23 年度「地域と私の居場所 その意識と実態調査」……………1,440 枚
- 平成 22 年度「生活圏域における支え合い、本音に迫る調査」……………1,345 枚
- 平成 21 年度「長寿社会に関する県民意識と実態調査」……………1,341 枚
- 平成 12 年度「父親像に関する実態調査」……………1,320 枚
- 平成 20 年度「長寿者の生きがい その意識と実態調査」……………1,274 枚

既に、本会役員 4 名と、常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」7 名によるデータ入力作業に取り組み、いよいよ、これから、分析・考察を 12 月 10 日～1 月 10 日までに完了し、公表・報告は、平成 30 年 2 月に予定。この間、1 月には「第 3 回共創社会研究会」で議論し、3 月の報告書発行につなげる。

“自分の地域”をしっかりと把握すること 全委員出席による「第2回共創社会研究会」議論深まる

22年目の地域活動に取り組んでいる本会は、今年度「ふじのくに未来財団助成事業・静岡トヨタ(株)「ハイブリッド基金」助成事業」を受けて、「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業 一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言—」をテーマに、地域ぐるみでささえあう環境をいかに構築していくかを研究協議をしている。本事業を円滑に運営していくために、新たに、9月より各領域から構成された「共創社会研究会」(地区実践者、コミュニティ関係者、社会福祉協議会職員、若者領域、本会会員等16名の委員構成)を組織化し、3月末まで4回開催することとしている。11月11日(土)に、県総合社会福祉会館で開催した「第2回共創社会研究会」は、16名全員が出席した。今回は、「居場所ってなに」の地域ニーズを把握し問題提起をする「調査活動」、世代や領域を超えて地域総合型学習会とした「公開型研修会」の成果を議論しながら、これからのコミュニティを検証した。更に「実践地区検証活動」を12月~1月に取り組むに当たり、意見交換をした。研究協議の議論は、「事業報告書」にまとめ、県民に問題提起をする。

第2回研究会からいただいた主な意見は、「地域を取り巻く環境の価値観の共有の大切さ」「いろいろな意見をこうした研究会の場で共有していくことの意義は大きい」「NPOの居場所や施設の居場所等広く“なげる”ことの必要性を感じる」「狭い地域で、取り組んでいる現状から、幅広く、意見を参考にして、活かしていくことが大切」「議論を深めていくことは良い」「住民への啓発は更に継続していくべきである」「しっかりと、地域性を把握し、ケースバイケースで取り組むことが重要である」「地域全体に理解を広めていかなければならない。また、地域を動かすためには組織化活動も必要」「いろいろなことに気づき、伝えられるメッセージをこれからも努力していきたい」「居場所実践現場に学ぶ意義は大きい」など、積極的な意見が出された。

今回の研究会には、常葉大学・同好会「若者発“居場所”あり方研究会」会員3名が出席し、「どうやったら若い人の地域参加ができるかを、委員の皆さんと貴重な意見を聴き考えることが出来た」「面白さ、わくわく感がキーワード」または、「自分が何をできるかを考えていた。友達と地域活動に参加し、いろいろな人と関わる。できることを少しずつでも取り組みたい」などの意見を述べ合った。

各委員は、「何かを得て帰れる。若者の声を聞ける。自分たちの地域にもいる！若者のコーディネートが求められる」などを語った。



「福祉文化」を探求して21年 静岡市より「ボランティア等善行功労賞」受賞!!

本会は、11月23日に、静岡市役所において、静岡市功労者表彰条例により、「平成29年度静岡市表彰」を受けた。受賞内容は、「21年にわたり、一人ひとりが豊かに暮らし合える社会の実現を目指して「調査研究活動」や「公開型研修会」を通して身近な福祉課題について問題提起をするとともに、世代を超えた市民相互の学習の場を提供するなど、市民の模範となる活動に取り組んできた」と表記されている。

これを励みに、更に、規約に沿って社会提言をめざしたい。



事務局日誌拝見（10/25～11/30）

- 10/25 Our Life 114号発送／第16回静岡県福祉文化研究セミナー開催案内周知
10/26 調査票回収614枚（28%）
10/27 ふじのくに未来財団へ事業実施状況報告／当面の事業の取り組み協議
11/01 調査票回収772枚（35%）／本会が静岡市表彰決定との連絡をいただく
11/02 調査票回収900枚（41%）／データ協力学生との連絡調整
11/03 第2回共創社会研究会関連資料作成
11/04 調査票回収954枚（43%）
11/07 データ協力学生へ経過報告／調査回答協力者への礼状・送料等文書発送作業開始
11/08 小山町，御前崎市，湖西市等から調査に関する問い合わせあり（追加調査回答あり）
ふじのくに未来財団への事業実施状況経過報告／第2回共創社会研究会開催に関するマスコミ対応
11/09 第2回共創社会研究会関連資料作成
11/10 ふじのくに未来財団との連絡調整（11/30開催の活動報告会関連）
11/11 第2回共創社会研究会開催（全委員出席により研究討議展開）
本会支援の「第5回港地域ささえあい講座実行委員会」開催
11/14 実践地区訪問検証計画作成作業実施（訪問先打診作業）
11/16 本日までで、151名の調査協力者への礼状と負担額の支払い事務手続き実施
第16回 静岡県福祉文化研究セミナー準備作業実施（～11/24）
調査票礼状者及び地域実践者50名に「セミナー参加呼び掛け」実施
ふじのくに未来財団との連絡調整（調査票回収状況）
11/17 調査票回収1,417枚（64%）／本日をもって回収終了／学生協力者に調査票渡す
11/21 ふじのくに未来財団に出向き，経過報告（調査・研究会・実践地区訪問）実施
11/23 静岡市表彰式出席
11/24 調査票データ入力状況確認／第16回 静岡県福祉文化研究セミナー最終確認
11/25 第167回委員会開催／第16回 静岡県福祉文化研究セミナー開催
11/30 ふじのくに未来財団活動報告会に出席し，関係企業関係者との意見交換をする

【今後の本会関連事業予定】

- 12/24～01/19 助成事業に関する「実践地区訪問検証」の取り組み（県内6地区予定）
12/02 第4回港地域ささえあい講座開催
12/16 第6回港地域ささえあい講座実行委員会開催
01/13 第3回共創社会研究会開催

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか？

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、平成28年度に21年の節目を迎えました。平成29年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円

◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗3-7-15-5

静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

編集後記

いよいよ、「居場所ってなに？ その意識と実態調査」は、尊い1,443枚の回答をいただき、データ入力作業、そして分析作業へと移行する時期を迎えた。データ入力協力者7名の精力的な活動には頭が下がる。

「居場所」が今日的な「社会の課題」とも受け止められたのか、この22年間の調査研究活動では4番目に多い回収状況でもある。調査と共に、本会のような調査活動への励ましや、調査結果を期待している手紙が多い。

これまでのプロセスを大切に「福祉文化実践活動」として、努力を積み重ねていきたい。

Our Life 116号

内容

- 調査及び居場所活動検証訪問を「第3回共創社会研究会」で報告……………P.1
- 「居場所ってなに? その意識と実態調査」1,443枚の単純集計から…………… P.2
- 「居場所活動検証訪問」7か所から見えたものは…………… P.3
- 第3回公開型研修会のご案内/事務局日誌拝見……………P.4

調査及び居場所訪問検証活動を「第3回共創社会研究会」で報告

平成29年度ふじのくに未来財団助成事業・静岡トヨタ自動車(株)ハイブリッド基金により、「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態調査把握事業」実施に当たり、「共創社会研究会」(16名構成)を設置した。9月9日に「第1回研究会」を開き、研究会の方向性を確認し、その後、第2回を11月11日に開催した。ここでは、「居場所ってなに? その意識と実態調査」実施状況や、最近開所された県内7か所の「居場所活動検証訪問」計画説明や、「公開型研修会」から浮き彫りとなった「居場所」について議論し合った。1月13日(土)、静岡県総合社会福祉会館で開催した「第3回研究会」は、(1)調査研究事業「居場所ってなに? その意識と実態調査」単純集計結果概要報告、(2)「居場所活動検証訪問」経過報告、(3)「福祉コミュニティ再構築における地域ぐるみの居場所の提言報告書」作成説明等を受けて意見を交わした。

「調査研究事業」に関しては、この調査活動に関わった委員の立場から、「地区住民に協力を呼びかけた。言えば協力はしてくれるが、まだまだ、住民主体のこととしての関心は薄く、他力本願の人が多く感じた」「地域で居場所を実施する場合、“食”を入れた居場所は集まる」、また、「バブル期は、自治会不要説であったが、志縁から社縁に市民の動きがあるように感じる」「行政の関わり方の必要性」「企業人は、退職後、なかなか頭脳集団の肩書が落ちない 地域に顔を出さないプライド意識が働く」「いかに、多様なニーズに居場所づくりを取り組むか」「優しいイーダ-には集まるが、厳しいと集まらない傾向にあるのか」などの意見があった。

12月中旬から取り組んでいる「居場所活動検証訪問」は、7か所のうち、6か所の訪問が終わった状況を報告した後の論議では、「居場所を立ち上げた思い、今の町内会や自治会に託したいことがいろいろある。」「数年前に助け合いに積極的な自治会長がいたが、地域の役員が交代すると理解に差が出てくる。」「居場所の取り組みは、防災につなげていきたい。」「価値観の多様化 本音をなかなか語れない。」などの意見が紹介された。

最終回の第4回研究会は、3月10日(土)静岡県総合社会福祉会館において、本事業の総括を行う。



尊い 1,443 枚の調査票をもとに

「居場所ってなに？ その意識と実態調査」いよいよ単純集計から考察へ

22年目の本会「調査研究活動」は、福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業「一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言」を課題に取り組んでいる。これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、「家庭機能」のあり方を問いつつ、既存の「居場所」の現状を整理し、県民の意識と実態調査結果から浮き彫りになった内容をもとに、これからの福祉コミュニティのあり方を問い質し、「真の居場所」の開拓と共に、その「地域の担い手」を検証することとしている。調査依頼（実施期間）を9月25日～10月25日まで実施。

10月上旬から、本会役員4名と、常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」会員8名の全面的な協力を得て、回答いただいた、1,443枚の個票の入力作業が終了。その後「若者発“居場所”あり方研究会」の河野、村里両氏による入力後の単純集計作業が1月13日までに整った。

今後、2月上旬までに分析・考察が行われ、3月4日の第3回公開型研修会までに、公表・最終報告をする運びとしている。

今回の調査項目は30項目。考察は、(1)基本属性、(2)住民の生活状況、(3)地域との関わりの意識、(4)地域との関わりの実態、(5)地域を取り巻く望ましい生活環境、(6)地域参加の動向、(7)提言（自由意見）の7つの柱立てを以て、「報告書」にまとめることとしている。

現在までの単純集計において、明らかになった概要をここに紹介すると……

基本属性では、回答性別では、男性（40%）、女性（60%）、年代別では、60代（23%）、70代（18%）、20代（13%）、40代（13%）となっている。職業別にみると、無職（18%）、大学生等（17%）、会社員（15%）、主婦（14%）、居住形態別では、持ち家（85%）と多い。居住年数別では、30年以上（40%）、30年未満（19%）、20年未満（13%）。居住地域別では、街部（29%）、新興住宅地（26%）、農村部（19%）、山間部（11%）、海浜部（9%）同居家族形態では、親と子どもだけの家族（44%）、祖父母など同居の大家族（29%）、夫婦だけの家族（21%）、単身世帯（8%）と、基本属性から見ると、ある程度それぞれの領域にまたがった回答となっている。

● 各設問の「単純集計」から見えているポイントを挙げると……

1. 地域での暮らし……不安 50%（主な内容：災害、健康、家事、ご近所福祉、社会の仕組）
2. 地域活動への関心……あり 72%、なし 27% *なし3割近い
3. どのような地域活動に関心があるか…「災害・防災」「地域コミュニティ」「福祉ボランティア」
4. 今の地域に住み続ける……わからない（39%） *約40%がわからないの回答
5. 地域福祉活動について……わからない（40%）
6. 地域活動拠点はありますか……わからない（30%）
7. 福祉に関心ある地域か……わからない（30%）
8. 相談し合える地域か……わからない（30%）
9. 支え合いの体制のある地域か…わからない（20%）
10. 支え合いの環境設定は…
 - ① 気軽に参加できる環境でなければならない
 - ② 行動を共にする仲間がいる
 - ③ 生活と就労のバランス
 - ④ 経済とボランティアの成り立ちの問題
11. 望ましい地域の寄り合い処…
 - ① 語らい・思いが自由 ② 拘束的でない ③ 趣味を共有する
 - ④ コミュニティカフェ～食を伴う～
12. 支え合いの必要性……必要（90%）

→ *福祉活動を「見える化」する工夫必要



「居場所活動検証訪問活動」から、これからの“居場所”を考える

平成29年度「ふじのくに未来財団助成事業・静岡トヨタ自動車（株）ハイブリッド基金助成事業」として「福祉コミュニティ再構築と共助による“地域ぐるみの支え合い”の検証」をテーマに、「共創社会研究会の設置及び研究協議」「公開型研修会による検証研修」「居場所ってなに？ その意識と実態調査」と共に、「居場所活動検証訪問」に取り組むこととした。

今日、「真の居場所」は、本来家庭にあるはずであるが、弱体化した家庭機能を地域がいかに家庭機能化していくことができるか、とりわけ、各地で、様々な地域課題をもとに取り組まれている「居場所」のうち、比較的、最近開所又は開所のために検討している、県内7か所（①東部：住民とコミュニティ組織が協働での取り組み、②東部：自宅開放型から地域活性化に向けた取り組み、③中部：町内会・自治会を基盤とした取り組み、④中部：当事者の視点からの取り組み、⑤中部：施設機能の社会化の取り組み、⑥西部：障がい者支援と地域拠点の取り組み、⑦西部：居場所立ち上げ検討協議の取り組み）に直接出向き、状況把握に努めている。

● 主な検証訪問内容

①団体・施設等を取り巻く地域環境と課題、②開設のねらい（動機）、③開設後の地域の反響、④参加者（利用者）の声、⑤団体・施設等の手応え、⑥今後の発展性と課題（「協働」「運営資金」「社会資源の活用」「啓発」…etc.）

● 具体的検証訪問会場

No.	研修先	訪問日時
1	焼津市 長者の森「カフェコラレ」	12月24日（日）11:00～14:00
2	掛川市 NPO 法人 風の家	12月26日（火）10:00～14:00
3	菊川市 市営団地 * これから、社協、民生委員、地域住民等により、居場所を立ち上げようとしている経過を学ぶ	12月26日（木）10:00～ 民生委員、団地関係者、社協関係者会議に同席し、これまでの経過とこれからを学ぶ
4	裾野市 千福が丘アートサロン	01月05日（金）10:00～14:00
5	焼津市 北川原公会堂内 「いcaずい北川原」(港第14自治会第12町内会運営主体)	毎週1～3週は火曜 10:00～15:00 第4週日曜日（但し、地域行事に振り替え有）
6	藤枝市 ほっとな居場所輪笑	01月12日（金）10:00～14:00
7	沼津市 県営原団地 ヌマツハラ県'Sルーム	01月19日（金）10:00～12:00

● これまでの訪問で把握できた主な点は…

A. 施設機能の地域開放、専門性と市民性の協働

- (1) 共創社会の創造に向け、いかに地域住民に「見える化」していくか
- (2) 専門性と地域資源の有効活用

B. 障がい者との共生社会の構築、NPO 法人の取り組み、空家開拓

- (1) 長年、福祉領域に従事されてきた関係者が、新たに市民主体の視点で、障がい者の地域参加を具体化。
- (2) 理論と実践をいかに融合していくかを、市民の立場に立って、専門性につなぐ実践活動の展開

C. 集合住宅（団地）内の居場所立ち上げ、民生委員活動、生活支援コーディネーター機能

- (1) 自治会、民生委員、住民、社協の連携による立ち上げ
- (2) 住民が、積極的に居場所立ち上げに関わる工夫

D. 町内会事業の位置づけ、公会堂の有効活用、新興住宅地化の世代間交流

- (1) さらなる町内会役員の意識改革（1期1年役員交代の継続性）の必要性
- (2) 地区住民に、あらためて「居場所」の必要性和運営協力の呼び掛け

E. 自宅開放型、趣味や特技を通しての生きがい、地域活性化

- (1) 「居場所」を運営される構成メンバー一人ひとりの、地域を思う熱い気持ちが伝わる
- (2) 「趣味」を共有する仲間づくりと、その「趣味」を通じての地域づくりへのプロセス
- (3) 「地域の“文化”と“福祉”に貢献するボランティア一般団体」そのもの

事務局日誌拝見 (11/25~1/31)

- 11/25 第187回委員会開催 第16回静岡県福祉文化研究セミナー開催(参加者21名)
11/26 第16回静岡県福祉文化研究セミナー事後展開(ワークショップ資料化)
11/27 Our Life 115号編集作業
11/28 調査データ入力作業状況打診/関係機関・団体との連絡調整
11/30 ふじのくに未来財団活動報告会出席
12/01 Our Life 115号発送作業実施
12/02 第4回港地域ささえあい講座協力支援/第3回共創社会研究会開催通知送付
12/08 実践活動検証訪問依頼文書送付/調査データ入力作業状況打診
12/13 菊川市社会福祉協議会との連絡調整(居場所立ち上げ協議出席検討)
12/14 研究会委員の実践活動検証訪問参加希望とりまとめ/調査データ入力作業状況打診
12/21 調査データ入力作業状況打診の結果, データ入力を完了した旨確認
12/24 実践活動検証訪問①(焼津市・長者の森 カフェコラレ)/調査データ入力作業状況打診
12/26 実践活動検証訪問②(掛川市・NPO 法人風の家)
12/28 実践活動検証訪問③(菊川市・市営団地内居場所設置協議同席)
12/29 調査データ入力協力学生への礼状発送
01/05 実践活動検証訪問④(裾野市・千福が丘アートサロン)/調査報告書作成検討作業
01/07 実践活動検証訪問⑤(焼津市・いかずい北川原)
01/08 第3回共創社会研究会関連資料作成作業/第3回共創社会研究事務的手続き
01/12 実践活動検証訪問⑥(藤枝市・輪笑)/調査は, 単純集計確認, その後クロス集計に入る
01/13 第188回委員会開催 第3回共創社会研究会開催
01/15 関係機関・団体への経過報告(関連資料送付)
01/19 実践活動検証訪問⑦(沼津市・原団地内)
01/20-30 Our Life 116号編集作業実施 発送作業

「第3回公開型研修会 -あらためて、今なぜ“居場所”か-」ご案内

- 期 日：平成30年3月4日(日) 13:30~16:30
- 会 場：静岡県総合社会福祉会館 1階 101会議室(〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70)
- 内 容：
 - (1) 基調(調査)報告①「居場所ってなに? その意識と実態調査」から見えたものは何か
 - (2) 基調報告②「地域ぐるみの居場所をめざす」
 - (3) グループワーク「一人でも安心して暮らせる地域づくりを考える」

* 参加希望者は、電話・FAX(T/F: 054-624-1924)等で、静岡福祉文化を考える会 平田厚まで

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか??

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、平成29年度に22年の節目を迎えました。平成29年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

- ◇ 会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円
- ◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗3-7-15-5
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

編 集 後 記

9月より取り組んできた「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業 -ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言-」助成事業は、いよいよ総括の3月まで、あと2か月ほどになった。この5か月間、常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」の支援のもとに、22年目の調査研究事業はまもなく公表の運びとなる。若者のパワーは「福祉を文化にする」大きな存在でもある。実に大きい。そろそろ、平成30年度の活動の方向性を明らかにする時期。13年前の「子ども」をスポットにはどうか。

静岡福祉文化を考える会 22年の歩み

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関紙発行
1995年 平成7年		★第10回福祉文化・静岡公開現場セミナー 「静岡発みんなで語ろう福祉文化を21世紀の礎に」 (浜松市 浜松こども園) 全国から350名、スタッフ80名		
1996年 平成8年	結婚とは	○設立総会(平成8年9月) 第1回公開型研修会「高校生の環境マップづくり」		No.1, 2
①	○第2回公開型研修会 「青年は広野をめざす」			
	○第3回公開型研修会 「おいしい結婚まずい結婚」			
1997年 平成9年	共働き	○総会・第1回講演会・研修会(座談会) 「家庭と地域と施設を語る」	第1回共働きに関する意識調査	No.3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
②	○第2回研修会 現場研修 「老人施設と自立した長寿者」			
	○第3回研修会 宿泊研修セミナー 「世代・領域を超え、福祉文化を語る」			
	○第4回公開研修会 講演会 「高齢者介護の問題点」			
	○第5回研修会 現場研修 「特養での実習・長寿者と語る」			
	○第6回研修会 公開セミナー 「共働きについて」			
1998年 平成10年	地域とは	○総会・第1回ミーティング(研修会) 「お互いに肌の付き合いを」	第2回地域に関する意識調査(その1)	No.10, 11, 12, 13, 14
③	○第2回研修会 現場研修 「地域社会での活動」			
	○第3回研修会 宿泊研修セミナー 「世の中どうなってるの?」			
	○第4回研修会 現場研修 「障害児によせる地域の人たち」			
	○第5回研修会 「映画より 障害者の声」			
	○第6回研修会 参加型公開シンポジウム 「歩けなくなる日がやってくる」			
1999年 平成11年	家族とは	○総会・第1回研修会 「私たちにとって地域とは何か」	第3回家族に関する実態調査	No.15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22
④	○第2回研修会 合宿体験セミナー 「福祉の裏と表」			
	○第3回研修会 現場研修 「在日外国人と日本語、母国の文化」			
	★第18回日本福祉文化学会現場セミナー 「宮城まり子さんと福祉文化を学ぶ」			
	○第4回研修会 公開シンポジウム 「私たちにとって家族とは」			
2000年 平成12年	父親とは	○総会・第1回公開トークシンポジウム 「今日まで そして明日から」	第4回父親像に関する実態調査	No.23, 24, 25, 26
⑤	○第2回研修会 合宿体験セミナー 「親と子 それぞれの言い分」			
	○第3回研修会 公開シンポジウム 「福祉文化へチャレンジ 障害者の余暇文化」			
	○第4回研修会 公開セミナー 「私たちにとって父親とはなにか?」			

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関紙発行
2001年 平成13年	ボランティア 活動とは	○総会・第1回公開トーク 「ボランティアはただ働きの代名詞か」	第5回ボランティア活動実践者の実態調査	No.27, 28, 29, 30, 31
⑥	○第2回研修会 公開型合宿セミナー 「何か変だぞ？ボランティア活動」			
	○第3回研修会 国際年2001年ボランティアEXPO 「ボランティアはただ働きの代名詞か」			
	○第4回研修会 公開シンポジウム 「ボランティア実践者意識調査の報告」			
2002年 平成14年	働く人の暮らし	○総会・第1回公開トーク 「福祉文化の原点を探る」	第6回働くこと・生きること、 生活者の意識調査	No.32, 33, 34, 35
⑦	○第2回研修会 合宿セミナー 「福祉文化の創造とは」			
	○★第13回日本福祉文化学会大会inしずおか ○第1回静岡県福祉文化研究セミナー 「富士山麓いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」			
	○第3回研修会 公開トーク 「生きること・働くこと楽しいですか」			
2003年 平成15年	青年の生きがい	○総会・第1回研修会 「精神障害者の生活支援と余暇文化」	第7回青少年の生きがい・ 就労に関する意識調査	
⑧	○第2回研修会 合宿体験セミナー 「大人の言い分 青少年の言い分」			
	○第3回研修会 公開型研修会 「青年の生きがいを探ろう」			
	○第2回静岡県福祉文化研究セミナー 「大人も子どもも障害者も高齢者も豊かに生きるための福祉文化」			
2004年 平成16年	地域とはⅡ	○総会・第1回公開トーク 「福祉文化を創造する地域づくり」	第8回地域に関する意識調査 (その2)	No.36, 37, 38, 39
⑨	○第2回研修会 合宿セミナー 「町づくり・こんな町に住みたい」			
	○第3回静岡県福祉文化研究セミナー 「地域福祉と福祉文化活動」			
	○第3回研修会 公開研修会 「検証／福祉文化と地域づくり」			
2005年 平成17年	子どもたちを 取りまく諸問題	○総会・第1回研修会 「福祉文化の原点を探る～子どもと地域をつなぐ」	第9回子どもと保護者の意識調査	No.40
⑩	○第4回静岡県福祉文化研究セミナー 「つながる地域に、福祉文化を発信できる新たなまちづくりを語ろう」			
	※「はっぴい祭2005」 第2回研修会			
	○第3回研修会 公開型トーク 「大いに語ろう、地域ぐるみで子ども達を育むには」			
2006年 平成18年	子どもたちと 地域環境	○第1回総会・自由討議 今後の「静岡福祉文化を考える会」の再生に向けて	第10回子どもと社会環境 に関する調査	No.41, 42, 43, 44, 45
⑪	※「わんぱくあそびフェスティバル2006」 第2回研修会 公開型研修会			
	※「はっぴい祭2006」 第3回研修会 公開型研修会			
	○第5回静岡県福祉文化研究セミナー 「静岡から発信する『福祉文化の創造』とはなにか」			
	○第4回研修会 座談会 「子どもたち、その実情とこれからを・・・」			
	○第5回研修会 公開研修会 「地域ぐるみで子どもを育む講座」			

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関紙発行
2007年 平成19年	団塊の世代	第1回研修会 公開型研修会 全国一斉「あそびの日」キャンペーン事業 ※「わんぱくあそびフェスティバル2007」	第11回「地域活動」と「団塊の世代」の役割に関する調査	No.46, 47, 48, 49
⑫	○総会・第2回公開トーク 「世間は団塊の世代を議論しているが…」			
	第3回研修会 公開型研修会 ※「はっぴい祭2007」			
		○第6回静岡県福祉文化研究セミナー 「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」から何が見えたか		
2008年 平成20年	長寿者(高齢者)の自立	○静岡福祉文化を考える会10周年記念誌発行 ○総会・第1回公開トーク 「地域で豊かに暮らし合うための条件ー長寿者と福祉文化ー」	第12回県共募助成事業 長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査	No.50, 51, 52, 53, 54, 55
⑬	■第2回公開型研修会 (県委託事業) 「ほっとする居場所、ここが一番居心地がいい」			
	■第3回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉inぬまづ」	第13回県委託事業 日常生活と福祉情報に関する調査		
	■第7回静岡県福祉文化研究セミナー (日本福祉文化学会ブロック研修)(県委託事業) 「長寿者とともに暮らす 共生社会づくりの担い手は一体誰か？」			
	■県委託事業「ひとりでも安心して暮らせる地域づくり4地区モデル事業」(沼津市、富士川町、掛川市、袋井市)			
	第25回中日ボランティア賞受賞			
	平成20年度「みずほ福祉助成財団」より助成			
	第6回静岡市社会福祉大会会長表彰受賞			
	■平成20年度県委託事業関係者連絡会 2回(7月、3月)開催			
2009年 平成21年	長寿社会(地域づくり)	○総会・第1回公開型研修会 公開トーク「共生社会と福祉文化」	第14回県委託事業 長寿社会に関する県民意識と実態調査	No.56, 57, 58, 59, 60
⑭	■第2回公開型研修会(県委託事業) 現場小セミナー 「私にとっての心安らぐ居場所って何処？」 ー自宅以外の『もうひとつの家』誕生地域の支え合いを学ぶー			
	■第3回公開型研修会(県委託事業) 現場小セミナー 公開トーク 「協働による福祉社会再構築と福祉文化を大いに語ろう」			
	■第8回静岡県福祉文化研究セミナー パノラマ式討論 「長寿者とともに小地域をつなぐ仕組みづくり実現にむけて」			
	■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 4地区モデル事業(小山町、伊豆の国市、焼津市小川第11自治会、菊川市)			
	■第4回公開型研修会(県委託事業、焼津市小川第11自治会主催) 「ご近所福祉インこがわ」			
	■第5回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉inぬまづ」			
	第5回福祉文化実践学会賞受賞 (平成22年2月28日に日本福祉文化学会第20回東京大会で受賞)			
	■平成21年度県委託事業関係者連絡会 3回(7月、11月、3月)開催			

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関紙発行
2010年 平成22年	生活圏域の支え 合い	○総会・第1回研修(公開トーク) 「一人でも安心して暮らせる地域づくりの条件」	第15回県委託事業 いまこそ、地域社会に福祉 文化を拓く「生活圏域にお ける支え合いとはなにか、 本音に迫る調査」	No.61, 62, 63, 64, 65, 66
⑮	■第2回公開型研修会(県委託事業) 井戸端会議方式／徹底討論 「これからのご近所の支え合いはどうなるの?」			
	■第3回公開型研修会(県委託事業) 追跡討論 「サロンは何をめざすのか」			
	■第9回静岡県福祉文化研究セミナー オープン式KJ法に挑戦(第4回公開型研修会 県委託事業) 「これまでとこれから ー生活圏域の支え合いの仕組みづくりの提案ー」			
	■第5回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉inぬまづ」			
	■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 5地区モデル事業(藤枝市、磐田市、富士宮市、西伊豆町、沼津市)			
	■平成22年度委託事業関係者連絡会 3回(7月、11月3月)			
	△福祉コミュニティ講座 「ほっとする、私が主役の福祉のまちづくりにチャレンジ」4回シリーズ			
	△みんな仲間集まれ「ウェルフェア塾」 4回シリーズ			
	△特別公開型研修会 共生社会実現への道程研修会			
2011年 平成23年	生活圏域で一人 ひとりの居場所を 考える	○総会・第1回公開型研修会全体ディスカッション 「これまでとこれからー静岡発 福祉文化の創造ー」	第16回県委託事業 「地域と私の居場所その意 識と実態調査」	No.67, 68, 69, 70, 71, 72
⑯	△福祉コミュニティ講座(第2回公開型研修会) 住民主体の「福祉コミュニティづくり」を学ぶ ー福祉施設とともに「福祉コミュニティ講座」を開講ー4回シリーズ			
	■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 5地区モデル事業(富士宮市、西伊豆町、川根本町、袋井市)			
	■第10回静岡県福祉文化研究セミナー(第3回公開型研修会 県委 託事業) 「福祉文化の創造の原点に返ってー世代を超えて語りあうー」			
	第4回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催)「ご近所福祉inぬ まづ」			
	■平成23年度委託事業関係者連絡会 3回(8月、12月、3月)			
	■第5回公開型研修会(県委託事業) 「共生社会実現への道程研修会」			
	△「みんな仲間、集まれ『ウェルフェア塾』」(4回シリーズ)			

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関紙発行
2012年 平成24年	家族って何？ 私の居場所があるのか	○総会・第1回公開型研修会 「今、あらためて“家族の実情”に迫る」 —ご近所とつながる家族機能を考える—	第17回県委託事業 今、あらためて、“家族の実像”に迫る 私にとって、家族ってなに？その意識と実態調査	No.73, 74, 75, 76, 77
⑰	■第2回公開型研修会(県委託事業) 実践活動に学ぶ／グループワーク 「誰が担う？つながる地域 支え合う地域—世代を超えて、今こそ語ろう 考えようこれからの私の居場所」			
	△第3回公開研修会「実践活動から学ぶ—つながる地域・支え合う地域—」			
	■△第4回公開研修会『福祉コミュニティ講座—地域と家族のつながりを考える—』(2回シリーズ) —地域に“私の居場所はありますか—楽しいを創造する地域とは”			
	■第11回静岡県福祉文化研究セミナー(第5回公開型) 「福祉文化と家族—これまでの家族・これからの家族」			
	■第6回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉inぬまづ」			
	△■第7回公開研修会『共生社会実現への道程研修会』 「一人でも安心して暮らせる地域づくりとは—」			
	△福祉コミュニティ講座(第8回公開型研修会) 「ホットな出会い 楽しい遊び」			
	△「みんな仲間、集まれ『ウェルフェア塾』」(6回シリーズ)			
	■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 5地区モデル事業(熱海市、牧ノ原市、掛川市、西伊豆町、富士宮市、沼津市)			
	■平成24年度委託事業関係者連絡会 3回(7月、12月、3月)			
	平成24年度静岡県社会福祉協議会会長賞受賞			
2013年 平成25年	ここが一番ホッと する私たちのご 近所の居場所づくり	○総会・第1回公開型研修会 「つながるご近所の再構築の決め手は？」	第18回県委託事業 ホッとするご近所づくり その意識と実態調査	No.79, 80, 81, 82, 83
⑱	■第2回公開型研修会(県委託事業) 住民主体でご近所を診断 「長寿者が輝く これからの“ご近所”を創る」			
	■第3回公開研修会「ご近所の支え合いの取組みを学ぶ—実践事例からの検証—」			
	■第4回公開研修会 (第12回福祉文化研究セミナーとして開催) 『誰がご近所福祉を創るか、これが一番、ホッとする支え合い』			
	■第5回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉inぬまづ」			
	■第6回公開研修会 「長寿者から学ぶ“ご近所福祉”」大石さき様宅訪問			
	■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 7地区モデル事業(熱海市、牧ノ原市、沼津市、長泉町、島田市、御前崎市、森町)			
	■平成25年度委託事業関係者連絡会 2回(7月、3月)			
	■ご近所福祉カルタ制作(次年度継続)			

2014年 平成26年	人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり	○総会・第1回公開型研修会 「福祉文化ってなに？その①豊かに暮らしあえる地域を大いに語ろう」	第19回県委託事業 豊かに暮らせる地域づくり その意識と実態調査	No.84, 85, 86, 87, 88
⑱		■第2回公開型研修会(県委託事業) 「福祉文化ってなに？その② 地域の豊かさとは何か」		
		■第3回公開研修会(県委託事業) (第13回福祉文化研究セミナーとして開催) 「静岡発 福祉文化の創造－人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり－」		
		■第4回公開研修会(県委託事業) 「鈴木君なぜ地域参加するの？ 山田君なぜ地域参加しないの？」		
		○第5回公開研修会 「地域の豊かさとは－静岡発 福祉文化活動からの検証－」		
		■若者の「訪問型研修会」から長寿者を取り巻く地域問題解決の提言 計10回、延べ152名が訪問		
		■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 6年間の実践的活動地区の総合的検証		
		■共創社会実現研究会(23名の委員構成)の設置と4回開催		
		■ご近所福祉カルタ制作に向けた協議 ○あしたの日本を創る協会「生活会議」事業の取り組み(助成事業)		
2015年 平成27年	静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり	○総会・第1回公開型研修会 「今こそ、静岡発 福祉文化の創造をめざして 豊かな地域づくりを語ろう」	第20回 若者の地域参加 その意識と実態調査	No.94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103
⑳		○第2回公開型研修会 「地域住民が集まる居場所とは」		
		○第3回公開研修会 「私の地域を知っていますか、まずは地域の豊かさづくりから」		
		○第4回公開研修会 「地域ぐるみの学び合いで語れる環境を創る」		
		○第5回公開研修会 「福祉課題解決に、私の地域の社会資源をどう活かすか」		
		○第14回静岡県福祉文化研究セミナー 「静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり」		
		○第6回公開研修会 「福祉情報の共有化と地域の支え合い」		
		○第7回公開研修会 「20年をこれからの原点に一当たり前のことが当たり前に出来る地域とは－」		
		○若者発ご近所福祉かるたの創作と地域学習の開拓 県共同募金助成事業(100セット)		
		○「共創社会実現研究会」設置(12回開催)		
		○「若者発”居場所”あり方研究会」設置(9回開催)		
		○静岡福祉文化を考える会20周年記念誌発行(200部)		
		○あしたの日本を創る協会「生活会議」事業の取り組み(助成事業)		

静岡福祉文化を考える会規約

第1章 総則

第1条（名称）この会は、静岡福祉文化を考える会と称します。

第2条（事務所）この会の事務所（連絡先）は「☎420-0841 静岡市葵区上足洗3丁目7-15-5」に置くこととします。

第2章 目的・事業・活動基調

第3条（目的）この会は、さまざまな福祉・ボランティア活動に携わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考えその改善のために努力していくことを目的とします。

第4条（事業）この会は、前条の目的を達成するため、つぎの事業をおこないます。

- ① 情報交換活動
- ② 啓発・広報活動
- ③ 人的交流
- ④ 研究会・講演会・セミナーなどの開催
- ⑤ その他、この会の目的を達成するために必要な事業

第5条（活動基調）この会の活動は、つぎのような基調を守っていくこととします。

- ① さまざまな分野で活動する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図ります。
- ② 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざします。
- ③ 既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切にし、つねに市民生活に密着した活動をめざします。

第3章 会 員

第6条（会員の資格）この会の目的に賛同し協力をする個人。

原則として国籍・年齢・職業等を問いません。

第7条（入会）会員になろうとする人は、所定の申し込み用紙によって手続きをすることとします。

第8条（会費）会員は、規約により会費を納入しなければなりません。

2. 既納の会費は返済しません。

第9条（退会）会員は、いつでも役員会に通告し、退会することができます。

2. 会費を1年以上滞納した人は、委員会において退会したものとしてみなすことができます。

第4章 機 関

第10条（役員） この会の役員は、代表1名、副代表1名、事務局長1名、委員、監事とします。

第11条（役員の選任） 代表、副代表、事務局長、委員、監事は、会員の中から互選し、会員全体会の承認を受けます。

第12条（役員の任務） 代表は、この会を代表して会務を総括します。

2. 副代表は代表を補佐し、代表に支障が生じた場合には、の職務を代行します。

3. 委員は、事業・研究・広報・会計・事務局事務などの会務を執行します。

第13条（役員の補充） 役員が任期の途中で退任した場合には、委員会で補欠を選任することができます。

第14条（会員全体会） 代表は、年1回は、会員の全体会を招集しなければなりません。

2. 代表は、委員会が必要を認めたととき、または、会員の3分の1以上の請求があったときは、会員全体会を招集しなければなりません。

第15条（委員会） 代表は、年4回程度、委員会を招集しなければなりません。

第16条（議 決） 会員全体会の議事は、出席会員の過半数をもって決することとします。

第5章 会 計

第17条（経費） この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてます。

第18条（会費） この会の会費は、「社会人 年間3000円」、「大学生以下年間1000円」とし、原則として1回払いとします。

第19条（決算） この会の決算は、委員会の議決を経たあと、会員全体会の承認を得てこれを決定します。

第20条（会計年度） この会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わるものとします。

第6章 規約の改正

第21条（規約改正） この規約の改正は、会員全体会において出席会員の3分の2以上の賛成をえなければなりません。

附 則 平成8年9月1日施行

平成9年4月13日一部改定

平成18年4月30日一部改定

平成29年度
ふじのくに未来財団助成事業
静岡トヨタ自動車（株） ハイブリッド基金助成事業
ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言報告書

発行 静岡福祉文化を考える会
〒420-0841 静岡市葵区上足洗3丁目7-15-5
TEL & fax 054-246-1486
発行日 平成30年 3月30日
印刷所 (有) シブヤ印刷工芸社

平成30年3月30日 200部